可能ならしめんが爲め、ピンシン采地（ブロシヤ・スタルガルド郡）の約二十萬馬克の抵當を引受けたのであつた其の後に於ても國民抵當金融會社は力限り土地爭奪戰の渦中に參加した、而も常に波蘭人側の利益になるやうに行動した。

斯の如く、適當な利息を支拂へば土地の分割中に於ても其の後に於ても引續き抵當を引受けて呉れる獨逸の銀行を見出し得るものであるといふ經驗は波蘭の計畫に新しい可能の途を開いたのであつた。

（七）組合の土地分割

一八八七年十月十一日グネーゼンに於ける波蘭組合代表會議の席上トルンの國民銀行（バンク・ルドウィ）頭取イグナツ・ダニエレウスキは、組合を以てする波蘭の土地購買により拓殖委員會の購買に對抗する新しい試みに就いて一場の講演を爲した。夫れは數名の私人が全く個人的に企畫したる事業の經驗であつて、其の經驗を公開の討議に委せやうとするもので、大體左の如き事實を述べたのであつた。

トルン及クルム地方に八人の波蘭人がゐた。彼等の或者はトルンに於ける波蘭銀行の指導者であり、或者は夫等の郡の地主であつた、彼等はワルダウに於ける千五百モルゲン（約三百八十一町一反五畝）の負債に苦しんで居る土地を借りたのであつた。其の土地はグラウデンツから一哩半ばかりの處で獨逸人地方の眞中に存在して居た。其の土地の一方の側は獨逸の農民移住地並に國有林に接し他の側は獨逸人の采地に續いて居た、土地は荒れて居る上に負債があり、數年來賣物に出されて居たのであつた。ところがワルダウの或る土地仲買人が其の土地の一部分を四十三名の農民に分割し、殘りの土地には簡單な建物なども立つて居たのであるが或る入組んだ機會があつて普通以上に高い値段で賣拂つた。其の土地を買つた新所有者は其の仲買人に對し別口の土地で以て債務を負ふて居た爲め一層負債が增したことになり、何とか甘い方法で其の債務を逃れなければ破產もし兼ね間敷き有樣となつた。

其處で右の八名の者が其の所有者に其の土地を引受けることを申出たのであつた。但し其の土地を買取るといふことは問題には成らなかつた、何故なれば彼等は抵當債權者に支拂ふべき資金を有つて居なかつたからである。其の代り彼等は二十五戸乃至三十戸の波蘭家族を小作人として其の土地に移住せしめ毎年八千六百馬克の小作料を支拂はしめやうと考へた。それで此の仕事を世話する前記八名の者は波蘭の移住者を一の『小作信用組合』に結合させ連帶責任的に規則正しく支拂を實行せしむる義務を引受けた。

切場詰つて居る所有者は其の試みに贊意を表したので期日を定めて小作人募集を行つたところ其れも好結果を得た。其處で組合はワルダウの土地を毎年八千六百馬克の小作料を納めるといふことで三十ケ年間借りることにした。併し其の地主は彼の所有して居る他の地所で借りて居る負債の利子とし

で債權者に支拂はなければならぬ九千六百馬克と共に右の小作料をも其の債權者に支拂ふの義務があつた。（ワルダウでは數年來收穫はちつとも無かつた、勞働者を得ることが能きなかつたからである）。つまり地主は年々一萬八千二百馬克づゝを支拂つて全負債が償却し盡される迄夫れを續行する義務があるといふことになつたのである。三十ケ年後にはワルダウは負債を有しない土地として組合の財產となるといふ定めとなつた。

所有者は自己の境遇に何等の光明をも認めて居なかつたのでいつそ九萬馬克餘りの損失でもかまわないから其の土地を賣拂つて了はうとさへ既に決心をして居た程であつたから斯樣な大まかな期限の永い賃貸契約をも認容した。斯くして獨逸人地方の眞只中に特別の資金を用ゐずして波蘭の植民地が出來上り。其の團體は直に最寄りに在る波蘭國民銀行と連絡を保ち家屋建築の爲めに金融を受けた。

乃ちこつそりと千五百モルゲンの土地が獲得せられた次第である。

ダニエレウスキが代表會議の席上で此の報告を爲し右に似寄つた組合の設立を唱導したのに對し僧院長（プロスト）ワウルチニヤクは反對の意見を示した。即ち一例として引合ひに出されたワルダウの場合は一種の特例と見なければならぬ。何となればワルダウの地主は借金責めに合つて首が廻らず、彼の全所有地を土地仲買人に奪ひ去られんとする危險に瀕して居たが爲め如何なる條件をも認容したから事は成就したのである。地主が八千五百馬克の小作料を右から左に渡した上句九千六百馬克の利息を支拂ひ其の嫌な仕事の終りを三十年も後迄待つといふやうな場合は滅多にあるものでは無いと云ふのであつた。

此の討論があつてから後組合の土地分割計畫は一と先づ打切りのやうに見えた。尤も此の計畫は一般の興味を惹起した。けれども人々は此の計畫を以つて半成品と見て居つた。それは土地組合が此の計畫を實施し得るのは、土地分割中及後に於ても抵當の償却が濟む迄長年の間待つことの能きる債權者を見出し得て始めて可能であり效果あるものであつたからである。即ち組合の觀念は今や前節に述べた努力、即ち土地の分割が行はれても通告することなく其の土地に對して依然抵當貸を續行する如き抵當銀行を見出すこと丶一致して考へなければならなくなつた。

そして國民抵當金融會社の援けによつて此の方法が達成せられたる後、西プロイセン地主テオドル・フオン・カルクシタインといふ波蘭人が――此の人は組合の土地分割形式を造り上げたことに最も功勞のあつた人である――バンク・チームスキの專務取締役に任命されたが、彼は其の『就任の辭』に於て廣汎にして且つ多岐に亘る土地分割事業に盡瘁すべしといふことを聲明した。

テオドル・フオン・カルクシタインが一八八八年の末バンク・チームスキの管理を引受けた時、彼は、銀行が今後專心土地分割業務に服すること及其の他一切の計畫は後廻しにすることを要求した。彼はポーゼン及西プロイセンの到る處に夫のワルダウに於て最初の試みを爲したと同性質の組合を設置し

やうと欲した、そしてバンク・チームスキは是等組合の組織及財政に全然身を委ねるといふことにしたのである。

けれども彼に反對する者も決して少くなかつた。人々は左樣に廣汎な土地分割事業が一體可能なものであるかどうか頗る疑はしいものであると爲した。波蘭の國民經濟學者は既に久しい前から其の甚だ疑問であることを敎へて居るではないか。其の所謂廣汎なる分割計畫は未だ充分に統計的の調査を遂げて居ないではないか。然らば小さな土地を獲得し其の後高い値段を永年の勞働を以て償却することを欲する波蘭の移住民が存在するかどうかも誠に不確實である。又第一左樣な分割の爲めに故國に在留せんと欲する波蘭移民が果して幾らかでも資金を所有して居るかどうか、更に彼等を實際に組織的の團體に作り上げ得るかどうかを先づ第一に決定してかゝらねばなるまい、といふのが反對者の意見であつた。

カルクシタインは是等總ての疑を極めて巧妙な方法で除去し、彼の所謂『試驗的募集』に於ける結果を發表した。其の發表は讃辭を以て酬いられたが、それよりも其の眞面目さが一般社會により强く影響した。其の發表は大體左の如きものであつた。

カルクシタインは波蘭移住團を形成せんが爲め約二十戸乃至二十五戸の家族を募集する、應募者は一定の期日に分割せんとする土地に出頭すべしといふ廣告を爲した。其の當時四圍の情況が甚だ面白くなかつたので果して所定の期日に二十名の人が集まるかどうかは極めて不確實に思はれた。然るに實際に於ては其の十倍の人數卽ち二百名以上の人が來て分割地區の獲得を望んだ。此の群集から最も貧乏な者を拒絕した後で六十名の者を候補者として表に登記し彼等の財產狀態や人物に就き詳細を調査することにした。其の六十名の選擇の仕方は先づ獨逸の地主や農家に勞働者として雇はれて居た附近の田舍人や寄寓者の群から約三分の一（六十名の）を選んで候補者とし、第二の三分の一は波蘭の職工から採るやうにした、卽ち裁縫師二名、庭師二名、鞍師一名、鍛冶工二名、木工二名、車匠四名といふ割合であつた。殘餘は農家の倅、波蘭小作人及土地管理人の倅から採つて候補者とした。

是の六十名の候補者の中最初の百姓勞働者は各々約二十モルゲン（約五町一反四畝）の土地を望んだ、卽ち彼等は僅かの土地に小さい耕地を作り傍ら尙ほ日傭勞働を可能ならしめんと欲したのであつた。之に反し波蘭職工は皆小さな町から應募した者であつて四十モルゲン乃至五十モルゲン（約十町二段八畝乃至約十二町八反五畝）を望んだ、卽ち小農民に成らんと欲したのである。彼等は悉く貯金を有して居た。農家の倅、小作人及土地管理人等は四百モルゲン（約百二十八町）迄の大地域を獲得せんことを欲した。

是の六十名の候補者は總てで推測額九萬馬克の貯金を有し、或者は現金を携帶し或者は公共の貯金庫に預け入れて居た。

此の事業を行ふのに普魯西官憲の妨害に遭はんことを恐れ、募集廣告には國民性に關することは一切之を避けた。此の『民族平等』主義は成功した、本發表には簡單に『他民族分子は應募しなかつた』と數語が費された。

其後の募集では波蘭人の之に應募する者は一層增加した、殊に主として十五モルゲン（約三町八段五畝）以下の小勞作地を分配することに決した時には遙かに前よりも多い人數が押掛けて來た。

一八八九年から一八九〇年にかけてシトラスブルグ（西プロイセン）郡、シュローダ郡、コステン郡コシュミン郡に於て行はれた此の試驗的募集により移住者を缺くやうなことはないこと、又小さい地區を得て副業により利息の一部分を稼ぎ出さうとする波蘭農業勞働者や職工に對し可なり好い値段で土地を分配し得たこと、殊に夫は州内のいろ〳〵變つた地方に於ても同樣成功を收め得ることが證明された。

波蘭民族問題に關するテオドル・フォン・カルクシタインの功績は彼が斯くの如く實際の試みにより、住民中の如何なる階級が移住に適當したものであるか、又放任して置けば毎年數千となく米國に渡航する筈の群集に對し數モルゲンの土地を與ふることを約束しさへすれば彼等を故國に抑留することは如何に容易であるか、といふことを波蘭人に明示した點に存する。

それでも人々は、テオドル・フォン・カルクシタインが自ら左樣に良く承知して居た此の可能性を充分に利用し盡す術を了解して居なかつたとて彼を非難した。此の非難は無理からぬことである。バンク・チームスキは若し煩はしい（カルクシタインの）遣方さへ仕なかつたならば、今迄に爲し遂げた四倍程のことは易々と爲し了せたかも知れなかつた。カルクシタインは自ら組合組織土地分割の『發見者』で彼は實に彼一流の組織的方法を以てポーゼンと西プロイセンとに拓殖の試を爲した唯一人であると感じ、自ら此の兩州の『移民官』のやうな風を裝ふて居たのであつた　彼が當時組立てた移民の方式は非常に込入つたものであつて獨逸經濟學界でも相當知らるゝに至つた。或獨逸人は、波蘭人が普魯西の拓殖政策開始後五ヶ年にして早くも斯樣な組織系統を築上げたことに驚嘆し、之を以て天才的の力にして始めて良く致すところであるとさへ稱讃したけれど、而も一方彼に對して非難（波蘭人から）のある所から見れば、其の組織の込入つて居るだけに煩はしいものであるに相違ない。

兎に角此の兩州の各々には『スボルカ・チームスカ』（土地組合）なるものが一つ宛設けられた、一つはポーゼン市に、他はトルン市に位置を占めた。此の二つの組合は、一切を支配するバンク・チームスキの兩腕のやうなものであつて、各自各一州の土地分割業務を司つた。各種の移住者團は此の組合に隷屬したのであつて、賦拂金は皆此の組合に納入したのである、されば此の兩州に於ける二つの機關は年貢を納める農民の家來に取卷かれて居る形となつた。

兩組合は年貢を納める農民の家來に取卷かれてゐるやうに見えるといふ此の印象を、世間一般に喚

起することが明かに本事業全建設の目的であつた。何となればカルクシタインは此の兩組合を非常に信用の在るものに爲なければならなかつたからである。卽ち彼はバンク・チームスキの資本を土地抵當に固定させた、此の資本の固定が不安なものであつてはならない、兩州に於ける彼の各機關は農民の家來を從へてゐるので、自然公平なる信用を贏ち得るであらうと彼は思考し且つ其を願つたのであつた。此の目的の爲め兩組合は全土地の所有として登記されたのであつて、個々の移住者は組合の會員であつた。そうすると此の組合機關は無限責任の組合として二重の保證を提供することゝなる。第一は土地其の物であり、第二は波蘭全移住者の私有財產が夫れであつた。

創設者にとつて幸福なことには、本事業を建設するのに官憲から別に重い負擔を課せられたり、其の他困難なる試練を經たりするの要がなかつた。夫れは一八九一年恰度本事業の建設が完成すると同時に普魯西に於て所謂融和政策が始まつたからである。

第十章　一八九〇年より一八九四年迄（融和時代）

（一）波蘭政黨の勢力

前記の如く波蘭國は經濟的問題が次々に起り其の必然の結果として伯林に於ける波蘭黨は波蘭人の眼中から消失せることになつた。顧れば一八三一年から一八六三年迄は巴里に於ける波蘭エミグラチオンが波蘭全體の牛耳を執り、一八六四年以後は國際的波蘭人が分裂し、普領波蘭人を指導するものは伯林に於ける波蘭政黨であつたが、玆に說く融和時代を一期として波蘭黨は必ずしも國內波蘭人を統一支配する機關では無くなつたのである。

其は何故かと云へば今や普西政府との爭鬪は經濟問題の上に移り行き、政黨は以前學校問題に於けるが如く波蘭中央卽ち本國と密接な關係を保つて政府に楯突くことが能きなくなつたからである。彼等は以前敎會法に反抗したやうに拓殖政策の反抗に舊敎を利用することが能きなくなつた、されば彼等は本國から見れば最早無くては叶はぬものではなくなり、議會に發言權を有してゐるといふことが左樣に尊重せられなくなつたのであつた。一方波蘭の公衆として見れば刻下の重要事は伯林に於ける演說よりもポーゼンに於ける經濟事業である。巧妙な質問演說よりも良成績の銀行報告を聞くことに、より大なる價値を置いた。議會に於ける波蘭黨の健鬪振りには大した期待も持たぬがポーゼンに於ける株式應募や組合の決議には多大の興味を有つやうになつたのである。

併し此の新しい道程、卽ち波蘭人が經濟上の防衞策に熱中するに至る前に、普魯西政府の波蘭政策が突然新い方向を執り從來ビスマルクが樹てた一切の計畫を滅茶々々に粉碎したのであつた。卽ちカイザア・ウヰルヘルム二世とビスマルク宰相との間に意見の衝突を來しビスマルクは一八九〇年三月八日遂に辭職し、ビスマルクの後繼者としてカプリヴヰ伯が任命されたので普魯西の波蘭政策は全然

一轉機を見ることゝなり之より再び迎合政策が始まつたのである。

之が爲め伯林に於ける波蘭政黨は一夜の中に未だ嘗て持つたことの無い種々なる意義と勢力とを獲得することが能き、ボーゼンに於ける經濟的事業は其れと反對に政治的頂點を失つた形となつた。

ビスマルクが臺閣を去つた後に此の變革を齎したる新政策は一の二重方針卽ち少しく矛盾したる二個の思想の上に樹てられたものであつた。第一の思想は、政府は政策の緩和によつて波蘭住民を懷柔することが可能であらうと考へたことであつて、第二の思想は波蘭人が一八九〇年に新しく更に三名の議員を增したので、政府當局は帝國議會に於て强大になつたところの中央黨（該黨は舊敎信者によつて組織されてゐる爲常に波蘭に同情し來つた）を抑制する爲め波蘭黨を政府の與黨たらしめやうと欲したことであつた。

之れでは第二の考は第一の思想を價値なきものと爲さずには置かない。政府は波蘭議員を政府の與黨に引込んで波蘭黨を秤の指針と爲し了つたが、其れが爲め波蘭人と交換政策（Do-ut-de-politik）を行ふの餘儀なきことゝなつた。政府が陸海軍議案の爲に波蘭黨の投票を必要とした（一八九〇年陸軍議案殊に一八九二年四月に於ける海軍議案に對し波蘭黨は政府案に贊成した）ことが間もなく世間一般に知れ渡り、其の結果波蘭人は自分が口說き落されたのだといふやうな感を持ち普魯西政府が何麼緩和政策を施しても夫れは當然の帳消である豫て波蘭人に對し政府は借りがあるから其れに對する迎合に外ならぬといふやうに觀て、波蘭人が普魯西政府の政策に援助を與へたことを非常に恩に被せるやうな結果となつたのであつた。

之より曩一八九〇年にウヰラモウヰツ＝モエレンドルフ男（彼はボーゼン州で生れ同州で人と爲り同州の官界に携つた政治家）がポーゼン州の總督に任命されたことは波蘭人に對する友情の一表現であるとして波蘭人の氣受が良かつた（併し彼は一八九九年迄其の位置にゐて波蘭政策には何等の功勞もなかつた）。一八九一年皇后が彼女の驃騎兵聯隊訪問（皇后は名譽聯隊長であつた）の爲ポーゼンに赴いた時にも波蘭の各協會からも歡迎を受けた。波蘭の政黨は從來の反抗を廢めた、又實際古い昔の推納條約を擔ぎ出しても始まらなかつた。斯く波蘭の氣勢が緩和し來つたのは一に政府の方針が然らしめたのである。

一八九一年初頭には波蘭人の努力の結果放逐實施規則（國外波蘭人の）の改正を達成することが能きた。次で同年四月には政府は一大讓步を爲した。夫れは一八九一年四月十一日に時の文部大臣ツェドリッツ伯が發布した省令であつてポーゼンの小學校敎員は校長の認可を得て學校の建物を使用し波蘭語の個人敎育を行つても差支へない、又波蘭語を以て宗敎科の私敎育を與へても良いといふ意味のものであつた。（其の後次の文部大臣ボッセは一八九四年三月十六日命令を出して右の私敎育を廢し、其の代り宗敎科敎授の補助の爲波蘭語の讀方と書方とを州內の小學校に再び採用せしめ、斯くして一八

八七年の波蘭語廢止法律を無效として了つた)。

政府の大讓歩は經濟政策の上にも表はれた。夫れは普魯西全王國に對しての地方振興策であつた。卽ち近代產業の發達の結果地方農民子弟が產業の盛な都會とか工業地に流れ込んで農業土地が閑却され地方が漸次衰微するのを患へ、政府は地方農民を鄉土に固着せしめ中級及下級農民の數を增加せしめん目的を以て一八九〇年六月二十七日地代農場法(レンテングーツゼツツ)(或は永代借地法とも云ふべきか、兎も角一八八六年の波蘭拓殖法と殆ど同樣の內容を有つたものを全王國に發布し年賦償還の法を以て中小農民の所有地增加を圖つたものである)を發布した。併し多くの土地は大抵過重の負債を擔つて居つたから此の法律を適用する場合が少く從つて最初の目的を達成することが能きなかつたので、一八九一年七月七日追加法を發布して國家が資金を融通したり擔保に入つてゐる土地を分割するに際し債權者の承諾を經るを要しないといふやうな規則を設けて目的を達するやうにした。而して此の法律は全王國に適用されれ從つてポーゼンや西プロイセンにも適用して盛に波蘭農民の所謂內地殖民を援助したのである。普魯西には前から共有地淸算局(Generalkommission)なるものが各地方にあつたが、右の法律が發布せらるゝやブロンベルグ共有地淸算局に金融援助の件を委ねた。其處でブロンベルグの共有地淸算局は波蘭のバンク・チームスキに接近することになつたのである。バンク・チームスキは當時困難な狀況に墜入り將に沒落の憂目を見やうとして居たところであつたが今や共有地淸算局と個人事業との間に於ける仲介者として働き同局の援助によつて漸く經濟的に復活することが能きたのである。同銀行は共有地淸算局と共同して地代農場の設置に盡力した、勿論波蘭農場の增加を計つたのである。然るに一方には同一州內に同一目的を有した拓殖委員會が存在して依然獨逸農民の土地所有增加の爲に働いて居るのであつた。共有地淸算局は斯くして波蘭銀行を援助し其の共同動作によつて同銀行に經濟的民族的利益を與へることになつたのであるが、此の波蘭側の利益に就いては當局はちつとも考慮しなかつた。(波蘭對抗機關との此の提携は一八九四年迄續き拓殖委員會の事業と直接背反し來つたのである)。

尙ほ重大なる結果を波蘭人は組合制度の上で掴んだ。組合法の定むることころに依れば組合は官廳の檢査官の檢査を受けなければならなかつた。然るに商務大臣は個々の組合に自ら檢査役を置くの權利を與へた。此の權利は一八九二年ポーゼン及西プロイセンに於ける波蘭の組合同盟にも與へられた。之が爲波蘭の財政制度は法的單位として結合し官廳からは全然獨立したものとなることが能きたのである。

政府の讓歩は之のみに止らぬ。一八九〇年獨逸人の大僧正ヂンダーは薨去した。僧會は波蘭人であるフローリアン・フォン・スタブレウスキを選擧した。此の人は一八七〇年代の終に文化戰に於て政府に激しく反對した人であつた。政府は此の人が大僧正の椅子に坐ることを承認した(一八九二年三十日に)。其の承認に際して政府が期待したところは、之が爲に波蘭の土地と普魯西とを、又進では獨逸

の祖國とを連結すべき帶を鞏固にすることに與つて少からず效果があるだらうといふのであつた(此の期待は全然誤つて居た)。

右に述べた是等一切の結果はボーゼレに於ける鄕土的事業によつて達成せられたのではない。悉くこれ波蘭政黨の交換取引によつて贏ち得たものである。實際一八九〇年以來の『融和時代』に於ては波蘭人にとつては伯林に於ける彼等の代表者達の努力以上に眞の效果ある政治的手段は無かつたのである。而も其の政黨の牛耳を執つて居た人はヨゼフ・コスチールスキといひ輕快なる精神の持主で巧妙なる策士であつた。

波蘭の貴族僧侶的上流社會は民主的運動に對して自己の立場を鞏固にせんが爲此の機會を熱心に利用した。此の時代には政黨卽ち貴族僧侶的色彩を有つた勢力が非常に盛であつたから再び前時代に於けるが如く一切の事は悉く宮廷に於て時めく波蘭貴族の巧みなる外交手腕に俟つべきものであるといふことが一般波蘭國民に明かにされたのであつた。

民主的運動は既に可なり强大に赴いてゐたので貴族黨の之れ位な功績によつて必ずしも壓迫し了せられるものではなかつたけれども、而も其の地步は疑もなく失はれてゐた。其の理由は何しろ貴族黨が着々と效を奏するので、國民的機關(農民協會及組合)も臨機應變の處置に出で巧妙なる對立者として一時節を屈しつゝ勤王者乃至は有力者に加擔を爲し以て、孰れは長續きもしないであらうと思はれる政府の恩惠から今のうちに能きるだけ多く自分達の爲になるものを引き出して置かうと欲したからであつた。

波蘭の組合は當時普魯西官憲と融和の態度に出でなければならぬ理由が充分にあつた、といふのは彼等は恰度一八八九年の組合法によつて脅威を感じてゐるところであつた。卽ち其の法律は波蘭人にとりて非常に不利なる項目を含んでゐるのであつて、前述の如く總ての組合は規則的に官憲の檢査を受けなければならぬといふことが規定されてあつた。檢査官は法廷から任命されることになつてゐた。併し此の官憲の監督も同法律第六十一條に依り免れることが能きた。夫れは併し固有の檢査役を立てて可なりといふ特權を普魯西商務大臣から與へられた組合同盟に限つての話であつた。

ところが其の當時迄は別に官憲の支配を受けることなく暮して來た波蘭組合にとつては右の規則は大なる痛棒に値した。彼等は法廷が任命した檢査官がやつて來て諸帳簿や金庫や往復文書を一々眼を光らして調べることを豫想して堪へられぬことのやうに感じた。此の事は波蘭人にとりて如何に不快に感ぜられたかは、一八八八年十月此の法律案が討議に附せられた時波蘭組合會議が官憲の行ふ如何なる檢査にも同意することが能きないとて盛に抗議したことに依つても明である。けれども此の抗議は他の抗議と同樣何等の效も奏せず一八八九年五月一日カイザアは受檢義務を命じたところの此の法律に署名して了つたのである。(此の時は未だビスマルクの世であつた)。

普魯西の商務大臣が波蘭人に固有の檢査役を立てゝ官憲の監督から免れさせる權利を與へるであらうかどうかといふことは當時頗る疑問であつた。(商務大臣が若し、組合同盟は組合間の取引關係を維持するのであるといふこと以外の目的を有するものであるといふ確信を有つてゐたら、又若し彼が組合同盟は受檢義務を滿足に充す狀態にあるのではないといふ確信を持つてゐたら、彼は權利の附與を拒むことが能きたのである)。此の疑問があつた爲組合指導の位置にある二三の人々は斯の如き狀況の下にあつて兩州に亘つて擴つてゐる組合同盟に對する責任を引受けることが能きないからどうしても分割しなければならぬと主張するに至つたのである。(一八八九年八月波蘭組合會議に於て此の問題が最も重要なる日程の一つであつて波蘭組合同盟を三分し、各部分が自ら其の組合同盟の發達に對して責任を負ふことにすべしといふ提案が出された)。斯の如き分裂は發育後日猶淺き波蘭財政制度から統一的力を奪却するもので危險此の上もない計畫であるとて、之れに反對する人々も現はれ、二ケ年の長きに亘つて論爭を續けたがとう〳〵普魯西商務大臣が波蘭組合同盟に固有の檢査役を立てる權利を與へたので漸く落着した。普魯西政府は此の權利の附與を後に至つて後悔したのであつたけれども、ボーゼン及西プロイセンに於ける波蘭の財政制度は此の權利の附與のお蔭で法律的に一致結合し官憲の支配から全く獨立することが能きたのである。

之は波蘭人にとつては融和時代に於ける最も重要なる成功の一であつて、統一的組合指導の力は實に當時普魯西商務大臣から贏ち得た權利附與の文書に根據を置くものである。されば優柔なるスツァマルツェウスキの後を襲ふたる賢きパトロンのワウルチニヤクが一八九二年秋の波蘭組合會議に於て感謝と滿足の意を表明したのは誠に故なきに非ず。彼は曰く、普魯西政府は隨分永らくの間考慮を回らしたが而も遂に波蘭組合が何等政治的煽動を行ふものに非ずと看取したのは予の欣懷とするところである。予の心は喜と滿足とに充ち滿ちてゐる。卽ち波蘭銀行は苦き經驗を嘗め來つたが遂に今や再び有機的な全一に結合することが能きたのである、之が爲吾人は共同の力を以て同一の利益を有しつつ同一の努力を續け、同じ民族同じ言語の鎖に依つて相互に結び付きつゝ同一問題の爲に盡力することが能きるのであると。

波蘭人が贏ち得たる是等の效果は悉く議會に於ける巧みなる交換政策に因るものであつて、之に對し民主々義側の運動は誠に影の薄いものであつた。併し其の指導者達は嚴しい批評や物々しい非難により躍起となつて保守派の成功にケチを付け貴族と其の周圍の者を『宮廷黨』と呼んで嘲罵し自ら『國民黨』と名づけて國民の利益を代表するものであると威張つた。斯樣な狀態であつたから波蘭人は茲に又しても表面二箇の黨派卽ち『宮廷黨』と『國民黨』とに岐れ、此の標語からして如何にも波蘭總體が二つの部分に分裂したものであるかの如き錯覺を起す人もあつた。併し之は素より大なる誤で、寧ろ融和政策に對する世間の輿論は此の二つの政治的團體を衡にかけ孰れが波蘭の爲に眞の效果を齎すか

兎も角或る期間だけは此の比較的小さい二團體をして總てを處理させて見やうといふのが其の當時の狀態であつた。卽ち極右傾には代議士とそれから勤王的態度によつて政治的勢力を得やうとする政黨の多數者が屬し極左傾には新聞『オレドウニク』を利用して民主思想を鼓吹せんとする舊『共和主義』の二三過激なる人々が屬したのであるけれども、此の兩者卽ち『宮廷黨と國民黨』との中間には政治に頭を使つてゐる人々の大多數が介在して隱忍自重し容易には他の行動を信ぜず、而も眼前の惠澤を逸せぬやう之を利用せんことに努めてゐたのである。而して其等大多數とは、宮廷の恩惠は左樣に永續きするものでないと考へてゐた眞面目な大地主、嚴格に波蘭民族的精神を固守してはゐるが批評時代には先づ自己を保留して置いて孰れの味方もしなかつた有數の市民卽ち商業家、それから右に述べたやうな利權を贏ち得んことを求めたる國民的機關等が夫れである。

斯く見來る時は波蘭の政黨政派なるものは落着いたものではなく極く一時的な性質を帶びてゐるのであつて、其の最後の形成は一に、融和政策の恒久性を保證せる宮廷黨が果して右翼に留つてゐるか否かに懸ることゝなつてゐたのである。是の不安定な狀態は波蘭人を驅つて、一八六三年以來再び觀ることの能きなかつた程の政治的興奮と神經過敏とに墜入らしめた。是の狀況は頗る不自然なものであつた。貴族の地主と僧侶とより成る小さな團體が當面の問題を支配してゐるのであるけれども、其は國民に何等の根柢をも有せず只宮廷の恩澤と議會の外交折衝とによつて支配し來つたのである。そして二三の封建的名門者流が波蘭國民の問題を個人問題のやうに取扱つてゐるので波蘭社會の全狀態は一種時代錯誤の觀を呈したのである。

海軍議案に贊成すべきか否か、陸軍議案に對する贊否如何、是等に就て貴族的な波蘭黨は選擧人の意思を少しも考慮することなく決定して了つた。而も其等の行動は、民主的運動が既に深く國民の中に根を下して居た時代に於て敢て冒されたのであつた。

內部に於ける斯樣な不都合は普通には堪へ得られるものでないが只宮廷黨が萬人の見て是認する程の效果を獲得するとか其の成功の希望や約束によつて國民運動を緩和し得る間だけは僅かに其の不都合も默殺されてゐることが能きる。從つて伯林に於ける貴族的政黨は勢ひ政府から常に反波蘭的法律の緩和や新たなる恩惠を反覆要求し以て自ら權勢の位置を維持して行かなければならなかつた。而も一方には『國民黨』卽ちオレドウニク團體があつて彼等(政黨)が獲得したるものを片端から嗤ふべきものである、取るに足らぬものであるとの批評を浴せて貴族的政黨の聲價を減ずることに努めてゐたのである。

斯くして次々に與へられる讓步毎に嘲罵騷ぎが演ぜられたが其の騷は遂に危機を齎らさずには措かなかつた。何故なれば孰れの點かで普魯西政府は『止め?』を號令しなければならなかつたからである。波蘭人に讓步したものを擧ぐれば、一　波蘭人の大僧正、二　波蘭の私敎育、三　波蘭組合自ら行ふ檢査

權、四　地代農場（レンテングーツゲアフ）法に依る波蘭移住組合の援助、五　諸法律の寛大なる適用等であつた。波蘭人は其の次は拓殖委員會の撤廢と小學校に教育語として波蘭語を採用することを要求した。是等の要求も亦最後のものではない、波蘭の各人は事の成行を見て知つてゐる。貴族政黨は其の存立の必要上絶えず新要求を政府に致さなければならなかつたから、右の要求が達せられたら直に次の要求が浮ぶのは成行上當然であつた。融和政策組立の缺點は普魯西政府が波蘭の政黨と伯爵の賣買契約のやうな取引を開始したことに横つてゐた。斯樣な取引は何處かで紛爭が發生せずには止まないものである。普魯西政府が波蘭人と折合ふことは絶對に不可能であるといふことは其の當時でも其の前でも後でも容易に斷言を許さないものであつたけれども、一八九一年に試みられた如き方法を以て折合を實現させやうとすることは事實不可能であつた。如何となれば波蘭黨自らに固有の力があるのではなく、只假りに籍されたる力を所有してゐたに過ぎぬからで、其の力は讓歩の源泉が閉された日には自然枯渇しなければならぬ運命を有してゐたのである。

（二）危　機

一八九三年の帝國議會の折衝に於て波蘭の宮廷黨は一の大芝居を打つた（そして打ち損ねた）。夫は獨逸民族の威信に關する問題であつた。卽ち陸軍改革案ローン將軍の改革以來に於ける國軍の一大改造と擴張の問題であつた。獨逸政府は此の計畫を、如何なることがあつても實現させなければならぬ、然らざれば列國の眼前で自ら面皮を剝がなければならぬこととなるやうな困難な狀況にあつた。然るに新陸軍議案は否決され、帝國議會は五月六日解散せられたのである。

再選擧が終つた時波蘭代議士は十九名を有し、問題の決定は波蘭人の掌中に在ることが解つた。波蘭人が政府案に贊成をすれば百九十五に對する二百二の多數で政府の勝利に歸すべく、若し波蘭人が議案に反對すれば百八十三對二百十四で反對黨が勝利を制するといふ狀況になり、波蘭人の去就は固より極度の興奮を以て注視の的となつたのである。

スラヴの諸新聞は物々しく書き立てた、或る新聞は曰く『再選擧は終了した。神は獨逸の運命を波蘭人の掌に委せた。……吾人は吾が政黨が此の有利なる機會を利用するであらうといふことに就き滿腔の期待を有つてゐる。黨首たる者はフォン・カプリヴィ氏の許に至り次の如く述ぶべきである。卽ち若しも貴下がポーゼン、西プロイセン及シュレジヤに於て波蘭語を再び教育語に採用するならば、其の場合に於てのみ、吾々は陸軍擴張に諒解の意を聲明致しませう、と。帝國宰相が之を承認すれば、其の承認は投票以前に王の裁可を經て確實なものとして置かねばならぬ。若しカプリヴィ伯が之を肯せざれば決して何等の交渉にも應じてはいけないことを吾人は政黨にお願して置く』。

此の種の要求は單に新聞に於けるのみならず、幾分公式にも波蘭人から發表せられた。大僧正スタブレウスキは自ら陸軍議案に贊成の意を公表した。併し其は『最少の要求』として、波蘭語を充分なる

程度まで敎育することを考慮せられ度きことの條件が附加してあつた。

數日間は不確定な狀態が續いた。ところが七月十日に代議士フォン・ヤツドツェウスキは波蘭黨の名に於て、波蘭人は陸軍議案に贊成すべしてふ聲明を發表し、斯くして事態は政府の有利なやうに結着した。卽ち議案は百八十五票に對する二百一票(十九名の波蘭代議士中一名だけは投票を保留した)で可決したのである。此の投票が波蘭住民にとつて如何なるものを意味したかといふことは察するに難くはない。此の投票に比肩する程のことは從來無かつた。成程波蘭人は其の前數年に於て普魯西稅制改革、海軍議案、通商條約等で政府を援助し來つたが、未だ嘗て獨逸の威信問題を決定的に左右し得る程の機會は有たなかつたのである。而も其の問題を政府並に國粹的政黨の有利なやうに決定したのである。波蘭の政黨が獨逸の國粹的問題に於て國民自由黨(ナチヨナルリベラーレン)及保守黨と握手するといふことは一體何を意味してゐるか。夫は波蘭人の耳目に取つては不可解の事實であつた。各人は問ふた、之に對する報酬は一體何であらうかと。

數日の後ポーゼンに於て明かになつたことは、政府は何等の讓步を爲す義務をも有つてゐなかつたのであるといふ事實であつた。政府としても又夫れを爲すことの能きない狀態にあつたといふのは學校問題は普魯西下院に提出されて居つて、日々鞏固になつて行く多數黨は波蘭の要求に對して反對の立場に立つてゐたからである。

波蘭黨が普魯西政府を援けて勝を制せしめ、彼等が別に一定の保證を獲得しなかつたものであるといふことを其の後で餘儀なく告白した時に國民黨は宮廷黨の議會政黨的勢力の位置を攻落しにかゝつた。以前には民主々義の下に選擧の防害や放埒な手段を弄して宮廷黨に楯衝いてゐたのであつたが、今や其の反對に系統的な秩序を有つた攻擊を以て波蘭政黨の組織的な土臺を崩し始めたのである。

崩されかゝつた此の組織的土臺といふのは次のやうなものであつた。卽ちポーゼンには一切の重要なる選擧問題を解決する爲に『中央選擧委員會』(或は選擧本部)なるものが存在した。此の會は常に貴族の指導の下に在つたので、一八九三年にはツォルトウスキ＝グルショウォ伯が其の長であつた。會員は悉く保守的傾向の人達で多くはシュラハタといふ貴族階級に屬する者や高級僧侶の肩書を持つた人々であつた。此の中央機關の下には地方委員會(或は地方支部)といふものがあつて一選擧區に一つづゝ置かれ其が地方に於ける細かい仕事に從事することになつてゐた。

『理論上』では中央本部が全地方支部の統一機關であり、從つて其の組織は『理論上』デモクラチックであつた。併し事實上では此の中央機關は寡頭政治的に振舞ひ公認候補者表を專斷し地方委員會は單に宣傳に資するに過ぎなかつた。例へば一八九三年の帝國議會選擧に際し波蘭政黨の候補者表は何歷風に作られたかと云へば、五月三十日に中央選擧委員會の會員がポーゼン市のホテル・バザールに集り、クウ井レツキ伯はザムター・ビルンバウム選擧區に於て、アダム・ツァルトリスキ公子はラウ井チユ・

ゴスチン區に於て、僧院長（プロヴスト）フォン・ヤッドツェウスキはクロトシン・コシュミン區に於て、ヨゼフ・フォンコスチールスキはイノウラツラウ・ストレルモ・モギルノ區に於て、誰は何處に於て、某は何處に於て立候補すべしといふやうに定めて了つた。

貴族の斯の如き寡頭政治は、地方委員會が中央の謂ふことを聞て其の命の儘に働いてゐる間は命脈を保つことも能きるが、貴族の反對者が地方で勢力を有するに至つては最早從來のやうには行かぬ。反對者は候補者表の作成に從來のやうな專斷を許さなかつたのみならず、中央機關の組織までも漸次に變更せしむることが能きたのである。（地方委員會と中央委員會との間に於ける關係は元來慣習法的に定められてゐたのである。つまり匈牙利酒でも呑み合つてスラヴ人一流の社交的な結合により關係が保たれてゐたのであつた。すつと後になつて一八八八年に「選擧要領」なるものを作成して始めて規約が設けられたのである。其の要領には地方委員會に關する規定が載つてゐる、曰く「一、選擧區を形成する各郡より代表を派出して一地方委員會を組成す……地方委員會の事務は次の如し、一、當該選擧區が選出すべき候補人物の詮衡（之の規定は事實上中央機關が候補者を決定するによりて濟まされてゐた）二、選擧宣傳の適當なる形式に關する協議。三、選擧期日直前に全選擧區內に於て能ふ限り多數のポスター印刷物選擧票の準備調達）。されば貴族政黨の力に向つて組織的な攻擊を爲し其の效果を收めんとならばどうしても個々の地方委員を征服するの方策に出でなければならなかつた。

指導の地位にある民主的新聞（卽ちオレドウニク）の主筆は其の襲擊の方策を組織した。此の人はスチマンスキと云つて衒學的政治家の範疇に屬し、理屈の多い獨身の奇人型で、同時に外形的の效果を擧ぐることに汲々とし、一切のものを組織的に指導する妙を得てゐた。彼の新聞『オレドウニク』は一種の國民新聞たらんことを欲したのであるけれども、未だ嘗て國民的に成ることが能きなかつた。夫れと云ふのもスチマンスキが奇人形の理屈屋で彼の筆は常に理屈つぽく難解で波蘭の職工や農民が夫れに堪ふることが能きなかつたのである。從つて彼の思想は直接國民に及すことは能きなかつたのであるけれども、他の通俗的な波蘭新聞には著しく影響するところがあり、夫れ等の新聞を一定の軌道の上に導き斯くして結局は彼の思想を國民の中に植付けることに成功したのであつて、此の點に彼の效果は表はれたと云はなければならぬ。普魯西の領土內で民主的な若くは通俗的な波蘭新聞が隨分澤山存在してゐても夫等の總ては皆『オレドウニク』から其の色彩、調子、思想の一部を攝取したのである。斯樣に『オレドウニク』は決して多くの讀者を持つたことが無く、大抵三四千の購讀者で滿足しなければならなかつたに拘らず、波蘭に於ける民主々義の發達行程上では指南新聞と目すべきものであつた。

此の新聞が、政黨の獨逸陸軍擴張案に贊成した數日後に『ポーゼン市選擧區の選擧委員會を葬るべし』との標語を呼號したのであつた。

此の標語は直ちに、ポーゼン市の職工や商人の仲間に多く讀まれてゐる『ポステプ』といふ新聞が採用し、七月十九日には『選擧人大會』が催され、大多數を以て、『ポーゼン地方委員會は陸軍議案に對する其の態度不都合なりし爲同會に不信任投票を與ふ』との決議が爲された。ポーゼン市の地方委員會長は右の決定を受納したる後、該地方委員會の總辭職を宣告した。

第一回の效果が斯樣に目覺しいものであつたので、是迄傍觀的態度を持してゐた他の二三新聞が直

に此の新軌道に乗り出して來た。『ポーゼン市選擧委員會の崩潰』といふ標題で大會のあつた次の日にゴニーク・ウヰーコポルスキ紙は書いた『之は帝國議會波蘭政黨の政策と密接な關係を有するものであつて、全國土に强大なる反響を齎すであらう。ポーゼン市は同市が融和政策を欲しないこと政黨の態度を非とすることを示した』。

偖て其の次には新い委員會を選定することが必要となつたのであるが興奮して騷いでゐる國民大會は到底一致の行動を執ることが能きないで二個の相反したる委員會卽ち『國民黨委員會』及『宮廷黨委員會』といふものが發生することになつた。

同じやうな出來事はブロンベルグにも起つた。それから波蘭民主的潮流の舊源泉地たるイノウラツラウルに於ても起つた。續いて間もなく他の都市に於ても或は又地方の村落に於てすら選擧委員會改造の試みが起つた。

此の內的紛糾は波蘭人の利益を數ヶ月間全然消耗させた。波蘭の新聞雜誌パンフレット等に於ては一八九三年の夏から一八九四年の新春にかけて兩者の爭鬪に關する報知や意見で孰れかの肩を持ち乍ら賑つた。

併し乍ら貴族及高級僧侶の團體は未だ〳〵支配權を掌握して居つて此の數ヶ月間は表面何等の損害を蒙らず、彼等が左右し得る强大なる勢力を以て民主々義の攻擊に對抗したのである。卽ち一八九三年九月にはポーゼン市及グネーゼン市の本山寺院は集會を催し壯嚴な式の下に公然『オレドウニク』の露骨なる挑戰に對して反抗の氣勢を擧げた。多くの敎區に於ける宣敎師は各監督法院(コンシストリユム)の命に依り、命せられたる形式を以て平民的な新聞に反抗し、中には說敎に混せて夫等新聞の煽動に敵對した。其の時分ポーゼン市で開かれた波蘭法學者會議も貴族僧侶團から利用されて防禦の具に供せられた。夫はクラカウ大學の總長が其の政治的卓上演說に於て帝國議會に於ける波蘭政黨が其の外交的行動によつて波蘭人の融和の可能なること及び組織的事業の可能なることを示したものであるとて其の政府援助の投票を稱讚したやうなこともあつた。併し夫等の何物よりも最も力强き援助が宮廷黨の期待しなかつた農民協會から起つたのは機會とは云へ奇異の感無き能はずである。

農民協會は爭鬪せる黨派の間にあつて落着いた態度を執り既に前から國民黨の運動の結果同黨の側に立ち、將來は人民黨の援隊として目されてゐたのであつた。然るに國民新聞の『ポステブ』が自他を辨へない盲滅法の猪突主義で農民協會のパトロンたるマキシミリアン・フオン・ヤツコウスキを疑ひ貴族に近く立つてゐる此の人を其の位置から逐ひ出し吳れんとの至らぬ考から、拙劣なる方法で彼を侮辱したのである。之に對するヤツコウスキの返答は大して手のかゝるものでなかつた。彼は全波蘭農民協會を各郡に會合せしめたが夫等の郡會は『オレドウニク』及『ポステブ』新聞を公安に危險であり且つ虛妄にして誠意なきものなりと聲明し、此の二新聞に對しボイコットを行つた。此の峻烈なる仕返し

は兩新聞にとつて非常な物質的損害を齎したと謂はれてゐる。少くも『オレドウニク』が其の後十年以上もヤッコウスキに對して怒を抱いてゐたことは確である。

此の有效なる防禦の爲貴族政黨は一八九三年から九四年にかけての冬中是迄通りに振舞ふことが能きたのである。海軍問題に關する委員會の討議は波蘭黨首ヨゼフ・フォン・コスチールスキの援助の下に續行され、當時コスチールスキはアドミラルスキといふ仇名をさへ贏ち得た程であつた。政府と波蘭黨は相變らず社交的慇懃を交換した。形式的には未だ融和政策は存續したのであるけれども文部大臣の演說は冷かになり新たなる承認を與へやうとはどうしても爲ない。其處で一方鄕土に於ける選擧人は約束されたる承認を囂しく要求するので貴族の波蘭黨は神經過敏にならざるを得なかつた。今や極く微々たる動機があつても危機の襲來する可能が充分となつた。そして事實夫は一八九四年三月十一日代議士フォン・コスチールスキは辭職したといふ電報がポーゼン市に到着した時は神經發作の如く惹起された。

其の翌日或る有力なる波蘭新聞の報道には左の如く記載された。『土曜の日に議長がフォン・コスチールスキ氏は辭職致しましたといふ通知を爲した時大なる感動を集合せる議員連に與へた。誰でも吃驚しないものは無つた、蓋しコスチールスキは宮廷黨の指導者として又獨逸皇帝の友人として帝國議會の最も興味ある人物に屬し、誰しも彼が現職に飽いたとは考へられなかつたからである……此の報知は土曜日の午後ポーゼン市に致されたが、固より非常な驚愕を以て迎へられ、殊に其の後辭職の眞原因が分つた時には大騷ぎであつた』。其の原因は恁うであつた。コスチールスキが委員會に於て、波蘭黨は政府の或る要求に對し贊意を表すべしと聲明した。然るに票決の日になつて同黨の大部分が出席しない、殘りの者も投票前に議場を退出して了つたのであつた。

融和政策の形式的終焉は猶ほ數ヶ月後に於て始めて明瞭になつたのであるとはいへ（宮廷黨の首領コスチールスキが一八九四年九月十七日レムベルグに於ける演說で普魯西政府に對し烈しき攻擊の矢を向け、其の一ヶ月後獨逸皇帝がトルンに於ける演說で波蘭人の努力を攻擊したことによつて明かに本政策の終末となつた）、事實上右の事件で融和政策は終つたのである。そして何が之に續いたかと云へば以前ビスマルク時代の狀態が再び始まつたと謂ふより外にないのである。融和政策は波蘭の何處に於ても誰も相手にするものが無くなり、再び普魯西政府は（波蘭に對し）何物をも得ず、全然幻滅と敗北との感を以て此の時代が終り、ビスマルクが臺閣に在つた時の波蘭政策と同一方針を再び執ることに努め、波蘭人の方も元に還つて自己の經濟的防禦に努めることの必要を覺つた。

斯くして『宮廷黨』なるものが無くなつたのみでなしに、もつと重要なことは、波蘭人の政策を指導し左右してゐたところの波蘭政黨の機能が止んで了つたのであつた。ポーゼン及西プロイセンに於ける人々は騷ぎの割合には効能の無かつた宮廷黨の遺口を見て來たので、今後は伯林に於ける政黨に自

儘勝手な活動を許すことは禁物である。鄉土から確りと彼等の手綱を握つてゐなければならぬものであるといふ信念を固くしたのである。尤も政黨の組織は一八九四年以來以前よりは餘程改良され貴族の地主や僧侶の肩書を有つた人々の外にも漸次に手工業者商人、勞働者代表、平民新聞の記者等が加はり國民の代表といふ意味に適合するやうになつて來た。併し此の社會が又一年々々と鄉土に於ける國民諸機關の意志から拔け出して超然たる位置を占めることになり、結局鄉土と連絡を持ち、從つて波蘭問題に勢力を有する政黨なるものは無くなつたのである。

(三)　融和政策時代に於ける波蘭人の拓殖事業

一八九二年の一月波蘭の社會に於て異常に興味を唆る芝居が打たれた。卽ちバンク・チームスキの頭取は波蘭の地主及び僧侶を招待して一の集會を催したが其の招待狀には普魯西政府の一委員が拓殖問題に就て一場の講演を爲す筈であるとの事が特記されてあつた。

普魯西政府の該事務官は其の演說の冒頭に於て(此の集會は一八九二年一月十九日午後五時在ボーゼン市ホテル・ドベルリンで催され司會者は銀行の頭取でスツルドルチンスキ采地の持主であるカルクシタインであつた)出席の波蘭人に挨拶して、相互に肩を並べて暮してゐる兩國民性間に從來存在してゐたやうな緊張は今や將に消滅せんとしてゐるとの喜びの言葉を述べ、爾今兩民族の融和に努め、波蘭地主の爲めに言行共に地代農場形成を援助するであらうと聲明した。此の言葉は出席者から大なる歡呼を以て迎へられ或る波蘭地主は右の言葉に對し、今度發布された地代農場法は外國に移住せんとする波蘭住民を故國の土地に結び付けるに最も優れたる手段たるを失はないと思ふと答辭を述べた。

融和時代が始まつたことゝ普魯西政府が地代農場法を發布したことが一致したのは明かに一の遇然であつたけれども其の效果は相互に助長し合つて一層大なるものと爲した。

此の吉兆の下に波蘭人の土地爭奪戰は其の方向を替えた。バンク・チームスキの頭取は五年前に『本銀行は敵の拓殖政策の弱點を吾等の防衞に利用せざる可らず』と聲明したのが、今や彼は『バンク・チームスキは政府の行動と個人企業との中間に介在して其の連絡を圖らねばならぬ』と發表した。此の兩聲明に於て完全なる方向轉換が最も簡明に覩はれる。そして又共同動作は、其に依つて波蘭側にも獨逸側にも利益を齎すであらうと期待されたので、事實の上に現はれたることになつた。普魯西政府は此の波蘭銀行との共同動作を、融和政策を援ける一手段であると認めた。

併し波蘭人は此の共同作業を、爭鬪機關(救助銀行卽ちバンク・チームスキ)を財政困難から援ふ優秀なる一手段であると目した。大體創立當初からバンク・チームスキは、既に述べた如く、其の資本を土地に固定させる危險があつた。之は土地に對して貸出を爲す機關には附物の危險である。然るに今や一八九〇年六月二十七日及び一八九一年七月七日の地代農場法は新しい方法を提供して呉れた。普魯西の共有地清算局は土地の分割を爲すに最も根本的な困難から免れ得る可能性と權利とを具有する

に至つた。第一に共有地清算局は土地抵當貸に於ける債權者の承認を經ずして土地分割を行ふことが能きるやうになつた（所謂無害證明書なるものを債權者に與ふることに依つて）。之に依つて心配してゐた土地抵當貸に於ける突然の契約解除の通告は制限されたのである。第二に共有地清算局は國立の地代銀行（レンテンバンク）（現在獨逸共和國に於けるレンテンバンクとは全然異り土地債務消却の金融を企らん爲に以前から設けられてゐつた國家の金融機關である）をして三分五厘利附の地代債務證券（レンテンブリーフ）（之は毎日賣ることが能きた）の形で必要な金融を圖らしめるやうにした。斯くして土地分割を行ふ機關は資本を土地に固定させる危險から免れたのである。此の利益は波蘭人が勝手に土地を分割して其の地區を賣る代りに地代農場を建設し共有地清算局の下に隷屬して其の指圖を仰ぐことに決心して始めて彼等に提供されたものである。

バンク・チームスキは國家の金融に與る爲に直に右の條件の下に身を置いた。波蘭人は最早や舊來の土地分割を廢し、一八九二年からといふものは地代農場法に基き普魯西共有地清算局と密接な關係を保ちつゝ新移住地の建設に努力した。

併し此の奇特なる共同動作を觀察するに就て、普魯西の官憲と波蘭の救助銀行とが根本に於てはお互に敵であつたし又常に敵であることを忘れてはならぬ。融和政策の時代は僅かの年數であつた。普魯西の官吏はビスマルク統治時代の宗徒の輩であつた。其の心の底に抱いてゐる感がさう急に變るものでない。又用心深い賢い波蘭人も和らかな風の吹き廻しを、只無暗に信ずるものでは決してなかつた。されば右の共同動作は其の底には矢張り密かなる爭鬪を以て充たされ、有利なる瞬間を利用せんとする努力を以て充されてゐた。而も普魯西の拓殖委員會は依然として存在し、恰度其の當時又もグネーゼン及びツニン郡に於て波蘭人の手から土地を取上げることに從事してゐたので、波蘭人にとつては彼等の武器を棄てる理由はなかつたのである。

尤も最初は殆ど、最早や波蘭銀行の事業は大體餘計なものである、又は大した役にも立たないかの如くに見えた、夫はバンク・チームスキが舊來の仕事の整理例へば以前に貸出てゐた金額の部分拂込や全額拂込を受けることや、或はある債權者がもう既に共有地清算局が手續を了してゐる筈だのに、遇然手續洩れで土地抵當貸に於て通告の權利があつたりした時に彼方此方に干渉したりする位が關の山であつたからである。つまり銀行は調停事務を引受けて行つたのである。そして一八九二年の株主總會に於て、左樣な調停事務の如きは一小私立銀行でも充分にやつて行けるではないか、バンク・チームスキと其の二つの子分銀行とを今後引續いて經營をして行く必要は眞に存在するであらうかといふ問題が投げられた。

併し間もなく普魯西官憲と波蘭銀行との間に經營指導の點に就いて暗鬪が起つた。各人は殖民事業に一定の方針を與へやうとした。そして普魯西及波蘭の經濟政策の間に於ける內部の拮抗は明るみに

出された。共有地清算局は餘りに貧乏な波蘭人を移住せしめたり餘りに小さい地區(十二モルゲン――三町八畝餘――以下の)を建設することは宜しくないと考へてゐた。それで同局は所謂勞働移住民に金融援助を爲すことを拒んだ。勞働移住民といふのは四乃至五モルゲン(約一町三畝乃至一町二反九畝)の土地を以て滿足する最も貧乏な波蘭人で移住後猶勞働者として留り其の土地を耕作する外に金儲の途を求めなければならない者をいふ。清算局の方から謂はせると、斯の如き分子は經濟の方面のみならず政治上の關係に於ても害あるものだと見たのである。併し波蘭人の方から見ると恰度其の反對で最も貧窮の階級の移住こそ必要と見たのである。何となれば第一に此の階級を內地殖民に向ければ其に依つて『外國移住病』を豫防することが能るのであつて、之の病氣は豫て波蘭の識者が大いに患へてゐたところのものである。第二には經濟的に此の階級を向上せしめることが能る。是等の勞働者は斯くて得たところの土地の耕作は其の妻乃至家族に委せ自分自身は工場地方に出稼に行き其の勞銀から高い年賦金何年かの後に皆濟すべき地代)を確實に支拂つて、分割して得たる土地は結局自分のものとすることが能るものである。第三には此の最下流階級を政治的に指導するのは比較的容易であつたので數に於て多く彼等の國內に留らんことを欲したのである。

普魯西側と波蘭側との間に於ける此の利益の反對は、其の共同事業を進めて行くに際して益々明白に各双方の自覺を呼び、一八九三年バンク・チームスキの頭取は聲明して、自分は官憲に餘り面白く思はれてゐない勞働者移住地の建設こそ自分達の主要任務だと思惟する、人々は何故此の事業に反對するか實に不可解である、といふやうな露骨な表白を爲すに至つた。それでも政府は中々讓步しない、それが爲め波蘭の拓殖政策は其の所謂最も價値のある勞働者移住の點に就て幾分壓迫擊退を蒙つたのである。

斯くして融和時代の間に普魯西官憲の企圖と波蘭銀行の事業との間に謂はゞ一の對角線が生ずるやうになつた。波蘭人は一八八七年から一八九〇年にかけて西プロイセンで行つたやうに勝手な土地賣買の型で事業を進めることが能きなくなつたが其の代り波蘭の各機關は其の財政的危急を國家の金融援助によつて救はれ無事平穩に仕事を續けることが能きた。併し其の仕事は波蘭人の側から見て最初のプログラムに添ふものでは無く前述の如く自然の成行上斯樣な過程を經ることゝなつたのであるが斯樣な發達の爲に波蘭人を土地爭奪戰に引入れた事業は至極單化されたのである。卽ち二個の『州機關』(ポーゼン市及トルン市に於けるスポルカ・チームスカ(土地組合))を人爲的にバンク・チームスキの中央機關に隷屬せしめたことは最早や無意味になつた。といふのはバンクチームスキは共有地清算局から充分に援助されてゐるので、補助組合が無くとも事業を經營することが能きたし、右二個の補助組合も今では共有地清算局の助けによつて獨立してやつて行けることになつたのである。最初トルンの組合はもう既に地理的にバンク・チームスキの勢力圈から離れてゐたのであるが、清算局の援助を

もつて獨立の事業に手を染め西プロイセン州のクルム及ストラッスブルグ郡で二個の采地を分割し間もなくポーゼンの組合も之に倣つて獨立の仕事に從事するやうになつたのである。

右のやうな有樣であつたから、一八九三年の末には

一、在ポーゼン市バンク・チームスキ

二、在ポーゼン市スポルカ・チームスカ

三、在トルン市スポルカ・チームスカ

の三つの獨立したる波蘭土地分割機關が存立することゝなり是等がポーゼン州及西プロイセン州に於て地代農場を建設し分割したる地區を移住者に賣渡すことに從事した。是等三つの機關は全く獨立獨歩を以て各々自己の途を進み、何等相互に又は隷屬的に連絡又は關係を有して居らず、寧ろ其の反對に各自の仕事が段々殖えて來るので卽ち土地の提供を申出る者が多く、地區の需用が增大するので是等二個の銀行を擴張し或は新たな機關を設立しやうと眞面目に考へられるやうな狀況となつた。

斯くしてバンク・チームスキは一八九三年、地代農場法の爲に拓殖事業が著しく進歩を爲たといふ理由の下に、從來の百二十萬馬克の株式資本を二百萬馬克に增資することを決議したし、同年數名の農場主(小作人の社會から出た)がポーゼン市に於て、地代農場法に基き普魯西共有地清算局の援を藉り土地分割を行ふ爲めに一の機關を設けた。此新機關は一八九四年二月スポルカ・ロルニコウ・バルセラシナ(農業家の土地分割組合)といふ名稱の下に有限責任組合として裁判所に登記され、バンク・チームスキ及其の兩子分銀行の行ふと全く同一の方法を以て事業を經營して行つた。卽ち此の組合は共有地清算局の援助(無害證明書を發行して貰ふこと)を以て土地を獲得し、分割地區を建設し、夫等地區の獲得者から讓渡代金の四分の一を現金で要求し、其の殘高は共有地清算局の仲介によつて年賦金(地代)として得た。此の銀行の幹部は其の趣意書に於て、共有地清算局との關係を明かに說明した、曰く『吾人は有數なる辯護士と共有地清算局の信任を有せる土地測量者との協力により吾々の事業を確保せられてゐるのである』と。其處で一八九四年には四つの機關が存在し普魯西の官憲と共同して波蘭人の拓殖事業に從事した。

ところが一八九四年に普魯西政府と波蘭『融和黨』(コスチールスキの一)との離反となり、同時に新聞や議會に於ては、波蘭の機關に國家の金融援助を與ふることを非難攻擊する議論が現はれ、普波共同動作は茲に終焉を告ぐることとなつたのである。

(四)　拓殖事業に於ける政府との離反

偖て茲で一八八六年以來の土地爭奪戰に於ける是迄の結果を振返つて一瞥して見やう。双方の鬪士は左の如き年次に此の戰場に現はれたのである。

政府側	拓殖委員會	波蘭側	
一八八六年		パンク・チームスキ	
一八九〇年		ポーセン市スポルカ・チームスカ	
一八九一年		トルン市スポルカ・チームスカ	
一八九四年		スポルカ・ロルニコウ・パルセラシナ	

拓殖委員會が一八八六年に最初の機關として拓殖事業を開始するや大した反抗をも見ず着々として事業の進展を見た。同會が買つた土地は

一八八六年に	一一、七四八ヘクトアール	（約一一、八四五・九町）
一八八七年に	一四、八二五同	（約一六、〇六〇・四五町）
一八八八年に	九、五二三同	（約九、六〇二・三六町）
一八八九年に	四、八〇〇同	（約四、八四〇町）
一八九〇年に	七、七六七同	（約七、八三一・七三町）
合計	四八、六六三同	（約四九、〇六八・五三町）

で最初の五年間、即ち融和時代の始まる迄に四萬八千ヘクトアール以上の土地を獲得し、殊に其の九十パーセントは波蘭人の手から得たものであつた。殊にグネーゼン郡及ツニン郡は荒廢したる土地を多く提供し、夫等の一部分は强制競賣で獲得することが能きた。獲得したる土地への移住民は一般獨逸人から募つたが、殊に應募數の多かつたのはウェストファーレン地方で、充分の數があつたから一八九〇年迄に約六百家族を移住せしめることが能きた。

之に對し波蘭側の成績はどうかといふに、先づ最初西プロイセンに於けるカルクシタインの小組合は二千三百ヘクトアール（二、三一九・一七町）を獲得し二百家族を移住せしめてゐた。それからバンク・チームスキはカルクシタインの下にやつと一八八八年から土地の買付を開始し、一八九〇年迄に約四千ヘクトアール（約四、〇三三・三三町）を獲得して約二百五十家族を移住せしめた。即ち一八九〇年末の結果を見ると左の通となる。

◎拓殖委員會

獲得面積四八、六六三ヘクトアール
其の中九〇％は波蘭人の手から買ふ。
移住家族數約六五〇家族
（全然中及大農場）

◎波蘭機關

獲得面積四、〇〇〇ヘクトアール
其の中六％は獨逸人の手から買ふ
移住家族數約二五〇家族
（其の中一五〇は勞働者農場）

右の對照で獨逸側の著しく優勢なことが分るが、一方波蘭側では盛な勞働者殖民を見る。

一八九一年を以て融和時代が始まつたけれども、土地爭奪戰は決して終つた譯では無く、拓殖委員會は波蘭の土地を獲得して之に獨逸人を移住せしめることは依然續行した。拓殖委員會の得たる土地は

一八九一年に	八、五二七ヘクトアール	（約八五九八、〇六町）

一八九二年に　八、四二一ヘクトアール　(約八、四九一・一六町)
一八九三年に　八、四〇八同　(約八、四七八・〇七町)
一八九四年に　六、二六四同　(約六、三一六・二〇町)

であつて、其の歩度は決して緩漫になつたとは云へない。但從來よりも多く獨逸人の所有地をも買付けたので其の率が約二十パーセントに上つたのが一變化であると云へば謂へるのである。

移住の方も急速の進歩を爲した、之は最初の移住者が故郷への通信に有利な報を齎したので西部及中部獨逸の各地方から澤山の移住者が來た。移住家族の數は

一八九一年に　一九五戸
一八九二年に　二七〇戸
一八九三年に　二四〇戸
一八九四年に　二二〇戸

で合計九百二十五戸に上つた。

四個の波蘭機關は其の對抗運動を非常に友情的な形で行ひ、猶二三　獨逸地主は共有地清算局の援けを以て波蘭移住民に土地を分讓してやつたりなどしたので、此の期間に於ける波蘭人の土地獲得面積は約八千ヘクトアール(約八〇六七町)となつた。

融和時代の一八九一年から一八九四年迄の結果は左の如くなる。

◎波蘭機關

獲得土地八、〇〇〇ヘクトアール
右の中八〇%は波蘭人より買ふ
移住者は多く小農民

◎拓殖委員會

獲得土地三一、六二〇ヘクトアール
右の中八〇%は波蘭人より買ふ
移住家族數九二五戸
(右は全然中及大農場)

右の結果に於て最も眼に立つのは、波蘭人が一八九一年から一八九四年迄に買付けた土地の最大部分が波蘭人の所有地であつたことである。以前は大部分獨逸人の手から土地を得たのであることは前の表が示す通である。

バンク・チームスキ及其の他の機關が買付けたのは主としてコステン郡に於ける負債に惱んでゐる波蘭人の土地、ストラスブルグ郡に於ける破産した波蘭人の土地、及ボーゼン市の近くで教會が其の管理を持て餘した寺領等であつて、成る可く獨逸人の土地に手を着ることを避けた。夫は官憲から金融援助を仰いでゐる限り其の官憲と衝突するやうなことがあつてはならぬと心得たからである。

第二に眼に立つことは、最早や餘り多くの波蘭勞働者移住地區を造らないで主として小農場を建設したことである。共有地清算局が細民の移住に反對したことは前記の通であるが、之は波蘭人にとつては最も痛い處である。波蘭のプロレタリアートは移住しても最初の現金拂は能きなかつたのであるが甜菜栽培地方や工場地方に出稼し、其の勞銀貯蓄を以て最初の立替金を速かに返濟し速かに地代の

償却に取掛ることが能きたので、若しも嘗てピンシンやワルダウで行はれたやうに波蘭プロレタリアートの移住を許容したのであつたら、其は此の期間中に非常な勢で、進歩したらうし、又地區を小さく分割する結果遙かに高い地代を要求することも能きた筈であつたのである。

つまり波蘭の對抗運動は共有地清算局によつて援助されたのであつたけれども、而も同時に手綱を握られ常に官憲の支配下に置かれたのである。それが爲め波蘭の銀行は最初の中は(融時和代)前拓殖季員會に競爭し委員會よりも常に高い代價を提供して何でも彼でも土地を買取つて了はうとしてかゝつたのであるけれども、官憲の援助を受くるやうになつてから、さう事毎に競爭することも爲なくなつた。其の爲め最初の中は著しく速かに昂騰した地價も軈て下落するやうになつたのである。拓殖委員會が一ヘクトアール(約一町二十五歩)當り支拂つた地價を示すと左の通りである。

一八八六年	五六八馬克	一八九一年	六七九馬克
一八八七年	五八八同	一八九二年	五四九同
一八八八年	五九〇同	一八九三年	六二六同
一八八九年	六八一同	一八九四年	五七三同
一八九〇年	六五六同	一八九五年	五七一同

併し孰れにせよ波蘭側は獨逸人の所有地を獲得するといふ點に於ては一八九五年迄の成績を見るに何等の進歩をも爲さず、反對に約四萬ヘクトアール(約四〇三四町)といふものは波蘭人の手から奪はれて了つたのである。

之は獨逸主義にとつて利益であるに相違ないけれども波蘭の機關が普魯西の國家から金融援助を受け其れによつて夫等の機關が益々鞏固にされたといふ事實の存する限り、折角の利益も利益として見ることが能きない譯である。其處で人々は、此の金融援助を撤回したなら波蘭の銀行は破滅するかさなくとも其の事業に破綻を來すに相違無からうと考へた。

此の見解には政府も贊成した。そして一八九五年以來共有地清算局を波蘭銀行から引離し波蘭人が地代農場を建設することを妨げ始めた。此の事は管理の位置を利用して譯もなく實行することが能きた。先づ最初(一八九五年春)共有地清算局は、主として大農場を建設すべきことを要求した。此の命令を痛く感ずるのは波蘭人だけである、何となれば獨逸の移住應募者は多く十ヘクトアール(約十町八畝)以上の農場を要求したからである。(拓殖委員會の募集に應じた獨逸農民の中七〇%は十ヘクトアール以上の土地を要求した、此に反し波蘭人は殆ど常に十ヘクトアール以下の土地を望み(波蘭銀行に應募した者の七五%)其の希望者の最大部分は而も三ヘクトアール以下を望んだのである(波蘭銀行に應募した者の五〇%)。

第二に共有地清算局は分割地區を餘りに高く賣つてはならぬといふことを要求し、地代銀行は之が爲め非常な負擔を負はねばならぬといふ巧妙なる口實の下に、出來かゝつた澤山な場合を拒否した。

此の要求も亦波蘭人にとつては獨逸人に對するよりも一層不都合を來した。何となれば波蘭の下級移住者は既に述べたる如く、土地に對して比較的高價なる代價を承認し、其の代價は勞働賃銀の援を以て償却して行つたからである。

是等管理上の要求は既に波蘭地代農場の建設を大いに困難ならしめたのであるのに、其處へ猶一八九五年の夏、地代農場の建設に際しては地方の事情に精通せる者の忠言に聽くべしとの命令が發せられ、其の忠言者は郡會議長が之を指名すべしと規定された。

斯の如く共有地清算局は其の時の郡合でどうにでも事を左右にする權能を有し、自己の意見に從ひ同局の援助を制限したり若くは全く拒否することも能きたので、清算局と波蘭機關との間に擊がれて居た鎖は遂に苦もなく解かれることになつたのは素より當然であつて、波蘭人は今後は主として再び自分固有の事業を獨力でやつて行かなければならぬ羽目になつたのである。

政策の變更が及ぼした最初の作用は波蘭移住事業の蹉跌に現はれた。バンク・チームスキ、ボーゼン市とトルンとに於ける土地分割組合及『農業家の土地分割組合』は差當り殘務の整理を爲すより外に途が無いやうに見えた。共有地清算局との連絡を再び恢復せんとの試も色々施されたけれど一つとして成功するものが無かつた。

即ち波蘭側で何處か分割すべき土地を見付け、之に對して官憲の援助を求めると、共有地清算局は、波蘭移住地の一部を獨逸移住民にも與へよと要求し、其の移住者の數や移住地區の性質に就て一定の條件を立てた。そして是等の條件が充されない時には直ちに其の援助を撤回した。例へばバンク・チームスキはツァルニカウ郡で一大分割を準備して居たのであるけれども、右のやうな方法で餘儀なく計畫を投棄させられた。同じくトルンのスポルカ・チームスカもシュウェッツ郡で始めかけて居た地代殖民地の樹立を實行することが能きなくなつた。其の他殆ど終了に近付いた企業も嚴重な檢査の爲めに成功が六ヶ敷くなり經費が嵩み、結局一八九五年には到處に於て波蘭人に幻滅を齎した。一八九五年に四つの機關が行つた移住家族數は百戸にも充たなかつた。

然るに恰も其の當時、夫の有名なる『組合移住』は其の結果が思はしくないといふことが世間に曝露した。カルクシタインの思想はもと〳〵ユートピヤ的であつた、何故といふに土地を共同の財產にするといふことは各農場が全然別々に經營されて居る限り種々な困難や不滿足を惹起する原因となるからである。斯の如き共同の全織織は一の調和を前提とする。然るに左樣な調和は實際には存在し得ないものである。斯の如き共同事業が正當に共同の實を擧げることの能きるのは共同組合員の中誰も死することが無く組合から誰も出て行く者が無く、誰も逐出されることが無く、誰も各自の農場經營を怠る者が無く、誰も地代の支拂を延滯させる者が無かつた時に於て始めて可能でなければならぬ。此の一の機關に假に六十の小車が附いて居るとすれば其の中の一つでもが正直に働かなかつたら、地代の

支拂及各農場の經濟的狀態に對して責任を有する其の組合は、直に鋭敏に夫を感ずるのである。斯樣な譯で何の組合にも不平不滿の絶えることなき狀態を現出し、どうして其れを解決すれば良いか施すに術がないといふやうな結果に立到つたのである。

何んな組合員でも一人として自分の地區の眞の所有者では無かつた。何一つ行ふにも獨立の行動は許されなかつた。事毎に組合の束縛を豪ることは貧乏な百姓にも堪え難くなつて來た。併し建設者卽ちバンク・チームスキも斯樣な仕事に大して興味を持てなかつた。つまりいつ迄も續いて容易に完結することが能きない(三十年賦皆濟)ばかりでなく、絶えず費用と憤慨との種を蒔く斯樣な事業を喜ぶ譯が無かつた。其處で共同組合は能きるだけ早く解散し、各組合員に各自の地區を讓渡して了つたら良いだらうといふ希望が到處に持出されることになつた。(併し移住者は資產といふものを持つてゐなかつたから、此の解散は素より困難なる財政問題であつた。波蘭の銀行やそれから獨逸の銀行等も土地共同組合の清算實行を援助した。其は一九〇六年にピンシンでやつと成功し、一九〇七年にはウ井ーコウォでも解決した。オロボクの共同組合は東オロボク・バンク・ルドウ井の援助で一九〇八年に解散した。其の他の組合も其れ迄に同樣な方法で漸時解散が行はれた)。

カルクシタインの『理論的目標』(といふのは三十年經過の後は各地區は最早や銀行の援助なくとも組合員の眞の財產となるといふことであつた)を最後迄待つ丈けの勇氣は誰にも喪せて了ひ、夫れよりも人々は波蘭國民銀行(バンク・ヤドウヰ)の援助とポーゼン市に於ける波蘭組合同盟銀行の支持によつて共同の負債を各地區の上に分割し斯くして共同事業から自由の身となりたいことのみを求めたのであつた。

第十一章　一八九四年以後　(最近代)

(一)　一八九四年より一九〇二年迄

一八九四年九月十七日フォン・コスチールスキはレムベルグに於て政府反對の演說を爲したが、其の演說と共に融和時代は終つた。彼は如何なる外力も波蘭人といふ民族的單位を破壞することが能きないと主張した。彼の演說は政府に對する波蘭人の宣戰布告であると見られた。之に對する返答はトルン市で爲された獨逸皇帝の演說であつた。彼は『朕は當地方に於ける波蘭の人々が朕等の希望に添はざる如き態度を把持せることを知りて甚だ遺憾に思ふ。併し彼等は無條件で普魯西臣民たる振舞に出づる時に於てのみ始めて獨逸人と等しく朕の同情と惠とを受け得るものなることを銘肝せられたい』と云つた。ヴァルチンに隱居してゐる前帝國宰相ビスマルクも同樣の意あるを漏らし、ワルテ及ワイクセル河域監視の切なるものあることを戒めた。

ポーゼン及西プロイセンに於ける融和政策は同地方に於ける獨逸人の間に其れと反對の氣勢を漸次に高めて行き遂にビスマルクの別莊へ團體訪問旅行を爲してビ公の忠言と激勵とを求めやうとする企

てが立てられた。東ポーゼン及西プロイセン獨逸人の企てたる（一八九四年九月十六日）此の團體訪問旅行の結果は一八九四年九月二十八日（創立を十一月三日とする人もある）に於ける獨逸東境協會の創立となつて現はれた。此の協會は右の如くビスマルクの忠言に基いて創立されたもので、其の創立者の主なる者をハンゼマン、ケンネマン、チーデマンの三人とする。それで波蘭の諸新聞は右三名の頭文字を取つて『ハケチ協會』(Hakatisteuverein)とか『ハケチ主義』(Hakatismus)『ハケチ派』(Hakatist)とかいふ語を造つて譏謗した。それだけに獨逸側にとつては夫等の語は喬闘と名譽の代名詞となつたのである。

此の協會は最初東境獨逸主義促進協會（Verein zur Förderung des Deutschtums in d'n Ostmarken）といふ名稱であつたのが一八九九年から『獨逸東境協會』といふのに更めたのである。此協會は東境即ちポーゼン西プロイセン其の他其の附近諸州に散在せる獨逸主義を集めて之を一團と爲し之を鞏固にし之を增進し、其の獨逸主義に於ける民族的自覺を喚醒し、從來絶間なく進歩せる波蘭主義に對して競爭々闘に堪へ得んとすることを目的としてゐる。此の目的の爲め同協會は波蘭人の遺口に傲ひ子弟修學補助基金なるものを設けて人材の養成に努めたが又商人、工業家、手工業者並に其の徒弟及經營困難に陥入つてゐる農場主等に職業を紹介したり、是等の人々に金融を圖つたり、獨逸の辯護士、醫師、商人及手工業者に適當な移住地を紹介したり、其の移住に際して能きる丈けの援助を爲したり、通俗圖書館を設立し、（一九〇三年末現在の通俗圖書館數四百五十五ヶ所藏書約九萬冊）機關雜誌『Die Ostmark』の刊行などを行つた。同協會は各地方毎に支部を置いたが一九〇二年末に於ける會員總數は二萬六千名を算し（此の中ポーゼン州は支部四十五ヶ所會員四千二百名）一九〇二年頃迄に集めた金は約二十二萬馬克に上り、修學補助基金は六萬八千四百六十二馬克（一九〇一年末）に增加し其の中二萬一千八百五馬克は既に百名の學生に支給せられた。東境協會は漸く一八九四年に出來上つたので、波蘭の國民的團結機關とは固より比べものにはならないけれども、而も獨逸東境に於ける獨逸主義の促進には非常に與つて力があつた。右の如く一八九四年末をもつて、一八九〇年迄ビスマルクの下に執り來つた波蘭政策が再び東境諸州に復活採用せられることになつた。當時普魯西側の人々は波蘭に對して如何に考へてゐたかと云へば、波蘭人の中の貴族階級即ち從來牛耳を執つて來た階級は恐らく猶國家に對して融和的な態度を持せしむるに難くはないが、併し僧侶を懷柔することの不可能なるは確かであり且つ中流階級即ち商工業者及農民の大群の心を得ることは一層不可能なことに屬すると考へられた。蓋し今や漸次に發達し來つた中流階級は益々組織的に相結合し夫等各機關の指導者達は前に指導者の位置にあつた貴族僧侶に對して益々優勢な位置を獲得するに至つたからである。殊に波蘭新聞の態度は如何に全波蘭人の運動が益々自覺を以て民主的になりつゝあるかといふことを示した。ボイコットの手段は益々盛に利用せられた。

此の時に當つて一層政府の憂慮增をしたのは、一九〇〇年に波蘭國民積立金(National schatz)――軍用金の意味がある――の事實が曝露し、オストロウヴ出の波蘭首領者が叛逆罪に問はれたことであつた。此の波蘭國民積立金は將來の革命軍編成準備の爲め一般波蘭人から集めたものであるが、其の後其の金は波蘭の現存各機關に對する補助に流用せられた。（一九〇七年國民積立金の第十六回決算報告を見ると前年殘高が二十六萬八千三百十六法あつたところへ寄附金が一萬三千三百八十八法入り其の中七千百六十六法を政治的機關に使用したから二十七萬四千五百三十八法の殘高となつた。九名の委員の中七名は巴里ゲンフ、レムベルグ及ブルッヱミスルに住居せる人の名があり、他の二名はXとYとで示してあつた、恐らく普魯西と露國とに一人づゝ居たのであらう。―一九〇九年四月二十八日クラカウのノヴ・レフナルマ紙―）。同年二月には『國民同盟』(Nationalligy)委員會なるものも明るみに曝らされた。此の同盟は波蘭國民の權利を飽く迄主張し組織的に其の爭鬪を行はんが爲め波蘭國民中に積極的な政治的力を養成せんとするもので、其の目標として公表してゐるところは『自主獨立自由の波蘭』であつた。

政府は先づ、融和時代に讓歩した種々の恩惠を撤回しなければならなかつた。此の思想はカプリヴヰの辭職（一八九四年）後、大藏大臣（後に普魯西副總理）のミケルによつて强められ新宰相ビューロー（ホーエンローエの後を受けて一九〇〇年獨逸宰相となる）も同一政策を踏襲して行つた。ミケルは拓殖政策だけでは不充分である獨逸人を都市にも植ゑ付け以て都市の發達を圖らねばならぬと主張した。ミケルの意見に刺戟されて一九〇〇年十一月十二日の伯林の新聞には『波蘭禍』なる論文が連續掲載された。此の論文は一八九〇年以來の波蘭人の人口增加から說き始め夫等の波蘭人が漸次に自覺の境域に達しつゝあること、其が單にポーゼンと西プロイセンとの內部のみに止らず、マゾーレン人（東プロイセン州に於ける）にもシュレジヤにも擴がりつゝあること、彼等は經濟的に益々鞏固に赴けること、彼等は外國波蘭人と密接な關係を保ち、彼等の新聞の態度及彼等の煽動の狀況は普魯西國家にとつて危險に瀕しつゝあると論斷したものである。此の思想から出發して一九〇二年一月十三日の議會（普魯西の）に於ける首相（ビューロー）の演說が生れたのである。（彼は、『吾人は我が獨逸國民力の根が枯渴されるのを最早や忍ぶことが能きない、我等の小麥が醜草の繁茂の爲めに壓倒され、我が獨逸の國粹（Volkstum）が或る他の國民の流から押し流されるのを忍ぶことが能きないのである』と云つた）。

（二）一九〇二年以後

右の演說は普魯西の波蘭政策に於ける一百年間の經驗に論據を置いたもので、種々に試みられた政策の後に於て最善と思はれた組織的の方針を述べ、國民性爭鬪の凡ゆる方面を包括したものであつた。其の主要なる點は、獨逸拓殖事業の續行――現存の獨逸主義の維持――兩州の工業化問題と關聯したる

都市及產業の發達促進――獨立自治的事業（例へば組合の如きをいふ）及獨逸分子の一致團結の促進――獨逸精神生活の向上等であつて、夫は經濟及社會政策の綜合的綱領である。此の綱領は普魯西國内に於て波蘭人が住居せる地方を他の地方と同等の水準に迄引上げ他の地方と益々鞏固に結合せんと志したものである。此の綱領は又固より波蘭人に對して敵視せる鋭き尖端を有してゐる。そして此の尖端は波蘭人の努力が彼等の獨立回復に向つて續行する限りは夫れ丈け永く夫れ丈け廣く存續して行くものである。併し乍ら一九〇七年に土地收用法（一九〇八年に發布せられたが實際には行はなかつた）が問題になつた際にも特に言明せられたるが如く、此の反波蘭的政策は此の獨立運動に對して憂慮する理由が最早や無くなつたといふ確證を政府が掴んだ時には波蘭人に對して直ちに溫情的に成り得たのであつたらう。（併し其の前提は到底望み難いものであつたから此の推定は何等の意味も爲さなかつた）。

右の演說に從つて實行せられた施設の中次の如きものが知られてゐる。即ち一九〇二年拓殖委員會の基金は一億五千萬馬克を增加して合計二億五千萬馬克と定められた。一九〇四年拓殖法の補則が發布せられた、之は其の當時極めて危險になつて來た（獨逸側から見て）小分割（土地の）を實際上不可能にしたものである。同年獨逸中流階級金庫が、及び一九〇六年に農民銀行がダンチヒに設立せられた。此の兩金融機關は現存の獨逸農民の土地を其の抵當負債の整理によつて確保し、土地を永久に獨逸人の手に維持する目的を以て設けられたのである。一九〇三年以來都市の實業に對する政策が始まり。殊に西プロイセンに於ては總督フォン・ゴスラアの努力によつて此の農業地方に工業をも盛ならしめんとする方策が講ぜられた。一九〇七年に兩州の都市に於ける地所家屋の所有者の爲め一の金融機關が設けられた。之は右に擧げたる農民の金融機關に準じ都市に於ける中流階級の援助を目的としたものである。拓殖事業は追々其の仕事を進むる中に、必要な土地を自由取引で獲得することが不可能になつたので、一九〇八年には收用の方法によつて土地を獲得し斯くして波蘭人の所有せる大領地を獨逸殖民地たらしめんが爲に引上げる權利が法律によつて拓殖委員會に附與せらるゝに至つた。猶同年拓殖委員會の基金は又も新たに增加せられ王室御料地の買收と大采地の整理との爲めに特別の資金が振充てられた。現存の獨逸分子を一致團結せしめること及精神的に向上せしむることの努力は個々の立法手段をもつて外面的に現はし得ないことは勿論である。併し是等の州を國内の他州と能きる丈け密接な精神的關係に結付けることは一九〇三年ボーゼン市に單科大學（アカデミー）が設立されたり、一九〇四年ダンチヒに高等工業學校が設立されたりしたので、幾分かは實現されたものと謂つて良い。

是等の組織的な大事業を實行するに與つて力のあつたのは一九〇三年から一九一一年迄ボーゼン州に總督として任にあつたフォン・ワルドウであつた。獨逸主義が晩蒔きながら團結したる經濟及文化制度を以て漸次强力に『波蘭人の自治制度』に對抗し得るに至つた功績の一部は實に彼に在る。一方波蘭側は又其れに應じて益々内に鞏まり外を排斥し他州と融合するとか共同するとかのことは一切自覺

を以て拒否しボイコットの手段や各種機關の設立によつて極力獨逸主義に反抗した。斯くなつては獨逸主義の方でも益々自衛の途を講じ、個人的のものと國家的のものとを問はず凡ゆる手段を講じて同じく内に鞏まり外を排斥することに努めるより他に方法が無かつた。此の狀態が歐洲大戰迄續いたのである。併し獨逸側は絶えず守勢の位置にあることを免れなかつた。一九〇〇年迄の統計によると新教及猶太教を奉ずる住民の數は漸次に減退してゐる。其の際波蘭住民の增加は領外からの入國者の爲に惹起してゐるので無くて自然の增加卽ち獨逸人を凌駕する出產率によつて來たされてゐるのである。尤も此の優勢なる增加率は大戰直前に及んで始めて獨逸人と略ぼ同樣の步調となつた。此の事實は波蘭國民内部の發達をポーゼン及西プロイセン兩州に就いて觀た場合最も雄辯に說明するものである。波蘭國民は一八六三年以後は、卽ち巴里のエミグラチオンの勢力が無くなつて以來といふものは餘り著しい外國移住を行はなかつた。そして内的に健康に赴き、文化の古い國民卽ち獨逸人を眼の前に看つつ程度の低い國民の自然力を漸次向上させることに努力し來つた。下層から上層に浮び上る傾向は同じく出產率の點に於ても步調を一にした。一八九〇年から一九〇五年迄の普魯西全國に於ける獨逸人の增加率は二四·六%であつて、普領波蘭人の同時期に於ける平均增加率は二四·六となつてゐる。之は之の點に就て波蘭人が彼等よりも古い文化を有せる國民と同位置に進んだことを證據立てるものである。

此の波蘭國民が今や最も巧みに組織的に系統的に團結したのである。何處の國の協會事業でも波蘭國民に於ける如く盛な成果を擧げてゐるものは無い位である。又一切の協會事業が總て獨立國の再興といふ一定の國民的目標の爲めに努力したといふことは何處の國にも無い事實である。此の事は特に組合同盟と同盟銀行とが異常の發達を見せたところの組合事業の上に最も明かに現れてゐる。此の一大體系の成立は前に述べたが、其の完成に就いては主として一八九二年以來バトロンとして組合同盟の先頭に立ち——既に一八七二年以來其の中に在つて働き來つた——一九一〇年に逝去した僧院長ワウルチニヤクの賜物である。彼は組合が政治に干與することを表面禁じたに拘らず而も其の組合制度を農民協會と唇齒輔車の關係に立ちつゝ波蘭農民の政治的力に造り上げたのである。彼と共に名づく可き人物は同盟銀行の指導者クスツェテランである。彼は此の機關をば波蘭の中央銀行たらしめ彼の指導の下に獨逸金融市場に貴重なる關係を結び付けることが能きたのである。彼無かりせば、そして獨逸資本の直接援助が無かつたならば到底波蘭人の經濟的發達を考へられないことであつたらう。是等組合の全發達は波蘭農民の六十ケ年を通じて向上努力したる其の運動の最後の王冠とも稱すべき乎波蘭の農民は第十九世紀末三十年間に於て全く別な人間に變化し、今日では自覺したる波蘭國民的民主々義の主なる支持者と成つたのである。

是の農民中流階級は小規模移住によりて一層鞏固にされ且つ補充せられた。土地爭奪戰に於ける此

の小規模移住に就いては波蘭人は逸人を凌駕したものと見られてゐる。ザクセンゲンガーと稱し毎年一定の時期にザクセンの甜菜地方に出稼する下級波蘭人は生活費が少くて濟むから生活程度を引下げることを欲しない獨逸人よりも遙かに低い生活條件で小規模移住者たり得たのである。又工業地方に出稼して金を儲けやうとする波蘭人も澤山あつたが、彼等は國外へ出稼するからとて土地に對する欲望が薄らぐかと云へば決してそうでなく、寧ろ反對に土地を得んが爲めに出稼するのである。西方に於て（主としてライン・ウェストファーレンの工業地方）儲けたもので先づ鄕土に於ける土地を買ひ自分の家族をして其の土地を耕やさしめたものである。波蘭の土地分割組合及銀行が此の方法を奬勵促進したことは前章にも述べた通りである。當時波蘭下流階級では自分固有の土地を得やうとする欲望が非常に强かつた爲め全く法外な値段を拂つて分割機關に應募する者が無數にあつた。之が爲め斯樣な自作農の數は兩州に約二十萬ヶ所以上にも上り、一九〇四年の拓殖法補則が發布せられて始めて右の方法は著しく制限され或は部分的に不可能となり其の結果幾分かは獨逸拓殖事業に有利となつたのである。

都市に於ける波蘭側中流階級の發達は農民の發達の如く左樣に速かなものでなかつた。此の階級は一八七三年頃迄は經濟的に萎靡して振はなかつたのであるが一八八〇年代の初め頃から漸く擡頭し始め一八九五年に至つて各所の波蘭工業協會（Gewerbevereine）は遂に一の同盟團體に結合することが能きたのである。併しまだ〳〵地方に於ける農民の組織とは比肩すべくもない、殊に組合思想の利用といふ點は全く缺如してゐたと云つて差支へない。併し此の新たに成立したる波蘭の手工業者組織に就いて吾人の認むべきところは、獨逸の手工業が國家の援助を多分に俟つて始めて促進されたのに引替へ、波蘭のは一切自主的に獨力を以て起ち上つたことである。

手工業者が起ち上ると共に、商人社會に於ても、少くも波蘭商人團の芽生えたるの觀を呈したる各種の協會が既に存立してゐた。

一階級下がつて勞働者社會では都市に於けるものは波蘭の大同業組合たる『同業協會』の支部として各自の機關を組織し、此方に於ては『舊敎勞働協會同盟』なるものが存在し舊敎僧侶の指導の下に農業勞働者が團結した。其の他一八九三年に創立せられたソコル（Sokol）といふ體育協會がある。之はチェック人のソコルに模倣して造つたもの（ソコルといふのはスラヴ語で鷹の意味であり同時に英雄乃至勇敢なる人）である。それから一八八〇年に設けられた國民圖書館協會といふのがあり、一九〇三年に成立した政治的の機關でストラシュ協會（守衛の意）並に中央選擧委員會を先頭に有つた地方選擧委員會がある。其の他にも猶種々の協會があるけれども先づ少くも以上に擧げたものが經濟、社會及政治の範圍に於ける波蘭人の主要なる機關である。波蘭國民が總ての點に組合思想を擴げ何につけても直に何々協會とか何々組合とかを設け時には殆ど滑稽に或は奇怪（グロテスク）にさへ見えるやうなものを造り上げ

るのに興味を有たことは戰前十數ヶ年に於ける波蘭の特徴であつた。殊に以前の同國民は其の特性として一切の系統的團體組織の能力と訓練とに缺けてゐたのであるから、右の傾向は一八六三年迄の同國民の歴史に全然相反するものであつた。然るに其の組合制度發達の結果今や同業組合及協會に團結せるポーゼン及西プロイセンの農民が固い基礎の上に立ち其の農民に倚りかゝつて都市の中流階級が成立の緒に就くことゝなつたが其の又中流階級は宣傳によつて上部シュレジヤの波蘭人を其の一翼とし、ラインランド及ウェストファーレンの波蘭人を其の他翼として相結合したのである。殊に此の後者との結合は、ザクセン出稼や工業勞働に於て儲けたる賃銀が常に鄕土にて發達の過程にある國民經濟に注ぎ込まれ其の血液と化するといふ形式を以て益々内的に鞏固にされる傾向を執つた。之が爲に民主々義の發達が驚くべき進歩を爲したこと、及僧侶の勢力が少くも地方に於ては猶極めて大なる價値を存してゐる一方貴族の位置が甚だ微弱となつたことは更めて謂ふ迄も無い。世界主義的（コスモポリチック）な華冑者流は今や殆ど世間から忘れられ、兩州に居住せる貴族も民主的行動を執るか若くは現代の經濟事業に自ら一の位置を占るか其のいづれかを擇ぶに非ざれば漸次地歩を喪つて行くといふ有樣であつた。

波蘭側に於ける此の堂々たる發達は一は獨逸側の攻擊の爲めに大いに助長されたことは疑を容れぬ即ち獨逸側は一八八六年以來拓殖法の武器を以て正面から波蘭人に肉迫したのであるけれども、而も同時に數億馬克の金を其の當時迄は資金難に惱んで居た兩州に注ぎ込んだのである。斯くして土地爭奪戰が開始されたのは恰度西部獨逸の工業が外部からの勞働者を需用し始めた時機であつた。一八九四年からは右の爭鬪が一層激烈となり、其と共に西部に於ける工業の勃興は益々波蘭勞働者を其の渦の中に捲込み、其の賃銀は右の爭鬪に於て物質的に波蘭人の力を強めた。されば獨逸側も亦漸次組織的に之に對抗しなければならなかつた。一八九五年以來獨逸人は地方農業組合の舞臺に於て波蘭人の優勢な位置に追付かうと努めた。併し何麽に努力して偉大なる成績を擧げたにしても自助獨立の組合機關の舞臺では何と云つても波蘭人が常に一歩先じてゐたことは確かである。其の代り獨逸の分子は背後に國家といふ支柱を控へ、之が此の兩州の爲めに非常な犧牲を拂つたのである。此の國家の事業に於ける脊椎は何と云つても拓殖委員會の事業であつた。此の事業は第一に波蘭政策の手段ではあつたが同時に又内地殖民の重要なる一部であつた。此の内地殖民の必要は兩州の狀態が自ら然らしむるものであつて、ポーゼン縣、ブロンベルグ縣及マリエンウェルダア縣の個人大所有地は今日も猶農作に利用せる面積の半分を包括し、ポーゼン州に於ける大領地（Latifundium）は普魯西の國家内で一番大きな廣袤を有してゐるといふ事實が社會政策上どうしても内地殖民を行ひ以て一國内に於ける個人王國を除去しなければならぬといふ政策を特に此の地方に施行せしめる原因となつたのである。二十數年間に及んだ本事業の影響は國民的爭鬪を激烈ならしめつゝも此の兩州を物質的に向上せしめたこ

とは計り知るべからざるものがあり、其れが爲め直接にはちつとも手を觸れなかつたけれども間接に多くの都市の勃興をも促した。但し又之が爲めに土地に對する投機熱を喚び起し、地價の變則的昂騰を惹起したのは本事業影響の暗黑面とも謂へる。

右の如く國家の必要上執つた經濟政策は都市の勃興卽ち波蘭中流階級の勃興を促した爲め都市に於ける獨逸中流階級にとつては不利なる影響を蒙つた。此の階級に不利を齎したのは猶ずつと以前一八六七年に發布された移住自由法がある。其の當時迄は都市に於ける中流階級は殆ど全部教養ある獨逸人で以て形成してゐたのが此の法律によつて入市稅が撤廢されたので其れ迄都市から離隔してゐた田舍の住民は流を爲して都市に入込み最初は生活費の安い郊外に住み漸次經濟狀態の向上と共に都市の中央に居を占めて波蘭中流階級の芽を吹き出したのであつた。其れと同時に獨逸中流階級の堅實な分子が漸次土地を去る傾向が生じ、波蘭中流階級發生の結果之と競爭を惹起し大資本の經營を以て相互に鎬を削つたなどは獨逸中流階級に不利益な結果を與へた。ところが此處に獨逸側にとつて非常に有利であつたことは（國民性爭鬪の點に於て）此の兩州の眞の意味に於ける工業化といふことをどうしても考へ得なかつた事實である。人々は種々に努めて各種の困難に打勝たうと試みたに拘らず、決定的に工業の發達に適せぬ事實卽ち石炭と工業原料に缺けてゐること、殊に必要な獨逸人勞働者を得るといふことの困難に對しては手の下しやうが無かつた。此の兩州は永久に主として農業を以て立つて行かねばならぬ運命を有つてゐたのである。

偖てポーゼン及西プロイセンに於ける波蘭主義は前述の如く絕えず外部の波蘭主義と連絡を取り、凡ゆる方法をもつて夫を己の翼下に收めんことに努力した。北方ではマゾーレン人及びカスベ（之は波蘭人がダンチヒ附近に於ける邊海土着の一スラヴ族に與へた名で『無智にして哀れなる人間』といふ程の意味を有つてゐる）に宣傳し、南方では上部シュレジヤ人を煽動して反獨氣勢を唆り國民性爭鬪の助けとした。

一九〇五年の戶口調査に據ると、普魯西に於て、言語により波蘭人と見做すべき人口は三百三十二萬五千七百二十あつた、之を各地方別にすると一百二十二萬一千二百七十がシュレジヤに、一百二十一萬六千二百六がポーゼンに、五十六萬七千三百二十八が西プロイセンに住んでゐた。是等の人々の中へ獨逸に於ける大波蘭運動がポーゼン州から發して扶植されたのである。是等の住民の中から既に露領波蘭の暴動に、一八三〇年には一千八百三十名の者が、又一八六三年には同じく數千名の者が參加したのである。彼等の中に於て、前世紀の五十年代六十年代七十年代に初めての波蘭國民的の協會や組合や新聞が發生したのである。彼等は其の後引續き精神的刺戟と財的手段とを以て全運動を促進するところの中心點を作り來つたのである。此の中心點から其の運動が先づ第一に西プロイセンに移された。西プロイセンでは僧侶が多く躊躇逡巡したに拘らず漸次に其の運動の效を奏した。一九一〇年代には

其の煽動の手が所謂カスベ卽ち西プロイセンとポンメルンとの境界地方に迄轉じ廣がつた。カスベに對する波蘭人の努力は驚くべきものがある。波蘭は元より一の海港をも有しない、昔時波蘭ヤゲロン王朝時代には北海から黑海迄を掩有してゐたことを思ひ『海への窓』としてカスベ地方を渴望した。

上部シュレジヤが波蘭煽動區域中に引入れられるやうになつたのは極く最近である。此の地方では之に接近せるガリチヤからの影響で僅かに第一年生といつた程度で其の運動を認め得る位のところであつた。それもガリチヤが一八六六年以後行政上に於て非常に廣汎な自由を得てからのことである。其の當時ブレスラウの學生が作つた『上部シュレジヤ波蘭人協會』に於て初めて『波蘭の』といふ語を國民（結束）的意味に解釋した一團が生じたのであつた。此の協會は其の後間もなく會員が少くて解散したが、一八八〇年に至り再び學生により『上部シュレジヤ協會』が創立された。此の會は約六年の後解散した。其の後一八九二年に『上部シュレジヤ學生學會』が代つて設けられ七年後には之も解散することになつた。是等の協會は年一年漸進的に强さと自覺とを以て波蘭國民性を强調し、論文、講演及小冊子によつて國民に影響を與へた。是等の協會に屬した者は例へば其の後代議士となつたスツラム、コルファンティ、ブランディス、スコウロネク等で是等の人々が運動の支持者となり組織者となつた彼等は常にボーゼンの波蘭人と連絡を保つた。ボーゼンの波蘭人は又彼等を能ふ限り、給費制度や煽動や適當な指導者の派遣等によつて援助した。併し波蘭人の選擧有權者が重大なる意義を有するに至つたのはやつと一九〇三年で（四萬四千人）一九〇七年にはもう十一萬五千に上つた。其れ以來新聞や協會や其の機關が引續き地歩を獲得するやうになつた。殊に其の運動はガリチヤの波蘭主義と連絡を取ることによつても隨分勢力を增したのであるが、其の連絡を明かに物語るものは、彼等が屢々行ふガリチヤへの團隊遠足である。上部シュレジヤの波蘭人が或時（一九一〇年頃）試みた聖靈降臨祭のクラカウへの遠足には約三千名の人が參加した。此の團隊はクラカウでミツキーウヰツツ（巴里エミグラチオンに於ける波蘭最偉大の文豪、夫の「葬式」の著者）の記念像の前に花環を供し、在りし日の波蘭王城を參觀し、ガリチヤの波蘭人と祕密會合を開き以て（開會の辭を述べた者が其の演說の初めに强調した如く）『不幸なる祖國の再興に對し確固たる信念』を一層强固にしたのである。波蘭人が斯の如き方法に出るので、國家としても已むなく、近代迄は平和に暮して來た此等の地方に對しても、其の方法は別に取り立てゝ明示することが能きないけれども少くも政府に於ては一定の自覺を以て國民性的政策を施すやうになつた。

ラインランド・ウェストファーレンに於ける運動も極く最近のものである。之に就ては後段別に詳述する筈であるが、此の地方は工業が盛で勞働者は有利な條件で作業に從事することが能きたから、一八八〇年代以後は隨分多くの波蘭人を牽付けた。其の結果波蘭勞働者が多くの市町村で住民の著しい部分を形成することゝなり、從つて多數の蘭波手工業者、商人、行商人、代理業者、飲食店等が夫等

の地方に移住して行つた。彼等は其處で民族的性質の無數の協會を設けた。斯の如き發展を爲した最初の動機は一九〇三年に行はれたボックームに於ける礦山勞働者の『波蘭職業組合』の創立からであつた。（一九〇六年に此の工業地方に於ける波蘭人は、尤もマヅーレン人も加算して、次の如き數を示してゐる。政府直轄地デュッセルドルフには約八萬四千名、ウェストファーレンには二十二萬九千六百九十七名。彼等は其の一ヶ年間に合計約八萬六千回の會合を催してゐる。ホスト＝エムシャアでは五千四百三十九名の波蘭人が非波蘭人一萬九百九十七名と共に住んで居り、ビュールでは一萬四千百十二名の波蘭人が一萬八千五百六十六名の非波蘭人と、ボットロップでは一萬三千七百九十一名が二萬二千三百八十九名と共に住んでゐた。＝一九〇八年四月五日のドイッチェヲハト紙所載）。一九〇七年には是の工業地方だけで既に大略二萬五千の波蘭人が選擧權を有してゐた。

次に波蘭の煽動は東プロイセンに向けられた。此の地も同じく波蘭勢力地域と定められたのである。此の地方に於ける仕事は舊教地方であるエルムランドの外に南方諸郡（リイック、オルテルスブルグ、ゼンスブルグの如き）に住居するマヅーレン人に向つて施された。尤も是等の民族は彼等が國家及王に對する忠實の誠心を充分に表明し、言語も可なり訛つて來てはゐるが獨逸語方言の一種を話し且つ信教も福音教であつた。併し宣傳の努力が存する限り波蘭主義は相當に彼等の中に地歩を占めた。之に與つて大に力のあつたのは、特にマヅーレン人の煽動の爲にオルテルスブルグに於て創刊せられた『マヅール』といふ新聞であつて、此の新聞はマヅーレン人の愛國的及新教的觀念に巧みに適合しつゝ而も傍ら極めて徐々に大波蘭的思想に誘導する政策を採つたのである。

東プロイセンに於けるマヅーレン人の數は十五萬乃至二十萬と稱せられてゐた。此の他ポーゼン及シュレジヤの境界諸郡（アーデルナウ、シルドベルグ、ケムペン、大ワルテンベルグ等）に約四萬五千の波蘭人で新教信者が住んでゐた。是等の住民に對しても多量の『マヅール』紙を無料で配布して煽動が行はれた。『マヅール』紙は表面新教牧師が發表したやうに見せかけた宗教的性質の論文や觀察を記載したが、其れ等の論文に引證せられた聖書の章句がヴルガタ（羅甸語譯の聖書）から引用されてゐるので其の外觀を裏切つた。ヴルガタは羅馬舊教僧侶の聖書であつて耳を蔽ふて鈴を盗むの失を屢々仕出來かした。『マヅール』紙の後楯は以前は有名なヨゼフ・フォン・コスチールスキが其の主なるものであつたが、其の後ワルシャウに於ける大波蘭主義者として名ある辯護士オッソウスキが其の大部分の經費を負擔した。

大體に於て波蘭人はワイクセル河口からミスロウ井ッ（シュレジヤの南端）迄の間に自覺したる波蘭運動を植付け、獨逸の版圖から、獨逸が其の位置の維持の爲めに絶對に必要とせる部分を波蘭運動の紐で括り取らうとの努力を續けたのである。而して猶ほ百萬の波蘭人は獨逸工業地方卽ち獨逸の核心乃至心臟と稱せらるゝライン及ウェストファーレン地方に入込んで定住し、右の波蘭運動を本來の獨逸

母國の眞中に迄擴げたのである。

波蘭國民的運動は、以前は其の指導者として第一に貴族、第二に僧侶が之に任じてゐた。近代は茲に一の變化を來し、貴族は最早や國民の本質的指導者として目せられない、貴族が單に其の階級を土臺にしたとて政治上では何等の特權も認められないし、實際に於ても指導の權威は大體彼等の掌中には無くなつた。そればかりでなく寧ろ彼等は敵視されるといふ傾になつた、といふのは彼等は急進的なところを充分に示さないからである。民主的の色彩を有してゐる貴族例へばミールチンスキ、クラボウスキ、ツォルトウスキの如き人々の勢力すら、押しも押されもせぬと迄は云へなかつた。其れと同樣國民は最早や其の指導者を僧侶に求むることの無意味なるを考へるやうになつた。僧侶はそれでも若し彼等が自ら波蘭的であり國民的である行爲に出でた場合だけは流石に決定的な勢力を有した。彼等にして此の行爲に出でなければ新聞や會合で頭から非道くこき卸され盛な攻擊に出逢つたものである。

尤も貴族と僧侶は其の後も猶國民生活の重要なる分子であること、及今日の波蘭主義は其の國民的發達に於て彼等に負ふところが大にあつたことは見逃してはならぬ。併し乍ら此の兩者と雖も、若し第三階級卽ち中流階級が發生しないで居たとしたら、其の運動を大戰直前の狀態に迄持來たし且つ之を固めることは決して能きなかつたであらう。

波蘭國民の努力は特別の經濟力を作り出した。之は波蘭中流階級が發達し此の階級が勢力を有するに至つた爲めで、此の事は極く最近に至つて始めて明かに獨逸國民の眼に映じ來り、從つて波蘭問題は以前とは全く別の意味で取扱はれ、全く別の意味で危險來が叫ばれるやうになつた。人々は前には陰謀の危險なる仕事や國際的の紛擾を憂慮の眼を以て見たのであるが、今や波蘭問題には全く別な性質が現はれ始めた。卽ち經濟的及精神的生活の現代化によつて波蘭の此の國民は民族國家を形成するのに充分の成熟を遂げてゐるやうに見え、斯くして獨逸國からの脫離が暴力に依らずして自ら必然的に行はれるやうに準備が整ひ、普魯西の波蘭地方から經濟的に獨逸人を驅逐することが能き、且つ此の地方に於ける波蘭の經濟力が完全に固定した曉には、ガリチヤ及露國の同胞と相提携せんとする氣配が見えたのである。彼等が只々其の機會を待つたことは左の文書に依つても之を推すことが能きる。

一九〇五年八月ポーゼン市に於て刊行せる波蘭新聞『プラカ』は曰く『波蘭國民の利益は最も大なる傳來の敵の沒落――卽ち獨逸國の沒落を絕對に必要とするのである。彼獨逸は實に其の國家の機關と其の他凡ゆる力とを糾合して波蘭人の剿滅に努むるを以て滿足せず、露國、墺國及到處に於て我等の勢力を彼の外交によつて削減し以て波蘭人をして無力たらしめんことに汲々としてゐるのである。露國の敗北は我等にとつて少なからざる利益を齎らした。夫はポーゼンに於ける難治の親露病には一服の

清涼劑であつた。併し獨逸國の敗北は吾等にとつて百千倍の利益でなければならぬ。夫はつまり波蘭國民の具體的復活に至るべき必須條件であるのだ。若し獨逸國にして露國が其の奉天及對島沖の戰に於て逢着したと同樣のものを經驗するに於ては、其の時こそ我が波蘭人の胸は始めて息を吹き返すことが能るのである』。

之の機會は待つ甲斐あつて間もなく遂に來たのであつた。

第十二章　波蘭人の諸機關

前章迄は逐章普魯西政府と波蘭との葛藤を縱に時間的に見て來た。第十一章「一八九四年以後」を一章に包括するには餘りに內容が多過ぎる。其處で今後は橫に敍述することにした。從つて本章以下を時間的に見れば「一八九四年以後」に含まれることになるのは勿論である。

波蘭人の諸機關は各階級を網羅し、各地方を包含する。如何に小さな町でも、又可なりの大きさを有つ村ならば各種の協會めいたものを有せぬ處はない。(例＝一九〇九年初頭露境に接して居るバコシュといふ約三千五百の人口を有する小さな町に、ソコル會、勞働協會、聲樂會、自轉車協會、手工業者組合、商業組合、文庫協會、青年團があつた)。各機關は外觀は甚だ多種多樣である。其の或るものは純俗のものであるが又一部のものは其の會則に、例へば無數の寺の講の如く僧侶の指導により宗敎的目的を規定してあるものもある。中には一定の職業とが階級に屬する者のみを會員と爲せるものもあり、又各種階級を網羅して居るのもある。それから其の會の目的により豫め場所によつて制限を設けたのもあれば、又反對に全獨逸のみならず國外に迄も其の翼を張つて居るのもある。此處には經濟的目的を有せる組合が存在するかと思へば、彼處には單に社交的なもの又は音樂的若くは肉體的或は精神的訓練の促進を眼指したのがある。併し夫等の總てに共通なものは——多少によらず明かに特長付けられてあることは——民族的自覺の助を以て波蘭國民的利益の促進といふ一の目標を有して居ることである。

各機關の數と範圍とは精密に之を通覽することは能きない。彼等に關する明かなる知識は彼等が一の同盟團體に統一されて居る場合に限り之を知ることが能きる。此の同盟團體は全機關の事業に於ける大なる發動輪轉機である。此によつて地方各協會の小さな車が總て活動し其の活動が維持されて行くのである。

各同盟團體の指導者の中でも頭株の人は總て同時に數團體の勢力ある位置を有するのが常である。市會議員にして法王侍從(肩書)なるステファン・ツェギールスキはポーゼン州選擧委員會長、商業協會聯盟總裁、殖產經濟組合銀行監査役會長、マルチンコウスキ協會幹部員を兼ねて居た。敎長(プレラート)(肩書)ワウルチニヤクは同業組合同盟のパトロン、僧侶會長、新聞業者會長、ポーゼン州選擧委員會副會長を兼任し、カノニクス僧にして敎會長なるアダムスキは婦人勞働者協會長、僧侶會書記長、地方勞働

者協會祕書長、同業組合同盟後見會員を兼任して居た。辯護士ベルンハルド・フォン・クラツァノウスキ（前代議士）はソコル會長、ストラシュ協會啓蒙部長、國民圖書館協會幹部員であり、代議士、辯護士ジーグムンド・セイダはシュレジヤ・ソコル協會會長兼シュレジヤ教育補助協會會計長であり、采地所有者フオン・クラポウスキ＝ルツェゴチンは農民協會のパトロン兼同業組合同盟監査役であつた。即ち玆に恰度指導者と團體との一の輪が生ずるのである。從つて斯の如き制度から指導者にとつてば極めて重大な人格的影響を受けることゝなり、各協會にとつては各々の目的を達成し、且つ總體としては共通の目標に向つて統一的に經營し得る確實性が一層强固にされることは勿論である。波蘭信用組合といへば經濟的機關に相違ない。併し之が政治的勢力を意味するに至つたのは右に云へる指導者の輪から生じた結果である。此の輪は事實上政治的、經濟的社會的及宗教的生活を支配して居るので、夫は新聞とか僧侶とか地主とか學者とかいふ社會の權威ある分子が殆ど例外なく其の輪の爲めに、其の輪の意味で働いて居るに徵して當然謂ひ得る斷言である。

此の輪は換言せば人格連結である。人格連結は波蘭諸機關の原則である。之は表面の純經濟的分野から政治爭鬪分野に移り行くべき橋である。國民性爭鬪を續けて行つてゐる間は斯樣な一種の型が波蘭諸機關に生じたのである。信用組合若くは同業組合たるものは國民的政治に一切關與すべからず、然れども信用組合及同業組合の指導者は民族政策的事業に關與して之を指導せざるべからず、と之が人格連結の內容である。人格連結は波蘭自治的團體制の生きた括弧である。此の人格連結の巧妙にして廣汎なる利用といふことがあればこそ、波蘭の諸機關も眞の統一を達成することが能きたのである。

（一）ポーゼン及西プロイセンに於ける波蘭農民共和國

勤勉な波蘭人は玆二十年が程といふものは同時に起つた二つの事實によつて頭を占領されて居た。一は土地爭奪戰であり他は獨逸工業の急激な勞働者需用であつた。此の二つの事實は偶然殆ど全く同時に起つたばかりでなく其の個々の消長迄が一致した。一八八六年に近代拓殖政策を以て土地爭奪戰が始まつた、そして其の同じ時に永年雌伏して居たライン・ウェストファーレンの工業が勃興して約二萬の波蘭人を牽き付けた。それから四年經つて融和時代に於ける土地爭奪戰は溫和な形式を執るに至つたが、同時に一八九〇年の經濟危機は工業の發展を一時中止させた。一八九四年波蘭諸州に於ける拓殖爭鬪は再び激烈になつた。同時に工業も亦再び勃興して勞働力を盛に吸收し始め波蘭では西部地方の出稼の話で持きりになつた。此の平行線は斯くして最近迄續いて來たのである。

右の事實から『土地爭奪戰に於て東部地方の農業から逐ひ出された波蘭人は西部に流れ行く』といふ判斷を下した人も少くない。之で二つの事實の關係はよく分ることになり、『波蘭の工業化』といふことも話され目論まれもしたのである。それで波蘭人の中には拓殖政策は波蘭人を壓迫し一部は東方の諸都市に彼等を逐ひ遣つて商工業を營ましめ、一部は西方の工業地方に逐ひ遣つた、農業の分野は

狹められたから波蘭人たるものは今後商工業に身を入れなければならぬと論ずる者も出て來た。

此の思想は拓殖政策が始まつてから數年後に既に發生して居たものである。當時波蘭人は、我々から土地を取り上げるなら我々は工業と商業とに突進しやうと言つた。之は誠に論理的である如く見え人々は之を信じ此の理論は直ちに信念となつて了つた。波蘭の諸新聞は常に波蘭人に提供されたる工業的事業と商業の機會を論議した。其れ等事業の各成績は遺憾なく報道せられ進歩發達に於ける一階梯として確認せられた。商工業に對する興味は增して來た。マルチンコウスキ協會は其の養成せる給費生の多くを實業的研究の方面に向けた。同業組合は其の以前にも增して產業經營や商業的事業の援助の爲めに金融を計つた。

併しながら此の『波蘭人を農業から驅逐する』といふ理論は間違つて居た。當時波蘭人が、世間の信じたやうに、拓殖政策の爲めに眞に土地から逐ひ出されたものであつたら、彼等の行つた商工業の强行といふものは大した成績も擧げ得なかつた筈である。何となればポーゼン及西プロイセンに於ては商工業と云へば必ず農業に立脚しなければならなかつたからである。土地爭奪戰は事實全く別な經路を經て來たのである。之が爲に波蘭人は其の農業的事業の範圍を狹められは爲なかつた、反對に寧ろ擴張せられたのである。卽ち以前には多くの大領地は其の經營が拙劣で中には荒蕪に任せたものがあつたのであるが、今や其に代つて活潑に働く波蘭農民が土地を耕すやうになり、獨逸人の手からも相當多くの土地を獲得した。

此の土地爭奪戰が如何樣に行はれたか、又どうして此の爭鬪が普魯西政府の最初に期待して居た處と全く別な方向を執つたかに就ては後段別に章を更めて說くことゝするが、兎に角拓殖爭鬪は二十年來ポーゼン及西プロイセンにとつては一の惡魔の如きものであつた。豫想だもしなかつた地價の變動は經濟力を殺ぐことが夥しかつた。投機は時の狀況を左右した、不動產市場に於ける商業道德の頹敗は東境地方の特有となつた。

此の爭鬪は波蘭國民の階級を滅茶々々に變化し、爲に普領波蘭人は其の名ある歷史的構造を殆ど全然喪つて了つた。卽ち貴族寡頭政治から一種の農民共和國が出來上り漸次に之が鞏固に赴くといふ有樣になつたのである。農民共和國といふのは單に言葉の言ひ廻し方に過ぎぬけれども、普通の協會制度を言ひ表す言葉よりも寧ろ國家的制度に倣つた觀念を表白した方が一層痛切な感がするのである。

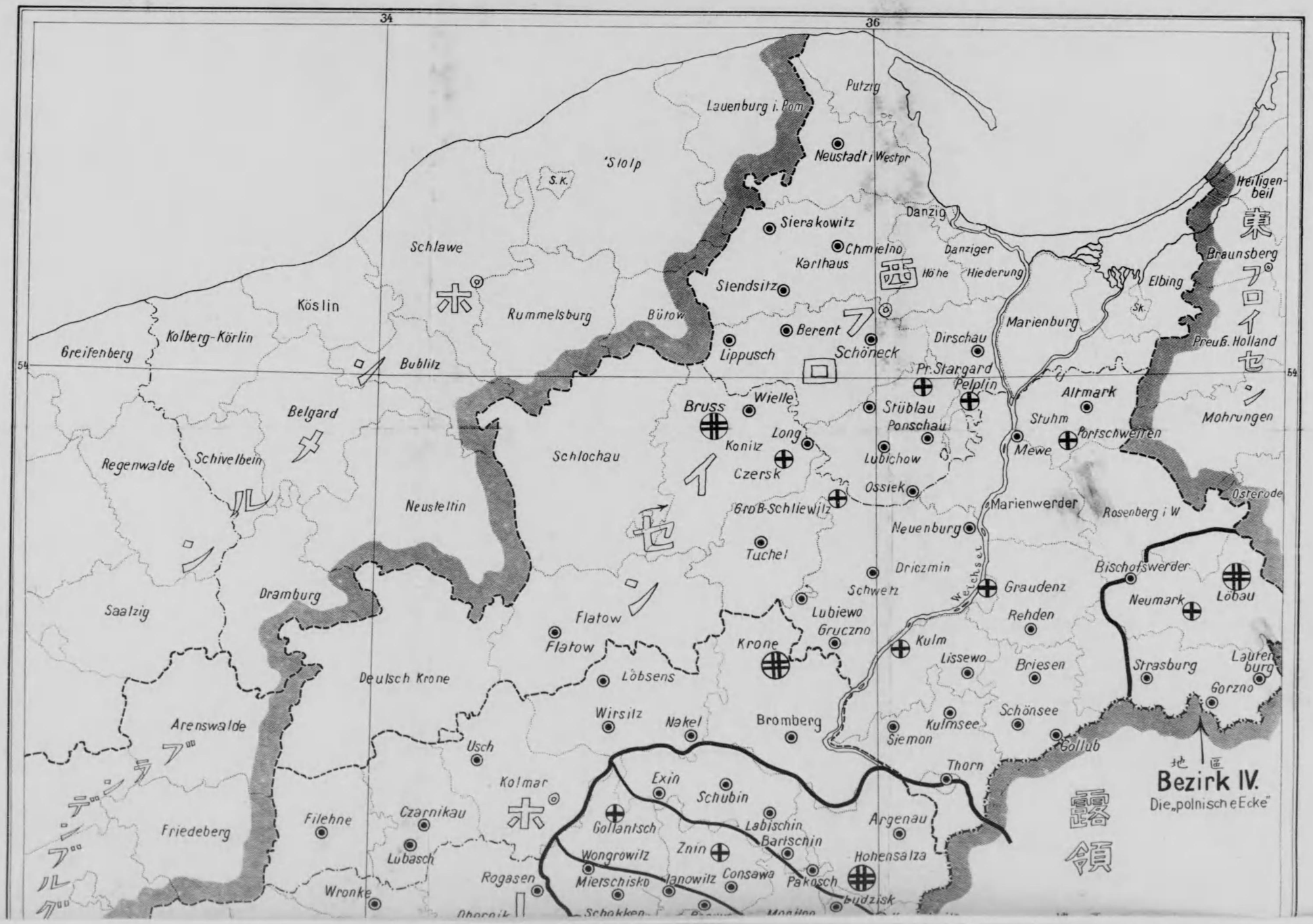
此の農民共和國の基礎を明かにする爲めには次のことを注意して置かなければならぬ。卽ちポーゼン及西プロイセンに於ける各郡は多少ともに波蘭人の方が多いのみならず之に接して居る各州に於ても矢張り波蘭人口數の方が優勢を示して居る。此の波蘭主義が勢力を有つた廣い範圍は普魯西王國の殆ど全東部地方を蔽ふのであるが、之が同時に二個の位置から治められることになつて居た。第一は無論普魯西の公の政府であるが、第二の政府は波蘭主義が或る一點に集注され、且つ波蘭人が單に人

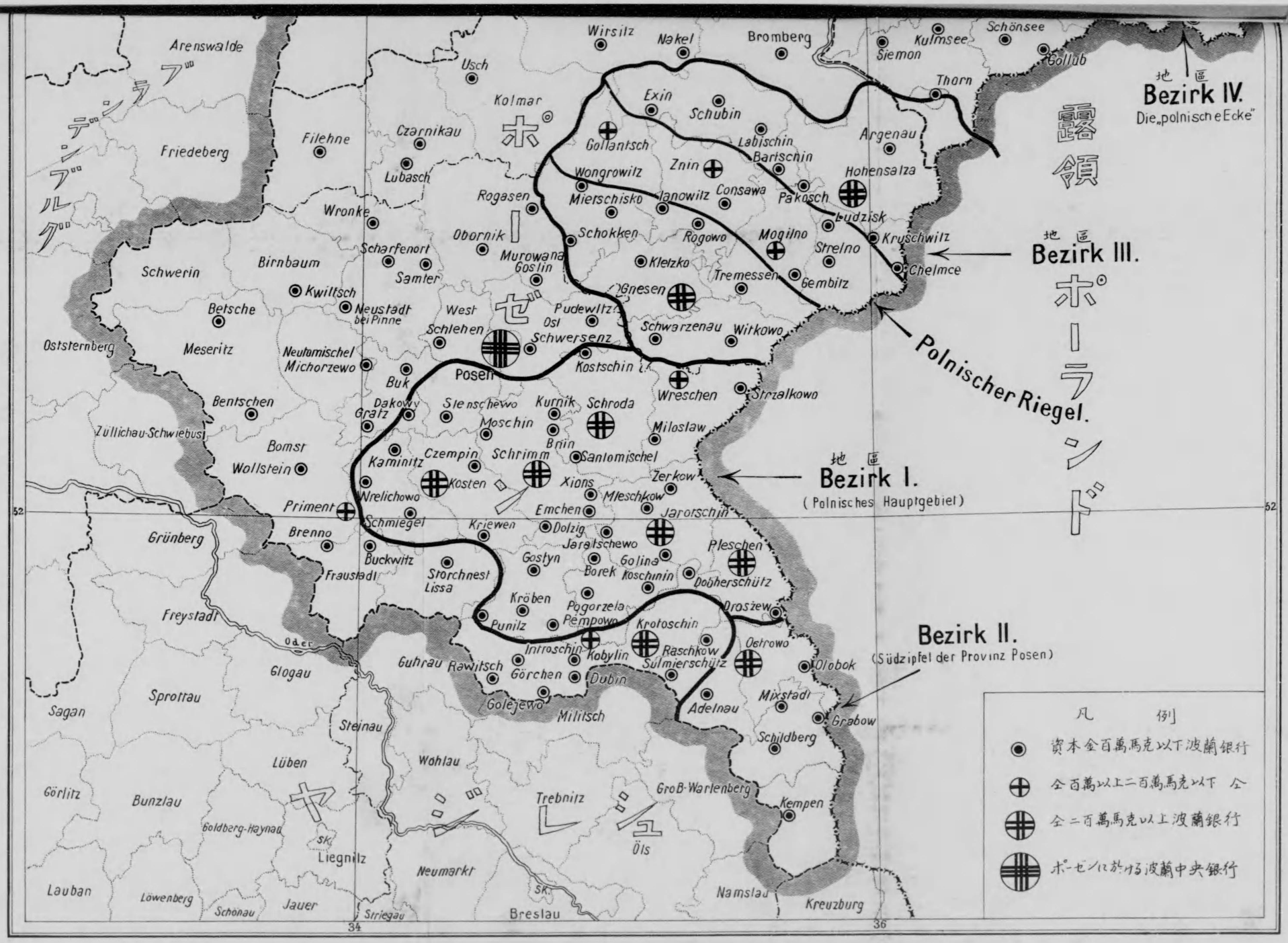
口數だけで優勢なるのみならず土地も亦其の最大部分が波蘭人の手に在るところの一定の地域に基礎を有つて其の固有の領分に於ける波蘭人に統一的傾向を與へて居る一の機關である。

此の波蘭主義によつて經濟的にも精神的にも支配されて居る地域は露西亞國境に沿ふて延びて居りポーゼン市の南方に於て西方に突出して居る。之れに西プロイセンの僅かな地域（レバウ郡附近が加はる。附圖には是等の波蘭の地域が四つの地區に分れて居ることを示す。第一の地區は（附圖Ⅰとせる地區）約六十萬ヘクトアールを包含する、卽ちポーゼン縣の三分の一以上の土地であつて其の約三分の二は波蘭人の有である。住民中波蘭人は八十四パーセントの率を示して居る。第二の地區（Ⅱの地區）は約二十萬ヘクトアールを包含する、卽ちポーゼン縣の八分の一の廣さで其の約五分の三は波蘭人の所有地であり、波蘭人住民は八十五パーセントである。第三の地區は普魯西拓殖委員會が最も努力して土地の獲得に努めた地方であつて、其の廣袤は約二十二萬ヘクトアール、其の中の半分以上は波蘭人の有で波蘭人口比率は八十パーセントである。最後に第四の地區は西プロイセンのレバウ郡及之に接して居るストラスブルグ郡の一部に在つて波蘭人口比率は八十パーセントである。

波蘭の勢力は此の四つの地方を中心とし。ポーゼン州及西プロイセン州に擴がり、進んで境界諸州に迄及したのである。

(イ)　農民の機關


34
36
54
54
Putzig
Lauenburg i. Pom.
Neustadt i. Westpr.
Slolp
S.K.
Heiligenbeil
Danzig
Sierakowitz
Chmielno
Karthaus
Danziger Höhe
Hiederung
Braunsberg
Schlawe
Elbing
Sk.
Köslin
Rummelsburg
Bütow
Stendsitz
Marienburg
Kolberg-Körlin
Berent
Dirschau
Preuß. Holland
Greifenberg
Lippusch
Schöneck
Bublitz
Pr. Stargard
Pelplin
Altmark
Belgard
Bruss
Wielle
Stüblau
Stuhm
Mohrungen
Ponschau
Konitz
Long
Portschweiren
Schivelbein
Regenwalde
Schlochau
Czersk
Lubichow
Mewe
Ossiek
Osterode
Neusteltin
Groß-Schliewitz
Marienwerder
Rosenberg i. W.
Neuenburg
Tuchel
Driczmin
Bischofswerder
Dramburg
Schwetz
Graudenz
Lobau
Saalzig
Flatow
Lubiewo
Gruczno
Rehden
Neumark
Flatow
Krone
Kulm
Lissewo
Briesen
Strasburg
Lauenburg
Deutsch Krone
Löbsens
Gorzno
Wirsitz
Nakel
Bromberg
Kulmsee
Schönsee
Arenswalde
Usch
Siemon
Gollub
Thorn
Kolmar
Exin
Schubin
Bezirk IV.
Die „polnische Ecke"
Czarnikau
Gollantsch
Labischin
Argenau
Filehne
Friedeberg
Barischin
Wongrowitz
Znin
Hohensalza
Lubasch
Rogasen
Mierschisko
Janowitz
Consawa
Pakosch
Wronke
Budzisk
Schokken


Bezirk IV.
Die „polnische Ecke"
Bezirk III.
Polnischer Riegel.
Bezirk I.
(Polnisches Hauptgebiet)
Bezirk II.
(Südzipfel der Provinz Posen)
露領ポーランド
凡例
資本金百萬馬克以下波蘭銀行
金百萬以上二百萬馬克以下 金
金二百萬馬克以上波蘭銀行
ポーゼンに於ける波蘭中央銀行
Posen
Bromberg
Thorn
Kulmsee
Schönsee
Gollub
Siemon
Wirsitz
Nakel
Usch
Kolmar
Exin
Schubin
Gollantsch
Labischin
Bartschin
Argenau
Hohensalza
Znin
Wongrowitz
Mierschisko
Janowitz
Consawa
Pakosch
Ludzisk
Kruschwitz
Chelmce
Rogasen
Obornik
Murowana Goslin
Schokken
Rogowo
Mogilno
Strelno
Kletzko
Tremessen
Gembitz
Gnesen
Pudewitz
Schwarzenau
Witkowo
West Schlehen
Ost Schwersenz
Kostschin
Wreschen
Strzalkowo
Miloslaw
Zerkow
Mleschkow
Jarotschin
Pleschen
Droszew
Ostrowo
Olobok
Mixstadt
Grabow
Schildberg
Kempen
Gross-Warlenberg
Adelnau
Sulmierschütz
Raschkow
Krotoschin
Kobylin
Dubin
Militsch
Rawitsch
Guhrau
Görchen
Golejewo
Punilz
Pempowo
Pogorzela
Kröben
Borek
Koschmin
Golina
Doberschütz
Gostyn
Jaraitschewo
Dolzig
Emchen
Xions
Briin
Santomischel
Schroda
Kurnik
Schrimm
Czempin
Kosten
Moschin
Siensche wo
Dakowy
Gratz
Buk
Michorzewo
Neutomischel
Meseritz
Bentschen
Zullichau-Schwiebus
Bomst
Wollstein
Kaminitz
Wrelichowo
Schmiegel
Kriewen
Priment
Brenno
Buckwitz
Fraustadt
Storchnest
Lissa
Grünberg
Freystadt
Oder
Glogau
Sprottau
Sagan
Steinau
Wohlau
Trebnitz
Öls
Lüben
Liegnitz
Bunzlau
Görlitz
Goldberg-Haynau
Neumarkt
Breslau
Namslau
Kreuzburg
Lauban
Löwenberg
Schönau
Jauer
Striegau
Schwerin
Birnbaum
Kwilitsch
Neustadt bei Pinne
Samter
Scharfenort
Wronke
Lubasch
Czarnikau
Filehne
Friedeberg
Arenswalde
Betsche
Oststernberg
34
36
52

此の波蘭全地域に於て波蘭人間に勢力を有して居るのは農民である。何となれば農民は經濟的に大多數者であり且つ最も多く國民的能力を促進する職業階級であるからである。既に土地の上から見ても廣汎なる分割によつて其の所有地を增加し大なる勢力を有つに至つた。第一地區に於ては波蘭人土地所有者の約半分は波蘭農民である。第二地區では波蘭人の土地所有者の約三分の二迄は農民の手中に歸して居る。第三地區に於ては拓殖委員會に對する爭鬪が最も激烈に行はれた處であるが波蘭側土地の四分の三が農民に屬する。西プロイセンのレバウ附近では第二地區と同じやうに三分の二迄が農民の所有地である。

是等中心地方以外でも農民に屬する土地は波蘭人所有土地の約半數に達し、只ザムタア、ウオングロウ井ツ、シュビン郡だけでは貴族の大領地（Latifundium）が大部分を占めて居る。併し乍ら農民階級は其の優勢を占めんが爲めに波蘭人所有地の大部分を其の手に收むるの要は決して無い。例へば或る郡に於て波蘭人所有地の半分が農民に屬し、後の半分が大地主の手に在る時は、統計上から見れば等分の勢力であるけれども、實は農民が主勢力を有するのである。之は其の經營に於てより大なる活動力を有してゐるからといふ譯では無く、其に就ては種々なる理由が存するのである。

第一波蘭人の大所有地中には國外貴族の土地が澤山介在する。例へばツアモイスキ家やツアルトリスキ家などではポーゼン州に廣い土地を所有するけれども、彼等は巴里とかニッツアとか又はサコバー

ネ(ガリチヤ)等に居住するから彼等の社會的若くは政治的勢力はポーゼン州に及し得ないのである。それから又アーデルナウ郡に於けるブルチゴドチス伯爵領とか、ポニンスキ家領とか其の他の大領地は大森林を以て蔽はれてゐて、地方の交通を阻害し附近の田舍町にとつて價値の少いものである。

之に反し農民は地方の小都市に住居する。ポーゼンの諸都市は既に前世紀の中頃から漸次發達し、西プロイセンに於ては最近二十年間にシュリム、シュローダ、ウレッシェン、オストロウオ、ストレルノ・コステン、レバウ等の如く各種の波蘭人店舗が急速に增加したので此の兩州の諸都市では其の附近を取り卷いて住居する無數の農民が主なる購買者であると共に物資の供給者である。郊外を取卷く農民の所有地が存在することは地方都市に於ける營業に對して一の保證であると云つても差支へない。農民は波蘭貴族のやうに伯林や倫敦で物を買はずに彼等の都市に於ける波蘭人の店で物を買ふ。彼等が買入れる多くの家具や無數の道具の價額は宏壯なる御殿を飾り立てる家具の價格よりも遙かに高額に上る。

波蘭農民が波蘭人中に如何に大なる勢力を有してゐるかを見る爲めには、波蘭の最も重要なる機關たる信用組合に於て農民が主勢力を把持して居ることを知らねばならぬ。之に就て一九〇六年初頭ルードウヰヒ・ベルンハルドの調査したところは左の通りである。

信用組合の會員總數は七萬二千人であつたが之を職業別にすると。

農場主	四六、〇〇〇名	六四%	
右の內農民は	四五、〇〇〇名卽ち六三%		
手工業者及工業家	一六、〇〇〇	二二%	三六%
商人及其の他	一〇、〇〇〇	一四%	
計	七二、〇〇〇	一〇〇%	

之によると農民だけで、波蘭自治制の核心を形成せる組合の中で他の職業よりも二六%も多く頭數を有してゐることになる。

組合(Genossenschaft)なるものは其の意義と勢力とに於て他の如何なる機關よりも有力で殊に二個の理由によつて他の總てのものを遙かに凌駕してゐるのである。卽ち第一は帝國の法律に基いて社團權を有してゐること、第二は其の營業によつて一の金融機關となつたことである。

組合は波蘭人に對して與へられた特點により官憲の認可を經ることなく、又別に困難な條件を具備するの要なく極めて便利に社團權を獲得することが能きたのである。されば組合は登記せらるゝや非常に自由に發展し、百千の會員は立處に集り、不都合な分子は之を排斥し、其の組織と經營とに於て忽ち自立の域に達することが能きるのである。波蘭人は此の國法に依つて保證せられたる自由を巧みに利用して彼等の全經濟生活を殆ど全部組合的に組織した。それで大凡十萬人位の人が約二百二十五

の組合に結合し、此の法律によつて保護されたる機關を通じて一切の重要なる經濟問題を左右した。併し單に經濟問題のみならず政治問題の指導も大部分は波蘭組合員の手に横つてゐたのであるから右の數字と考へ合せて見ると農民の勢力を大體彷彿させることが能きる。誰が一體波蘭農民を組合的組織に訓練したのかと云へば、夫は卽ち農民協會である。

一八八六年普魯西の拓殖政策が始まつた時に、人々は波蘭農民協會のパトロンたるマキシミリアン・ヤッコウスキの口から『有難い！今や我が農民協會は一大目標が與へられた！』と謂はしめた。彼は單純な眞面目な人間であつたから此の言葉を實際に言つたのではない、併し彼に假託した此の言葉は誠に本協會發展にとつて幸先を祝つたものである。蓋し經濟的國民性爭鬪の開始前までは農民協會の事業は甚だ困難なばかりでなく效果の現はれるのも極めて緩漫であつた。地方下級民が州外に移住すること、波蘭農民の經濟狀態が不良であることなどが協會の事業を壓迫し、指導的位置に在る人々も、寧ろ社交的のものと見られてゐた大地主協會や伯林に於ける議會問題に就いてより多く興味を感じてゐた。

一八八〇年代の中頃種々の努力が試みられたに拘らず農民協會の發展は蹉跌を來し、同協會は單に大地主機關の一從屬物たるの觀を呈した。然るに普魯西拓殖政策の開始は玆に極めて速かなる變化を齎し、農業的協會の價値が認められ、大地主達は多〳〵の有數なる采地が拓殖委員會に賣拂はれるのを阻止することが能きなかつた爲め大地主機關は世間の不信を招いた。農民協會は其の間に漸次普遍的となり、ヤッコウスキは『農民協會は各自の地方に於て寸尺の耕地と雖も獨逸人の掌中に移らざる如く努力すべし』といふ標語を各協會に布達した。

恰度大地主の地歩失墜と時を同うしたる農民協會の此の精神的勃興は農民機關を初めて自立せしめ自覺を生せしめ內的には協會を『旦那方』(貴族地主)から自由にした。

當時農民協會は『國民的プロパガンダの支持者』であらねばならぬ、といふ標語が發生した。夫は恁ふ云ふ意味である。普魯西拓殖委員會が割込んだ爲めであらうと、又は出稼仕事が住民の著しい部分を彼方此方に逐ひ出すが爲めであらうと、兎に角何處かの點で波蘭の團結が缺けて居るとすれば、農民協會たるものは少くも組織的事業の皮切りを爲すことに努め、斯くして基礎が固つた曉には、信用組合が現はれて全建設を完全すべきであると。

此のプロパガンダは農民の組織によく適合した。其の組織といふのは先づポーゼン州の全面積を二十六の農民區に分け各區に『副パトロン』が居る。(西プロイセンも此の組織を漸次模倣した)。二十六人の副パトロンは互に競爭して年々自區の優秀な成績を報告した。中央機關はポーゼン市に在つてパトロン本部 (Tiuro-patronatu) といふ。之は專任祕書によつて支配され週刊機關雜誌農民協會報 (Poradnik gospodarski) を發行し、全管理事務、會計事務、公文書類を處理する。本部の長は『農民協會パ

トロン』で采地所有者である。之は先輩マキシミリアン・ヤツコウスキの翼に倣ひ屢々州内を旅行し『區會』や會議に出席し農民協會の人格的結合を確保する。ポーゼン州に於ける農民協會の數は約三百で(各協會は一名の會長を有つ)、之が二十六區に包括せられ(各區は一名の副バトロンを有つ)、其が最後に一の中央機關の下に緊め括られる　中央機關はバトロンと其の本部によつて指導さる)。

此の機械的組織は左の如く運轉する。(一)各農民協會は月々會合を催して經濟問題を議し共同動作に關する決議を行ふ(共同購買、展覽會開催、告示等)。(二)一年に一回區會を催して農業住民中に發生した事件を互に發表する。區會に就ては絶えず新聞が報道して居るが要するに區會は本機關に對する本來の試金石である。手腕のある副バトロンは此の區會に三百乃至三百五十名の會員を集合せしめ區内の名望家を出席せしめ、地方住民にとつて特に重大なる問題を討議せしめ、大抵は出席するバトロンをして經濟問題の實際を檢分せしめる。失敗した區會は貧弱の表徴であつて輿論、新聞及年報によつて忌憚なく擯斥される。(三)第三の會合は毎年早春にポーゼン市で催される『波蘭農民協會總會』である。此の總會には各農民協會は其の會長と一名の代表者とを派遣する。此の總會には又他の波蘭諸機關殊に國民協會、大地主協會、(同業)組合の代表者も出席する。『波蘭大地主中央協會』も殆ど同時に其の總會をポーゼン市で催すを常とする關係上ポーゼンでは三月の中頃には一種の『農業週』が實現することになる。

農民協會總會は最近では八百人から千人近くの人が集り一大農民群を現出した。此の總會の意義は其の席上で爲される演説に存するのではない(演説を傾聽する者は出席者の半數に過ぎない)、又多數によつて行ふ決議に在るのでもない、只一大農民の群が一定の日に一定の場所に集りお互に團結を感ずる其の事實に存するのである。

此の機關(カラクリ)は樂屋で副バトロン及協會長會議によつて支配される。何か重要な事件が起きた場合例へば農業又は波蘭主義に關する新法案が議會に提出されでもした時は、副バトロン達は直樣協會長會議を召集する。各副バトロンの下には大抵平均十名位の協會長が居るに過ぎないから其の會議に集る者は皆お互に顔馴染であつて親しく諮議し決議することが能る。斯くして二十六名の副バトロンとポーゼンに於けるバトロンとの會議又は往復文通は全機關の統一的作業を可能ならしめたのである。

(ロ)　勞働者の機關

波蘭農民の下流者は別に明瞭な區別を立てず不知不識の間に勞働者階級に移つて行つた。小百姓は彼の子弟を勞働に出した。そして其の勞働階級から新しい農民が浮び上つた。ポーゼン及西プロイセン南州で全土地所有者の二十五乃至三十パーセントを占むる小田地持ちは勞働者級に屬し、彼等の一部は州内で自ら麵麭を求め、又一部の者は『ザクセン出稼』の爲め西方に出て行つた。

さればポーゼン及西プロイセンに於ける土着勞働者級の機關は農民協會の下位に在つて一階梯を爲し、次の如くに發生したのである。

（1）　聖イシドール協會

スタブレウスキがボーゼンの大僧正として着任（一八九二年）後間もなく、彼は波蘭のザクセン出稼に關する教書を發布した。其の教書は當時波蘭貴族の間に稱へられて居る意見を代表したものであつて、住民の多くの者は輕卒と享樂慾とから都市に流れ込みつゝあるが夫は結局彼等を惰落に導くものであるとて、道德的頽廢の因であるザクセン出稼を極力防止すべきであると戒めた。全僧侶界は此の趣旨を奉戴して宣傳に之れ努めた。或る名ある僧院長（プロヴスト）は左の如く書いた。『吾が勞働國民がザクセン及ポゾメルンに放浪することの教會及社會にとりて如何に大なる患であるかといふことは世の周知するところである。國民の風紀と結合心の上に、及び聖き信仰心の上に甚だ好からぬ影響を及す此の放浪を阻止せんと人々は努力し來つた。其の上我等が尊崇する大僧正は最近の教書に於て愛する兒達の爲めに深き悲みを以て教へ訓すところがあ　た。然るに彼等は猶且つ其の出稼に赴かんとするのである。彼等は心の保護を喪ひ神の言葉を其の母語にて聞くこともなく、懺悔を行はず聖齊を行はず一介の放浪者として殆ど異端的生活を送つて居るのである。斯くして本年も一陽來復と共に數千の波蘭勞働者は所謂『世界へ』出て行つた。熱心なる靈の牧者達は能ふ限り惡影響を豫防せんことに努めては居るが、併し夫等の總ても充分ではなく禍は常に擴がり絶えず增加する。されば玆に最も必要なことは奮鬪的手段と共同の努力である』と。

斯の如き感慨と經驗とから出發して、農家のパトロンたる聖イシドールの保護の下に一の協會を形成し出稼勞働者を之に收容しやうとの考が浮んだのである。協會創立に就て數ヶ月も討論が續き、結局一八九二年十一月九日に、ボーゼン及グネーゼン大僧正は『聖イシドール協會』を創立し、多數の勞働者が西部に出稼する地方の教區に於ける僧侶に左の原則に從つて入會を命じた。

『第一條。聖イシドール協會はグネーゼン及ボーゼン大僧正管區に於ける男女舊教勞働者の宗教的道義的教養を以て目的とする。されば鄕土に於ける適當な仕事を創始し之によつて能ふ限り多く彼等を鄕土に保留し、それでも猶ほ大僧正管區を去る者は成る可く教會と密接な關係を維持すること。

第二條。勞働者が遠隔の地に放浪し又は出稼に興味を有つて居る各教區には成る可く協會を設置して地方說教師が其の會長となり、會長は副會長と會計係とを選任して己が助けとする。

第三條。兩大僧正管區に於ける全地方協會の上に一の評議會を置く、評議會は僧侶一名、都市の市民一名地方の地主一名及勞働者一名より成る。評議員は隨時グネーゼン及ボーゼン大僧正が選任する。選任及變更等は教會報で通知する』。

人々は此の權威ある機關の援助によつて、ボーゼンから出稼するザクセンゲンガアを支配することが能きるだらうと考へた。此の協會が如何にしてザクセン出稼人を取締つたかと云へば、第一に各出稼人は毎年イシドール協會の『認可帳』を受けることにした。勞働者は此の認可帳によつて番號を附せ

られる、そうすると他所の土地で彼等を集める時には此の番號は大いに助けになる。全く無教育で貧乏な子女から成る出稼勞働者のことであるから思切つて彼等を專制的に支配するのである。人間に番號を附することが既に其を物語つて居る。普通の協會生活の原則とは反對に會員たる出稼人は該機關の主體ではなく寧ろ客體であつたのである。

認可帳の手交によつて得るところは未だ他にもある、卽ち出稼人は其の出發の前に地方說敎師の許に出頭して彼等の旅行の目的を連べ雇傭條件などを說敎師に報告する。說敎師は其に基いて統計を作り其の數字や事實をイシドール協會評議會に報告するの義務があつたからポーゼンに於ては總ての事情を通覽し得る中心が出來上り、勞働紹介上の便宜を計ることも能きた。

職業紹介といふことは出稼勞働者の機關にとつては第二の重要なる特徵であつた。各種の地方から各種の地方へ出稼する青年男女は、彼等の爲めに、職業を提供し有利な條件を紹介して吳れる機關に對してのみ興味を持つことが能るのである。されば出稼勞働者の機關は常に職業紹介機關でなければならぬ。之を達成せんが爲め大僧正は農業勞働市場に最も精通せる人、波蘭農民協會のバトロン、マキシミリアン・ヤッコウスキを擧げてイシドール協會の評議員に選任し、以て農民協會と此の新機關との間に於て必要な人格連結を造り上げた。

ヤッコウスキの任命は直に實效を齎した。彼は波蘭大地主中央協會(彼の息子が會長であつた)並に農民協會をして、勞働者を必要とする場合には聖イシドール協會に申出る如く指圖を爲し其によつて職業紹介の途を開いた。同時に評議會は西部地方に移住した波蘭實業家等と折衝して諒解を得以て親密なる個人的關係の網を張つた。

此の機關が縱令僧侶階級の人々と二三人道主義的市民とによつて全然支配されて居たにしても(評議會の勞働者會員なるものは大體一の飾人形に過ぎなかつたから)、而も人々が勞働社會から漸次に支撐點を得やうと試みたことは認めなければならぬ。例へばポーゼン及びグネーゼン管區に於ける地方僧侶は、各出稼團隊毎に一人の『團長』を任命し、其の團隊長をして勞働者の道義的指導及び雇傭條件等に就て月々報告するの義務を有せしめるやうにせよとの命令を受けたものである。

だが、最も有效であり且つ最も貴重な施設は何と云つても舊敎社會主義的雜誌『ブルッェウォドニク・カトリッキ』の創刊であつて、此の雜誌は國外波蘭勞働者に向けて規則的に內地地方僧侶から送達せられたのである。此の雜誌は一回の刊行高が六萬乃至八萬部であつて波蘭の雜誌としては最も廣く播布したものゝ一であるが、撤頭撤尾鄕土と出稼地との連絡を圖ることに最も力が注がれた。各勞働者は此の『ブルッェウォドニク・カトリッキ』を見て、各自は外國の土地に於て如何に振舞はなければならぬかといふことを知り、定期狀況報告によつて獨逸の他の地方に於ける勞働狀態に關して種々なる事情を知ることが能きたのである。猶ほ彼等は此の雜誌により、如何なる方法を以て自分が鄕土に定住

することが能きるか、何處で土地が分筆されるか如何なる條件で小さい地區が自分達に賣られるのであるかといふことも解つた。ポーゼン出の出稼人の住居には此の雜誌が備付けられて無い所は殆ど無かつた。其が爲め此の雜誌を通じての團結の感情は他の總ての團體機關に於けるよりも多分に存在した。

然しながら、斯の如き努力と斯の如き效果とに拘らず、イシドール協會は其の創立者の希望を充し勞働市場に於て有力なる因子となることはどうしても能きなかつた。毎年の春は斯の如き勞働紹介に對する公正なる批評家であつた。たとへ嚴密なる計算が行はれない處に於ても、どれだけの勞働者が國外に出稼ぎするか大體見當が着く。されば各地方への出稼を紹介する人々は、出稼總數の中で此のイシドール協會に加入せる者はどれ程の數であるか位は直に看取することが能きた。要するにイシドール協會と何の關係もなく出稼する勞働者も隨分存在したのである。

イシドール協會の作用は大僧正スタブレウスキが包懷したる餘りに狹い見解の爲め著しく阻害せられた。スタブレウスキは依然としてザクセン出稼を減少し彼の管區に於ける波蘭人を永久に鄕土に繫ぎ置かんことにのみ努力し、實際の狀況が最早や夫等を許さなくなつても不相變其の方針を替へなかつた。彼は評議會が規定した西方に出稼する勞働團を組織的に整理する制度を充分には利用しないで、只無暗と西方出稼を阻止することのみを企てた。彼はポーゼンや西プロイセンに幾らでも勞働の仕事があるとて盛に夫を宣傳することに努めたけれども、其のポーゼンや西プロイセンに於ける勞銀が最早や土地の男女を滿足せしめるやうなものでなくなつたことを洞見することが能きなかつたのである。彼は出稼勞働の經濟的必要といふことを明かに認め得なかつたのである。ポーゼン日傭勞働者は隨分生活程度が低かつたけれども、土地に於ける勞働はより以上程度の低い露領波蘭の出稼人に讓つて自分達は西方に各自の麵麭を求めなければならないといふ事情が存在したに拘らず、彼は之を見ずしてザクセン出稼人を徒らに享樂を求めて放浪する罪人（つみびと）だと批評した。彼は又事物の成行といふものを考へなかつた。多くの勞働者は最初の中は毎年春に出稼に行つて冬の初めに歸鄕して居たのであるが、其の後は冬にも歸らず全年を通じて出稼地に滯留するやうになつた。彼は此の事實を見て甚しく不快に感じ、必要もないのに外國にぶら〳〵して居るのは怪しからぬとて、イシドール協會々則第八條に於て冬期故鄕に歸還せざる者は、如何なる理由で出稼地に滯在するか、如何なる方法で冬期を過して行くかといふことを各自の敎會の牧師に報告するの義務がある』といふことを規定した。

スタブレウスキは此の冬期の滯留を阻止することを極力努めたが、農業出稼勞働者が數回反復出稼して居る間に、廉い外國出稼人がなだれ込むので、彼等が其の壓迫から免れやうと思へばライン・ウェストファーレンの工業地方で給金の良い永續的な仕事を選ばなければならなかつたといふ事實を見なかつたのである。

イシドール協會は其の他に露領波蘭人の浸入に對しても永年戰はなければならなかつた。之も亦自然の數であつたのであるが、種々なる方法を以て管區内の雇主に對し、外國勞働者を傭はないで自國人を傭ふやうにし以て自國人の國外出稼を防ぎたいものだといふやうなことを盛に宣傳した。つまりイシドール協會は自然の法則が爾かあらしめた事實を人力を以て引き戻さうと努力したのである。同協會は凡ゆる方法を以て國外出稼を困難ならしめ自國勞働者の爲めに職業を紹介し、露領波蘭人に對しては成る可く勞働の機會を與へないやうにした。併し大勢に抗したとて決して成果を擧げ得るものでない。一八九四年の例を引くと、協會自ら告白して居る處に從へば、職業紹介を求めて來た人數の僅かに五分の一だけ漸く國内に留めることが能きた。之は國内に職を探す爲めに協會當局は數ヶ月も徒費するので他の者は辛抱しきれず西方に出て了つたのである。而も協會の方では職業紹介に忙殺せられて西方出稼の組織を確固たるものに整理することも能きなかつたのである。

協會指導の局に當つて居る人々も嫌々ながら西方出稼の阻止に努めた。寧ろ努めたのでなく仕方なく大會正の意圖を體して其に從つたのである。されば自然事業に生氣を缺き益々以て其の試は時代錯誤的ならざるを得なかつた。斯くして協會は其の阻止一方の政策の爲め不信任に墜入り、遂に勞働市場では問題視されぬことになり、只其の雜誌の播布によつて波蘭人が一致團結すべきであるとの思想を喚起し、將來の團結組織に對し種々の經驗や資料を蒐集したに過ぎぬものとなつたのである。

(2)　波蘭舊教勞働協會

前記の如く波蘭の勞働者機關は教會の權力を以て其の機關を左右する形式から漸次離れて行かねばならないといふ狀態になつたのであるが、事の玆に至る主なる原因は、即ちイシドール協會の主なる缺點は指導者に知識が足りなかつたといふ點に存する。つまり指導者が勞働階級其の物から出た人々でなく其の階級から見れば餘りに遠く距つた處から總ての成行きを誤つて判斷し誤つて指導したに基因するのである。併し斯樣な見解も當時にあつて之を實際に行はうとすることは全く不可能であつた。蓋し波蘭の勞働者、殊に彼方此方に放浪する勞働者は到底獨立して機關を組織するなどの能力は備へて居なかつたからである。

其とは反對に波蘭の指導者達はイシドール協會の失敗の經驗から別な見解を掴んだ。彼等は考へた出稼勞働者を組織按配するやうなことから始めてはいけない、どうしても第一歩は鄕土に留つて居る勞働者の團結組織を圖らねばならぬ、此の方ならば一致團結は譯もなく能きるに相違ない、其處で一と度ボーゼンと西プロイセンに於て充分强固なる波蘭勞働協會が出來上つたならば出稼勞働者を此の機關に結び付けることは全く自然に行はれる譯であると。此の見解を最も强調した人はポーゼン市に於ける僧侶スチヘルであつた。

斯くしてイシドール協會の創立後ポーゼン市に一の波蘭勞働協會が出來上り名けて『グネーゼン及

びポーゼン管區舊教勞働協會』(Związek katolickich towarzystw robotników w dyecezyi Gnieznieńskiej i Poznańskiej) と稱した。此の協會も全然教權專制式であつた。協會の會則により各勞働協會の長は必ず一名の僧侶であつて、其の僧侶は教會の上司から任命される。協會長は教會上司の諒解を得て僧侶又は俗家の副會長を選任するといふことになつて居た。會員たる勞働者は僧侶たる會長が座長となつて月々會合を催す、其の會合の席上では『社會民主々義の誤謬と缺點』、『社會問題』、『法王の敎書』(エンチクリカ)『眞の幸福とは何ぞや』、『スラヴ民族史の實蹟』等に就て講演を爲す。協會は圖書館を設け、勞働者に『ブルッエウォドニク・カトリッキ』「イシドール協會の機關雜誌)を讀む便を與ふる、などのことを行つた。

けれども集められた勞働者には自覺なるものがないのであるから、團體精神とか自主獨立の精神とかがあらう筈もなく、尤も二三の協會に於ては幾分活氣を呈した處もあつたが概して謂へば多くの會員は波蘭人のお寺詣りの善男善女が持つ自卑の態度を脱しはしなかつた。

(3) 波蘭職業協會

指導の位置にある僧侶とても世界に新しい風が吹き初めたことは感せられたので、一九〇一年の初め頃、大僧正の社會政策的雜誌たる『ブルッエウォドニク・カトリッキ』に獨逸の職業協會に倣つて波蘭の勞働者職業協會を設置するの必要に就て半官(敎會から見て)的な論文が現はれた。『此の吾が國民全體にとりて新しい社會的運動は吾人の目下の狀態から推して全然必要なものである。……併し乍ら若し人ありて、我が勞働者が職業協會の意義を未だ充分に理解して居ないとの非難を爲す者あらば頗くは既に數百の波蘭勞働者が社會民主的職業協會に屬して居ることに思を廻らして黙ひたい。』

成る程此の議論は確かに一面の眞を物語つては居るけれども、而も亦其處に波蘭勞働者機關設立の一大難關が横つて居るのである。何となればスラヴ人は由來物に順應する能力を備へて居て數百の波蘭勞働者は職業協會的實地の訓練に於て既に洗練されたる一種の確實性を具備して居たけれども、彼等以外の數千の者は團體機關問題に對して何等の考慮もなく頗る薄弱な態度を持してゐたのである。從つて波蘭勞働者社會に於ては非常に大なる對照(コントラスト)がお互に背を突合はせて存在したので、之を例せばオストロウォに於ては全然近代的に指導されて行く自覺ある勞働者協會が存在し僧侶の指圖などは決して受けないと主張して居る傍ら、其處から數哩隔てた處では一人の若い精力ある僧侶が勞働者を羊の如くに集めて之を思ふまゝに彼方此方と追ふて居た。

斯樣な事情からして自然一種中和的な實際方法が生れた。卽ち人々は舊教勞働協會を其の儘存在せしめ、其の實行方面を變へて、此の協會が幾分か新たに創立すべき職業協會の準備的施設となるやうに造り上げたのである。さうして置いて別に波蘭職業協會、殊に建築勞働者を以て組織する協會を創立し、ポーゼンに其の本部を設けて波蘭職業組合 (Polski związek Zawodowe) と名づけ主として建築

勞働者を之に集めた。

是等兩協會は手を提へて事に當つた。そして此の兩者の異る點は、舊敎勞働協會の方にあつては最初僧侶によつて指導されて居たのを依然其儘とし、其の會員は主として未だ獨立の域に達しない農業勞働者で成り立つて居たのであるが、職業組合の方は一部は勞働者自らによつて、又一部は商人及び手工業者によつて管理して行き主として建築勞働者を包括したのであつた。併し乍ら波蘭勞働者は一定の職業に忠實に永く留ることをしないで、或る時は農業勞働者たり、或る時は工業勞働者たり、又或る場合は左官の手傳ひとなつて自己の幸福を求め、此の兩協會の境を超えて孰れにでも流れ去り流れ來つた。そして遂にどんな波蘭勞働者でも自分に最も居心地のよい協會の方に籍を置くといふやうな極く實用的な取捨選擇が意のまゝになる結果が生じたのである。

普領波蘭勞働者を數年又は數十年間に立派な職業組合員に仕立てやうと欲した中和的方法は斯の如き實蹟を擧げたに過ぎぬ。此の兩協會は勿論夫々固有の機關雜誌を有して居た。舊敎勞働協會は『ロボトニク』(勞働者)といふ週間雜誌を發行し、波蘭職業協會は月刊雜誌『シラ』(力)を發行して居た。

(ハ) 波蘭商工業者の機關

獨逸人は波蘭商工業の潜勢力を買被る傾向を有つて居た。舊來の猶太人の商業を驅逐し、シュリム、シュローダ、コステン、ウレッシェン、ツニン等で波蘭の店舗、波蘭の手工業、波蘭の建築事業を勃興せしめ、獨逸の商工業を脅かした其の力は異常に強いものであらねばならぬといふやうに獨逸人は見た。併し波蘭人自身は、彼等が自由競爭を以て獨逸商工業に當つたのでは到底勝つ見込がない處でなく獨逸商工業の程度迄に肩を並べることは六ケ敷いといふことは良く承知して居た。然るに彼等が左樣に勃興し得たのは、實は國民的商業ボイコットに負ふところ甚だ大であつたからである。

波蘭の商業は戰前に於て先づ其の上流と目せられるのは、穀物取引、人造肥料の供給、機械販賣等で、約言せば農業の全需用に應ずるところの商業であり、其の下流と目せられるのは小賣店であるが最近約十五年間に是等の商業界で地步を獲得し得たのは專ら國民的商品ボイコットの援助を以て初めて能きた仕事である。

國民的商品ボイコットには當然二つの側面を持つ。一方の側では波蘭人がお互に獨逸人の店で商品を買ふことを禁ずる、他方の側では獨逸人が其に反對の氣勢を擧げることである。一八九〇年代の初頃にはボイコットは未だ隱密の間に行はれ、双方の側共に其の事實を非定して居つたが、其の後は漸次に露骨に赴き、ボイコットの第一聲を擧げたのは汝の側であるといふやうな非難を双方の側が交換して下らず、自分の側に理由を附して被攻擊者であるやうに裝ひ相手に責任を嫁することが始まつた。

ところが歐洲戰爭前になると、ボイコットの叫は各人にとつて一の名譽となつた。住民は外國商品

のボイコットは國民としての義務であると心得た。種々な政治的及經濟的會合に於ては此の義務が群集に向つて强調せられ、新聞は其の叫を一層大にして吹聽した。此の群集心理的効果によつて國民的商品ボイコットは經濟的に意義を有つた一の事實となり、國民性爭鬪の重要なる一部分を形成するに至つたのである。

斯る場合に波蘭主義の方がより良き機會を有つて居たといふことは容易に考へられる。蓋し波蘭人の喪ふところは獨逸人程に左樣に多くないからである。東方諸州に於ける中間商業(卽ち仲買業)は、商品ボイコットが始まる迄主として獨逸人及び獨逸猶太人の手にあつたのである。穀類販賣、肥料販賣、機械販賣、鐵及び石炭販賣、書店、菓子製造業、木材販賣及び小店舗、總て是等は大體猶太人の手に在つた。されば國民的商業ボイコットは波蘭人にのみ利益を齎し得たのである。

波蘭の商人は、自分達自らの資金と活動力とでは到底獨逸人に匹敵することが能きないといふことを宣傳した。それで例へば波蘭の商人がシュローダに於て其の獨逸の競爭者に略ぼ近いだけの努力を見せれば、最早や彼は國民的宣傳によつて獨逸人を凌駕し、又實際に於ても顧客が流れ込むから獨逸人よりも廉價に商品を提供する可能性を贏ち得たのである。殊に波蘭自治制の中心點と目せられる地方卽ち住民の七十五%以上が波蘭人であるといふやうな地方に於て國民的商業ボイコットが始まれば、それこそ直ちに波蘭商人は別に特殊な勞力を費さずして獨逸人を遠く凌ぐことが能きた。

併し此のボイコットに就ては、波蘭商工業の機關は大した意義を有して居なかつた。大體波蘭人の手工業者協會が當時それだけの力と團結力とを具備して居たか、又商人の協會が當時それだけの勢力を有つて居たかと云ふことは甚だ疑問であつた。此の兩方の協會は半分は職業的協會であり半分は娛樂機關として成立したのであつて、而も內部の政治的紛爭の爲め一層其の力は微弱なものであつた。戰前二十年間に長足の進歩を遂げたところの波蘭商工業者は、其の職業的機關が果して彼等に利益を提供するものであるかどうかといふことに就いて未だ疑問を抱いてゐたのである。彼等の考へたところに依ると、其等の機關を發達させるのに最も有望なる方法は信用組合との連合であり農民機關との諒解であつた。此の農民の機關は國民的商業ボイコットに與つて大に力があつたのである。

尤も波蘭の『工業協會』や『商業協會』の宣傳は外部から見ると中々盛であつた。そして農民協會や組合などの最も有力なる波蘭人の機關は却つて成る可く愼重の態度を取つた。又漸次に有力になりつゝあつた勞働者協會も自重して餘り華々しい宣傳はしなかつた。此に反し波蘭の新聞は常に『工業協會』の報知で充滿し『商業協會』の方針や宣言やで賑やかされて居た。併し實際に於て波蘭の商工業者は其に大した興味を有たず、互に競爭せる店舗の持主や商人の職業協會なるものは左樣に手易く發展するものでないといふ考を有つてゐたのである。

(二)　波蘭貴族の波蘭自治制に對する位置

(イ) 勢力の失墜

普魯西政府が拓殖委員會を設置して波蘭の大領地を買收するの政策を確立するや、其の實施は案外容易で競賣に出た土地や負債に惱んでゐる平貴族(シュラハタ)の所有地を片端から買取つて、波蘭貴族の所有地は漸次に侵蝕されて行つた。一八八六年以來拓殖委員會が主力を注いだのはッニン、グネーゼン、ウォングロウ井ッツの諸郡であつたが夫等の郡に於ける波蘭大領地 (Latifundium) は非常に頽癈して居つて半分は濕地や沼地に變じて了ひ他の半分の收穫も誠に目も當てられぬ貧弱さであつた。領地の頽廢は單に是等の諸部に止らずポーゼン州内到處大體同樣の姿であつたから、委員會が一旦或る地方に眼を向ければ、負債に惱んでゐる貴族の賣手は忽ち殺到する有樣であつた。父祖傳來の土地を他人の手に讓渡すのは貴族にとつて非常に不名譽且つ不德義と云はれてゐたから初めの中は密かに申込を爲してゐたけれども二三年後には大びらに自己の土地を賣拂ふやうになつた。

同時に普魯西政府に對し熱情的に向つて行つた貴族の反抗運動は一種の喜悲劇に終り、貴族は勃興しつゝある組合運動を理解し指導する能力の無いものであることを曝露した。此の經濟的弱點がある所へ政治的にも社會的にも貴族の勢力は薄らいで行き、一八八六年から一八九四年迄の間に全く失墜して了つた。其處で波蘭國民は『貴族(シュラハタ)が居なくともやつて行けるものだ』といふ確信を得るやうになつたのである。

普魯西政府の擊突(拓殖政策)はつまり波蘭主義に於ける内部の分解行程を明るみに曝露し、名譽を有せし貴族(シュラハタ)が波蘭建設に於ける最も弱き部分であつたことを一般波蘭人に示したのである。

之は必らずしも政治上反貴族的傾向の側の言ひ分ではなく波蘭貴族の有識者中例へばウ井トルド・スカルチンスキやテオドル・フォン・カルクシタインなどが自ら忌憚なく吐いてゐる意見である。スカルチンスキは曰く『專門的知識を有ち國民の問題に思を致す者は、波蘭農夫が波蘭貴族にとつて代るべき人物であることを覺るに異ひない。普魯西政府の攻擊に對する唯一の防禦策は、領地の所有者がどうせ其の領地が沒落することは眼前に迫つて居るのであるから、土地の一部分を金に換えて殘りの土地を維持するより他に方法が無い。自己所有地積の三十%乃至五十%を農民に分割する丈けの決心さへつけば、現在波蘭人の掌中にある大領地を大部分保有し得られるといふことは斷言して差支へない。何となれば農民は經濟的に餘り脅威を蒙つて居らず、其の生活程度の低い關係上充分節約しつゝ耕作して其から利益を擧げ、且つ其の他にもいろ〳〵な副業を見出し得るから、農民の手に渡つた土地は決して手放すことはないのである』と。

貴族の所有地は斯の如く一種の農業危機を現出し殊に人手がない爲めに一層脅かされたのであるが一方小さい土地の所有者は人手を借らずして耕作して行けたから漸次に確實性を增した。

されば普魯西拓殖政策の壓迫の下に波蘭の大領地分割事業は非常に廣い範圍で始まり、最初の中は

未だ分割機關が全力を之に注がなかつたから個人の企業家が分割を行つてゐたが遂には普魯西政府に對する爭鬪方法が確立し波蘭指導者の下に組織的に殆ど總ての郡に亘つて盛に分割を行ふやうになつた。

其處で土地の分割は一の國民問題となつたのである。

其の結果、波蘭主義其の物の內部に存在する一切の障害は、土地の分割といふことに對しては自ら途を讓らなければならなかつた。貴族は始めのうちは分割機關に對して抗議を申立て、分割機關は貴族の立派な衣裳を百姓の繼布補綴の爲めにずた〳〵に截斷するものである、貴族の毛皮外套から百姓の革帶を造るものであるとの非難を提出したけれども、斯樣な言ひがゝりは明らさまに苦もなく反駁し去られた。國民的問題たる分割は如何なる障害をも許さなかつた、そして多くの波蘭銀行は此の運動の味方として其のお役に立たなければならなかつた。土地分割の必要は疾風迅雷的に波蘭人に逼り貴族の歷史的特權を考慮したり土地分割の社會的適合方法を研究したりする時間がなかつた。

我が波蘭の土地は大領地の大部分を小所有地に分割することによつてのみ波蘭主義の爲めに救ひ得るものである。之が國民運動の第一の信條となつた。されば波蘭人は其の第一の攻擊の鋭鋒を自分達の大地主卽ち貴族に向け斯くして波蘭の反抗運動の中へ階級嫌惡の情をさへ混入した。

右の如く二三十年前迄は何といつても牛耳を執つて居た貴族が波蘭自治制の建設に參加する程度は極く微弱となり、市民的(卽ち中流階級の)農民的企業からは明かに遠除くやうな態度を持するやうになつた

併しながら最近に至り貴族が波蘭自治制の中へ割込む傾向を生じて來た。此の變化は普魯西波蘭政策の壓迫の下に極めて速かに招來したものであるが、最近に於ける波蘭主義を觀察するに就いて恐らく最も重要なる現象の一と目すべきであらう。

(ロ)勢力の恢復

波蘭貴族といつても色々あつて、絕えず一致したものではなく、其の中には間隙もあれば反目もあり種々の貴族的集團が、近時發達し來つたところの民主的自治制に對して全く種々なる態度を執つてゐたことを忘れてはならぬ。

ポーゼンに於て多くの土地を所有してゐたところの所謂世界的貴族は州に於ける事實卽ち國民運動や希望に對しては外々しく冷淡な態度を執つてゐた。是等總ての貴顯淑女は尤もマルチンコウスキー協會に寄附金を贈つたり、バンク・チームスキの株を持つたりはしたけれども、大體ポーゼンに歸ることがなく、或は極く稀にしか歸らない上流貴族が、深く波蘭國民の內部に於て完成された機關に就いて何も知らう筈がなかつた。

土着貴族に至りては之と全く趣を異にしてゐた。土着貴族は中には上流貴族に匹適する程の尊敬と

富とを所有してゐたのもあつたけれども、概して質素な生活と生活難とを有つてゐて大家名門とは其の點に於て相違して居た。彼等は土着ではあるし自治制度に對して何とか自己の位置を定めなければならなかつた。是等の貴族は一時孰れの方向に自分を向けてよいか鳥渡宙に迷つた形であつたが其の中の一部は世界主義的傾向に好意を有つことに努め、骨髓迄舊來の保守的色彩を徹底せしめ、國民の機關に對しては密かに之を敵視した。

是等の人々と反對に立つたのは近代的の教養を有つた頭の新らしい人々の集團であつて、其の所有地も多くは小さいものであつた。とは言へ二三名門者流例へばツォルトウスキとかクラボウスキ家の如き大貴族も此の集團に屬したのであつた。(クラボウスキ家はシュリム、プレッシェン、シュミーゲル諸郡殊にコステン郡に於て大領地を有して居た。ツォルトウスキ家は東境に於ける波蘭大領主中の錚々たるもので各地方殊にゴステン、シュリム、コステン、シュミトゲル、ウォトコウォ諸地方に大領地を有した)。

是等近代的頭腦を有つた大領主のお蔭で、貴族とそれから擡頭しかゝつた民主々義との間の軋轢が幾分か融和され一種の共同動作を可能としたのである。他の貴族が經濟的改造から遠く離れて小い土地の所有者が勃興するのを嫉妬の眼を以て眺めて居る間に、ツォルトウスキ家やクラボウスキ家などは改造の事業に斡旋し、他の貴族を自己の圈内に引入れることに努めた。殊にツォルトウスキ一家の人人は反抗運動に大に身を入れた。例へば(ニーハノウォ統の)スタニスラウス・ツォルトウスキはバンク・チームスキの一幹部であつたし、(ヤログニウォセ統の)伯爵アダム・ツォルトウスキはスボルカチームスカの幹部員であつた。同時に彼等は大領地を能きるだけ多く維持することに努め、(グツロウォ統の)マルヤル・ツォルトウスキはツウォアツェク・チーミャン(土地の保有機關)の設立者となつた、之は非常に大なる效果を擧げた貴族の唯一の機關であつた。

恁ういふ譯で貴族の一部は近代的事業によつて波蘭自治制中に於ける一位置を貴族の爲めに占有せんことに努め民主的諸機關の中へ割込みを企てたが是等の努力は年一年と――月毎にといつても差支へない程に――長足の進歩と效果とを擧げた。之はつまり全般の成行が波蘭貴族の努力に適合して之を助長したからであつた。

波蘭人の『市民的農民的』諸機關は最早や相當に鞏固なものとなり、別に何物かを犧牲に供せぬでも貴族に對抗能きるだけの力を持つに至つた。又事實貴族が永く組合から遠ざかつて居るといふことは波蘭民主々義の誇であつた、蓋し今や其の人數からしても資金からしても、波蘭國民は貴族を俟たずして自ら前進し得ることを證明することが能きたからであつた。併し貴族に對する一種の反抗心から明かに一旦は斯樣な證明もして見たが、其の後組合の指導者達は、貴族が冷淡に遠ざかつて居ることを惡しざまに云つて貴族の人々を攻擊し始めた。それにつれて集會や新聞では貴族(シュラハタ)が波蘭の財政に何

の貢獻をも爲して居ないことを盛に訴へた。そして公然と個々の場合を指摘し、何々伯は露領に大遺産が手に入つたのに其の金を何故外國の銀行に預けるのであらうかとか、何々家では或る土地を買はんが爲めに波蘭の組合銀行に大金額を預け入れたのは稱揚するに足るだとか云つて、一々其の是非を議論し遂に貴族は波蘭銀行をより以上に信任しなければならぬといふことが一般社會の話題論題となつた。

貴族の中には一旦失墜したる政治的勢力を再び獲得しやうと其の機會を覗つて居た人々も澤山あつたので、社會の論議が大分囂しくなつて來たのを幸に交換政策的に勢力を奪回しやうと組合問題に携らんとする傾向が生じて來た。殊に一九〇〇年組合銀行の整理によつて彼等の接近は著しく急速になり遂に組合銀行に參加することになつた。大體農民の組合は自ら數百萬馬克の預金を持つて居ても波蘭貴族の爲めには別に役に立つやうなことは爲なかつたのである。其處で貴族は大規模の内容を有つた近代的の銀行で個人及び營業上の關係によつて國際取引を行ひ得る程のものと改造することを要求した。組合銀行が其の要求通り大規模な堂々たる銀行となつてからは、同銀行は貴族の役に立つやうになり、千九百十二三年頃には立派な經營を行つて押しも押されもせぬ一流の銀行となつたが、其の指導の一部分には富有なる貴族(シュラハタ)が參與したのである。

併し最近時に於て、貴族の割込み及び波蘭自治制に於ける其の協同動作なるものは普魯西の官憲が己の力と方法の有らん限りを盡して波蘭人の土地分割事業に對抗せんと努力したことによつて一層促進されたのである。土地收用法が普魯西上流を通過して(一九〇八年二月二十七日)以來土地仲買と密接な關係を有つてゐる土地投機なるものが不安を感ずるやうになつた。其と同時に政府が土地分割に關する一の法令を起案しつゝあるといふことが分り、且つ一九〇四年の拓殖法改正規則(後に詳述)が今や能きるだけ嚴酷に適用されるやうになつた。されば土地分割の發達行程は何物にも妨げられることが無かつたら、自然無數の小土地に區分されることになつたのであるが、普魯西政府は極力之を妨げ大領地に重きを置きて、依然大地主を優勢ならしめんとしたのである。波蘭貴族は今や之を大いに利用しやうとしたのであるが、其は彼等の土地の向上と確保とに最大の價値を置くことによつてのみ始めて右の有利なる狀況を利用することが能きたのである。そこでつまり貴族は普領波蘭の改造と更新とに參加することになつた譯である。

卽ち最近二十ケ年(歐洲戰前)を以て貴族(シュラハタ)も亦全然一變化を來したのである。普魯西の拓殖政策の始まる迄は波蘭の貴族は普魯西に於ける波蘭主義の最も危險なる敵であつた。蓋し貴族は如何なる意味に於ても因循姑息である上に道德的にも惰落して居て、而も或る特權を所有して居たからである。貴族なるものは封建時代の不生產階級の如く波蘭の發達の上に腰を据えて之を邪魔したのである。然るに彼等の勢力は非常に廣い土地財產の上にあつた。當時波蘭の土地は非常に偏頗なる配分になつて居

て大領地(Latifundium)に非れば極く小さい所有地で、農民の所有する中位又は大土地といふものは無かつた。

波蘭の發達行程に於ける此の障害が除かれたのは、普魯西波蘭政策の豫期せざる而も效果の多い副作用であつた。普魯西の拓殖委員會並に波蘭の分割事業者は一八八六年以來競爭して波蘭貴族所有地を取り始めた。一八八六年から一八九六年迄に拓殖委員會は其の買收土地の七十%以上を波蘭人の手から獲得した。而して波蘭の對抗運動も全く同じやうな方法を選ぶより他に仕方がなかつた。負債に惱んで居る波蘭の大領地を救ふ、つまり分筆しなければならぬ間は獨逸人の所有地に迄手をつけることは考へ得られなかつたのである。貴族の有力者達や有數の地主等が、獨逸人の手に土地を渡すことを極力阻止したのは勿論であつた。殊にトワルチスツウォ・ツェントラルネといふ名で通つてゐる波蘭大地主の機關は負債償却や土地の改良に盡力した。それで一八九〇年代の中頃には大領地の結束即ち其の領地の健實性を確保することが能きるやうになつた、即ち波蘭所有地の中で最も弱い部分は十年間の分割事業に於て一部は普魯西の拓殖委員會によつて、又一部は波蘭の企業家によつて分割されて了ひ殘つた大領地は一部分分割の方法によつて負債を償却し、普魯西の壓迫政策の下に整備したる質實な近代的農耕作に移つて行つたのである。

斯くして波蘭主義は健全なる對抗運動を完成したのである。貴族は全滅されはしなかつた、彼等は單に封建的境遇から投げ出されたに過ぎぬ、今や貴族は波蘭自治制の共働者或は參與者となり普領内に於ける波蘭主義の充實に貢獻し始めたのである。

(三)　ラインランド・ウェストファーレンに於ける波蘭勞働者

戰前ラインランド・ウェストファーレンには約二十萬の獨領波蘭人が住んで居た。其の中ボーゼン及西プロイセン出の人々が五十一%東プロイセン出が二十四%で上部シュレジヤ人の數はづつと少く九%であつたが、ラインランド・ウェストファーレンで生れた者即ち第二世は約十六%であつた。

ラインランド及ウェストファーレンに於ける波蘭勞働者の組織が良いか惡いかと問はれた場合、問はれた識者はどう答へて良いか烏渡解らない、といふのは良くもあれば見方によつては惡くもあるからである。

他所から來た勞働者の群は同地方では互に密集して住んでゐて、ゲルゼンキルヘン、レックリングハウゼン、ヘルネ、ボックム等の工業地方は殆ど波蘭の都市のやうな感を表はして居る。但だ缺けてゐるやうに見えるのは東方のスラヴ諸州に於て下層階級に迄も見られるところの家庭生活の穩やかさである。此の穩やかさ即ち落着いた氣分が無いから到處一種ぎす〳〵しい硬い調子が支配してゐる。多くの男は其の妻や小供を故郷に殘して置いて、生活する爲めではなく貯蓄をする爲めに働いて居る。彼等の仕事以外の社交生活は大部分集會に於て行はれる。集會では彼等は故郷よりの消息を聞き、鄕

黨の新しい努力や、鄕土に於ける新しい壓迫政策を聞く。又集會で煙草を吹かし酒を呑み合ひ民族的固有の氣分と感興とを受ける。『集會』こそ實にラインランド・ウェストファーレンに於ける波蘭生活の象徵である。ポーゼンでも西プロイセンでも或は又シュレジヤに於ても右の地方に於けるが如く其の聲樂會、體育會、勞働協會、講習會等が盛んな處は何處にもない。集會は明かに彼等の爲めに其の家庭の往來や愉快な社交の缺くる所を補ふ機關である。集會は彼等の義務であり又彼等の娛樂である。

此の意味ではライン・ウェストファーレンの波蘭人は確かに良く組織されてあると謂へる。けれども他所の土地に於て彼等が民族的單位として存在する事實其の物が既に一の組織であり機關であるとも謂ひ得られる。

ところで若し近代的の職業組合制度の觀念や條件を以て波蘭人の組織に當嵌めて見たとすると、ラインランド・ウェストファーレンに於ける波蘭勞働者は極めて惡く組織されて居るといふことになるであらう。彼等には彼等の問題を處理して行く永續的な管理といふものが缺いで居た。尤も言葉の意味から見れば勞働者の問題を處理すべき筈の部局が存在したことは事實であるが、それはほんの形式的な部局に過ぎなかつた。彼等は又目的を自覺したる努力と意義ある指導とさへ存すれば群集の貯蓄の中から充分の金額を其の機關の金庫に醵出せしむるのは大して難かしいことでなかつたに拘らず、資金といふものを有たなかつた。何よりも先づ勞働者階級から出世して勞働顧問とか職業組合の幹部となつて自己の爲人を以て感化を及ぼすべき人物に缺けてゐたのである。

それ故此の勞働者の團體は恰も、近代的組織には未だ遠く距離のある一大民群のやうなもので此の民群を指導せんが爲めに二三の指導者や黨派が互に爭鬪して居るのであつた。斯樣な調子で内に自ら確固たるところが無かつたから他から附込む隙は幾らもあつて、此の地方で選擧戰などがあると各方面から波蘭人の氣に入らうと努める運動が非常に盛になる。其は單に民黨首領としての虛榮心や營利心からのみではなく、二大政黨、卽ち中央黨と社會民主黨が是等外國の勞働者を自黨に引入れて選擧の助けとせんが爲めであつた。其の他ポーゼン及び西プロイセンの指導者達はライン・ウェストファーレンの同胞を自己の支配下に置き、以て波蘭勢力の積極的一因子に育て上げんことに努めた。

斯の如く三人の求婚者から秋波を送られた勞働者は一層不確實なものとなつた。そしてたとへ民族的本能が宗教的感情(中央黨は舊教を自己の土臺とした)や社會的希望(社會民主黨は勞働者を地盤とした)よりも強くあつても、波蘭人の機關の發達は例の内攻で妨げられるのである。さればライン・ウェストファーレンの波蘭勞働者が是れ迄にたつた一度だけ而も極く短期間確固たる指導に身を委ねて居たことがあると云つても夫は別に不思議ではない。そして其の短期間といふのは一八九〇年から一八九四年迄であつた。

其の當時は波蘭勞働者の數が比較的少く(二三萬)彼等の事情を通覽するのは左程困難で無かつた。

とは云へ二三萬といふ數は等閑視する譯には行かず、殊に一八八五年以來俄然其の數が增加したことは世の注目を牽いた。是の異民族を獨逸人の僧侶が濟度することは誠に困難で不充分でもあつたし、そうかと云つて無宗教狀態に放擲して置けば風紀の頽廢を來たす惧があつたので、宗教官廳では一人の波蘭宣教師をボックムに呼び寄せた。此の宣教師は活潑な男で政治的能力をも具へてゐたので熱情と明晳な頭腦とを以て彼の仕事に從事した。彼はドルトムンド、ゲルゼンキルヘン、ヘルネ、ボックム、シャルケ、ウヰッテン其の他の土地に五十名乃至八十名宛の會員を有する約二十個の社交的勞働者協會を設立した。尤も是等の協會は別に大した役目も演じなかつたけれど、兎も角唯一の機關として重要であつた。

それから彼は直に政治的波蘭新聞をボックムで創刊したが(ウヰアルス・ポルスキといふ)之は彼の主なる功績であつた。此の新聞は敎皇全權論的勞働新聞の色彩を有し、波蘭舊敎勞働協會の設立を盛に慫慂した。同時に彼は是等の勞働協會に萬人の眼を牽付ける刺戟を與へた、卽ち彼は協會をして協會旗と徽章とを持つて行列に參加せしめるやうなことをしたり、協會の協議や決議事項は細大洩さず『ウヰアルス』に發表し、以て當時未だ甚だ粗野な勞働者の集りに品位ある外觀を添へた。

此の波蘭宣教師はリスといふ名であつたが、彼は斯くして到處に巧言を以て勞働協會を設立し、僅かな年數の間に炭坑地方――ミュンスタア、アルンスベルグ、デュッセルドルフの各縣が相接して居る地方――に於ては殆ど何處の土地でも各一個の波蘭舊敎勞働協會があつて、聖カシミル協會とか聖ヴレンチン協會とか聖ネポムク協會とか各々勝手な名稱を附した。そして一八九三年には此の種の協會が約百ヶ所もあつて其の指導者は卽ち『波蘭舊敎勞働協會のパトロン』としての宣敎師リスであつた。

融和政策時代が續いた間は卽ち一八九〇年から一八九四年迄の間は宗敎官廳も此の波蘭僧侶の活動を默認することが能きた、のみならず之を援助さへした。之が爲め道義的及び社交的雰圍氣は疑もなく改善せられ、又普魯西政府は當時波蘭主義と情意投合の折柄であつたから、協會の政治的影響の如きも人々は殆ど知らぬ振をして居た。ところが一八九四年に愈々融和政策が破れた時、政府はバダーボルンの大僧正に迫つて此の活潑な波蘭宣敎師を制御せんことを强要した。殊にリスは波蘭語の新聞『ウヰアルス・ポルスキ』を廢刊し但だ其の宗敎附錄だけは續いて刊行して良いといふ命を受けた。リスは僧正の命令に從ふことを拒み、一八九四年の夏ライランド・ウェストファーレンを去つて西プロイセンの己が管區に歸鄕した。

此の挿話的な而も效績の多かつたリスの支配以來戰前に至る迄ラインランド・ウェストファーレンには波蘭勞働者の機關としては何等確りしたもの或は世に認められたる指導を有するものは遂に存在しなかつたのである。そして總ての狀況は左の如き成行となつたのである。

嚇怒したる宣教師リスは、宗教官廳の手が及ばんとしたる『ウヰアルス・ポルスキ』を西プロイセンに於ける有名なる波蘭の一煽動家――僧侶でない人――に賣渡した。其處で教皇全權論的勞働新聞から一の急進的國民新聞が生れ、其の憎々しい調子は各號に眼立つた。同時に社會民主黨の煽動は以前に增して鋭くなつて來た。(同黨はリスがライランド・ウェストファーレンを支配してゐる間は波蘭人の許では何の效果も贏ち得なかつたものである)。併し宗教官廳は宗教によつて勞働者を教會に牽引け置かんが爲めフランシス派の僧侶を呼寄せた。

それ故波蘭人、社會民主黨、中央黨と此の三者がお互に競爭で努力し、數年間の紛糾といふものが要するに其の結果であつた。一八九四年から一八九七年迄といふものは大體何も摑み處が無く週毎に何か新しい騷動が持上り新しい煽動が行はれ、新しいフランス派の教父が來り、誰もが現狀の支配者となることが能きなかつた。

此の爭鬪は勞働者自身よりも寧ろ民黨首領を以て自任してゐる人々によつて行はれてゐたのであるが、併し夫等の爭鬪中に波蘭の指導者達が漸次に優勢を占めるやうになつて來た。彼等は社會民主黨の主義政綱に全然反對はせず、勞働者が要求する丈けのものは取つて以て自家の主張とした、又同時に聖なる教會に對しても其の崇敬の念を强調し、波蘭民族的諧調を以て兩敵手を巧みに出し拔いた。其の利用する波蘭民族諧調に對しては獨逸中央黨の機關紙も社會民主黨の夫も如何に努力しても到底太刀打ちはならなかつた。

斯くして『ウヰアルス・ポルスキ』は數年の後には全く彼一流の極めて效果ある手練によつて彼が勢力の固定を敢て企てることが能きたのである。

同新聞は一八九七年十二月十二日ボックムに於て波蘭國民大會を催した。此の大會はラインランド・ウェストファーレン及び其の隣接諸州に於ける全波蘭人に對し一の選擧機關設立の議を提出した。此の選擧機關に於て『ウヰアルス・ポルスキ』は當時の狀況から見れば最も特徵ある獨創的な方法で非常に大なる勢力を確立したのである。其の『選擧規則』の第二條には恁う云ふことが定められてあつた、即ち中央本部には(之が眞の決定的勢力ある部局で候補者の擁立をする)常に『ウヰアルス・ポルスキ』の代表者二名を屬しめなければならぬ、又其の書記長には常に『ウヰアルス・ポルスキ』の編輯部員が成ると。それから猶ほ第六條に於ては委員會(即ち本部)の決議は、其が『ウヰアルス・ポルスキ』に公表されて始めて拘束力を發生すと定められてあつた。

此の選擧機關の組織は、先づ波蘭人が澤山住んでゐる各選擧區には各々一の地方支部(區委員會)を設け、此の地方支部は又各町村委員會から援助されるといふやうに仕組まれてゐた。そして其の全體の最頂點には中央本部が立つてゐて其の人員は地方支部の代表者及び『ウヰアルス・ポルスキ』の代表者二名から成立つといふやうになつてゐた。

右の案は『ウヰアルス・ポルスキ』の主筆が自ら筆を執つて起草したものであつた。そして殆ど二萬人からの勞働者が集つた此の大會は彼の議案を喝采を以て可決した。

斯くしてライン・ウェストファーレンの波蘭人には一の機關が出來上つたのであるが、此の機關は國民の中から發生したのでは無く、二三の策士によつて勞働者の群の上へ膳立てをして置いたものに外ならぬ。勞働者は無條件で其の規定に從つた、彼等は其の中央本部が規定した通りにヂュイスブルグ＝ミュールハイム＝ルールオルト選擧區では固有の波蘭候補者に投票するかと思へば、又中央本部卽ち『ウヰアルス・ポルスキ』の人々の希望通りに、何處では中央黨に對して背を向け此處では中央黨の候補者に投票するといつたやうにどちらにでも引き廻はされた。

玆では之が良い組織だと云へば謂へないこともない、勿論波蘭勞働者の此の『規律』は獨逸人に大なる印象を與へた。併し之は結局極く皮相な意味のない新聞政治に過ぎなかつた。此の新聞政治も固より放浪する國民の群を感化することも能き、普魯西政府から不愉快に受入れられたのではあつたが、而も何等の心髓を有たず健實性を有たず、何等意義ある目標を有たなかつたのである。

殊に『ウヰアルス・ポルスキ』は、勞働者の經濟的結合といふことを圖つたり、共同金庫を設立すること、勞働者監理の制を採用すること、斯くして波蘭勞働者の鞏固なる一致を眞に確保することを全然おろそかにして居たのである。反對に感興をもつて作り上げた『ウヰアルス・ポルスキ』の仕事は、自然ライン・ウェストファーレンに於ける波蘭勞働者の指導者達が外部に對して際立つた印象を與へる似非機關を以て滿足するといふやうなことに終つたのであるが、斯樣なものは事實全く內容の缺けた機關に過ぎなかつたのである。

例へば『ウヰアルス・ポルスキ』の人々はボックムに『波蘭人聯盟』（ツウヰアツエク・ポラコウ）を創設した。此の會は獨逸國の西方に於て祕密裡に一の名聲を贏ち得たのであつたが結局大した事も仕出來かさなかつた。此の會は年々數次普魯西の波蘭政策に對する反抗集會を催し、機會ある每に波蘭語のパンフレットを配布し世論を捲き起すことに貢獻したけれども、波蘭勞働者を實際に鞏固にすることは爲なかつた。

『ウヰアルス』の新聞政治は漸次に他の波蘭新聞業者の嫉妬を招いた。そして遂に（一九〇七年頃？）ドルトムンドに之に競爭する新聞『ヂエニク・ポルスキ』といふのが生れた。此の新聞は直ちに羽振を利かせて居る『ウヰアルス』に向つて獰猛な攻擊を開始し『ウヰアルス』に隷屬して居る似非機關に鋭い批評を浴せかけた。

此の內輪喧嘩は歐洲戰爭迄續いたが、其の爭鬪の中からライン・ウェストファーレンに於ける勞働者機關の改造と力强い發達の氣運が動いて來た。攻擊を受けた『ウヰアルス黨』は從來選擧委員會と、波蘭人聯盟と地方的協會とに於て勢力を有つて居たのであるが今やいろ〳〵の點に於て孤立に瀕する

やうな傾きとなり、どうしても自己を維持せんが爲めには堅實なる協會事業を行はなければならなくなり、且つ自分以外に新しい有力者の存在を認めなければならなくなつた。其の結果以前には微々として振はなかつた『チェドノツェニ・ツァウォドウォ・ポルスキ』(波蘭職業組合)といふ勞働者協會が著しく速かに發展し來り、獨逸の職業組合の範に則らんことに努めた。

此の協會が未だ實際には煽動的特性を具へて居たことは已むを得ないことであつた。同協會は毎週二回乃至三回の會合を催し、斯くして戰前五ヶ年位の間に約三萬餘の勞働者を牽き付けた。併し此の協會が眞に同業組合的仕事を爲さんことに努めたのは明かに見えもしたし又其れ丈けの能力があるやうにも見えた。其の月刊雜誌『チェドノツェニ』は到處の工業地方に擴がり、實用的諸機關の一切の問題に於て勞働者の爲めに忠言を吐いた。此の忠言の結果は現實に現はれ、鑛山勞働者選擧問題に於ても自治制問題に於ても相當の發展を見た。波蘭職業組合の似非機關と異る點は、同協會が數人の手で左右される一種の機械(からくり)では決して無いといふ處に存する。同會の幹部を定めるに當つては必ず一般勞働者の選擧に依つて行はれ、藁人形や新聞の指命者とは事變り、坑夫の信任を得たる人々が其の任に就いた。其の他似非機關と異つたところは、同會が勞働者の醵金から漸次に積立財產を作つて行き、斯くして實行力の備つたばかりでなしに一層責任ある協會と成つたことであつた。尤も此の機關は未だ迚も近代的職業組合とは比肩すべくも無かつたけれど、確固たる職業組合による結合への道程にあり其の入門を形成したのであつた。

偖てそれでは、ライン・ウェストファーレンの機關はポーゼンに於ける諸機關に對して如何なる態度を執つたであらうか。それは未だ戰前に於ては管轄權の爭を事として居たと稱して差支へない。例へば中部獨逸に於て生活し放浪して居る波蘭勞働者はポーゼンの權威に服從すべきであるか又はライン・ウェストファーレン職業協會に隷屬すべきであるかといふやうなことを云ひ爭つて居たのである。

ポーゼン＝西プロイセンの職業組合の指導者達は聲明すらく、出稼者の機關は職業組合にとつて一の死決問題である、何となれば中部獨逸で働いて居る普領波蘭人は何れは後に故郷に歸つて來るであらうが其の際若しも彼等にして職業組合的訓練が缺けて居た場合には組合にとつて一の障害因子となる惧があるからであると。ラインランド・ウェストファーレンに於ける波蘭職業協會の指導者達は又謂く、中部獨逸で働いて居る若くは浮浪生活をせる波蘭人は漸次にハンノーヴァを超えてウェストファーレンの方にやつて來て居るが若しも彼等にして職業組合的訓練が缺けて居た場合には危險なるストライキ裏切者となるの惧があると。

ライン・ウェストファーレンの機關は其の會員の數と資金とに於て著しくポーゼンの組合よりも優

勢であつたので、短刀直入的に競爭者の身邊に迫り、先づ西プロイセンに於て、次にポーゼンに於て勞働者の獲得運動を爲し、ポーゼン州に於て集會を催したりなどした(一九〇五年夏)。

斯樣な實力を遠慮なく示したので、獨逸國内の總ての地方に於ける波蘭勞働者を各自が能ふ丈け自派に牽入れることは兩協會の各々にとつて勝手たるべしといふことが、既遂の事實として一般に認められなければならぬといふ狀態になつた。一九〇五年八月五日ライン・ウェストファーレンに於ける波蘭職業協會は、協會業組合の幹部は聲明して曰く、『ラインランド・ウェストファーレンに於ける波蘭職業協會は、協會自らの爲めにではなく勞働者の爲めに存在して居るといふ原則を遵守するのであるから、其の事業の分野を自ら狹めることは能きない、されば勞働者の利益が一度然らしむればポーゼンに迄も手を伸すことなきにしもあらずである。同時に又波蘭の職業組合がポーゼンから來てウェストファーレン地方に來やうが或はボックムに於て宣傳しやうと煽動しやうと敢て差支へない筈である、但し同組合が其の爲めの資金を有して居り會員が存在して居ればであるが、之は頗る疑しいものである』と。

けれども其の次の年には、右のやうに嘲弄せられたポーゼンの組合が大いに勢力を增して來た。それは出稼人の大なる部分が冬に故鄕に歸つたのを幸ひに彼等を其の組合に牽入れることが能きたといふ單なる理由に基いて居た。恁ういふ次第で兩組合は鎬を削つて競爭し其の御蔭で中部獨逸で働いて居る普領波蘭人の大部分が孰れかの機關に結び付けられることになつた。例へば漢堡及び其の附近に住んで居る波蘭勞働者は多くはライン・ウェストファーレン職業組合に屬し、伯林の附近ではポーゼンの組合の勢力が强いといふ風であつた。

是等の諸機關は未だ充分な發達もせず其の努力も亦日猶は淺いのであるが、左の三事項丈けは之を認めることが能きた。

第一にラインランド・ウェストファーレンは、波蘭の出稼勞働者を非常に多く收容し、其等の勞働者をして永住せしめ若くは比較的長く一地に滯在せしめそれが爲め獨逸本國へ出稼する普領波蘭人は二個の方面から組織されることが能きたといふこと。

第二に彼等の機關はポーゼン・西プロイセンに於けるものも、殊にラインランド・ウェストファーレンに於けるものは漸次に教權專制的性質を失ひて職業組合的模範に倣ふことによつて力を增して來たこと。

第三に兩組合の權能爭ひが未だ歇むには至らなかつたが其の競爭の中から一致の努力が芽生えて居たこと之は非常に重大なことで歐洲戰爭の直前には黽勉努力せる人物が波蘭勞働者機關に携り大に將來の發展を期待し得たのである

(四)　一般的政治的機關

(イ)　『ストラ・シュ』(Straż)

波蘭國民は自分自身を良く知らんが爲めに過去を回顧しなければならぬと云つて過去の歴史を尊重した。そしてどの家庭にも殉國者の肖像か殉國的事件に關する繪畫の懸つて居ない家は無い位であつた。殉國史を波蘭程に完成して居る國民は他に無いであらう。其の殉國史は恰も波蘭人の政治的念珠のやうなものである。此の念珠を爪繰つては絶えず禱が捧げられ、各人は屢々其の灰色の珠の一つ〳〵に觸れたのである。恁ういふ氣分の中に最近益々センチメンタルな人々が出て波蘭國民を戒め、無暗に流行的な職業機關のみに浮身を窶してはならぬ、大體同業組合とか農民協會なるものは何等波蘭の傳統を有たぬではないか、念珠は夫等の爲めには禱らぬのであると呼號した。

此の樣な主義をもつて、舊波蘭の名と舊波蘭の官職例へば地頭職(スタロステン)(肩書)とか代官(コモール)(肩書)とかを有する政治的煽動機關が出來たとすれば、波蘭國民の心臟は波打ち、波蘭の祈禱と共に忽ち會員名簿が充滿するのは必定であつた。

一九〇五年の春、或る政治家上りの人が波蘭人聯盟會『ストラシュ』(防衛)を創立し、獨逸帝國内に於て波蘭の有ゆる利益を圖らうとするさうであるといふことがポーゼンに知れ渡つた。此の政治家上りといふのは例のヨゼフ・フオン・コスチエールスキであつて、彼は其の政治的飛躍を色々と試みた後何とかして名譽恢復を爲すことが必要であつたのである。彼は頗る富有であつて(遺産と結婚とに依つて得たのであるが當時約三千萬馬克と評價されて居た)絶えず一人の祕書役を從へ、貴族及び知識階級の錚々たるものを自己の周圍に集めて居たのであるが、右の聯盟會は先づ此の一團から出發し、數ヶ月の後には最も世間に知られる會となつた。それは何故かと云へば、會の幹部は絶えず廣告を出し一年の會費一馬克といふのも特に嚴重に取立てるといふのでも無かつた爲め愛國者連中は群を爲して之に赴きいろ〳〵な政治的滿足を味つたのである。

ところが鳥渡奇妙に感ぜられるのは此の會が其の後何物をも爲し遂げなかつた、寧ろ爲さうとする試すらも爲さなかつたに拘らず僅かの間に大なる名聲を獲得したといふことである。ストラシュが此の弘通的效果を擧げ得たのは、要するに此の聯盟が舊敎波蘭式扮裝で世に現はれ同時に口で唱ふるところは最も近代的な見解や主張を以てしたからであつた。例へばストラシュの規則には波蘭の全土卽ち波蘭人が住んで居る普魯西領を莊園(スタロスタイ)と縣とに區分し、各『ストラシュ地頭(スタロステン)』は無期限に任命され各自の郡に於ける仕事を指導し一年に一回ポーゼン市に於ける『地頭會議』に出席する、代官(コモール)は地頭(スタロステン)の下位に在りて地頭の命令に從ひ地頭に連絡を取るの義務がある、などゝ規定してある。

本會の最高管理は五名より成る理事會によつて行はれる。理事會の他に十八名の會員より成る諮問委員會が存在する。理事會と諮問委員會とは三年毎に『地頭總會』によつて選擧される、全幹部の上に總裁が位する、總裁は其の祕書役と共に實際に全事業を統轄するといふことになつて居た。一年に一回づつ催される總會が、事實上退職したる諮問委員會員の補缺選擧ばかりを行つて居たから、全制度は往時

の泰平時代の如く如何にもデモクラチックに見えたけれども、事實は全く嚴格なる寡頭政治的であつた。其の上理事會は、不意の襲擊に備へんが爲め。定款に於て、理由を示さずして會員を除名する權利を保有して居た。(第六條、會員の入會及除名手續は本部理事會によつて行はる。除名には理由を示すことなし)。如何なる利害關係と力とが此の定款の楯の後に潜んで居るかと良く見れば其はポーゼン貴族であつた。彼等の失敗の後民主々義の爲に隅の方に押除けられ經濟的の協會に於て何の位置をも有つて居ない貴族(シュラハタ)は、再び活動を開始し勢力を恢復せんが爲めに新しいストラシュ協會を利用せんとしたのである。けれどもシュラハタと稱する貴族階級はポーゼン州を除いては上部シュレジヤに於ても獨逸の其の他の土地に於ても勢力を有して居なかつたので、ストラシュの創立に際し、定款の規定を『理事會の多數者はポーゼンに住居せざるべからず』と定めて了つたのである。此の規定は『地頭(スタロステン)』を能きる丈け貴族地主又は之に縁を有する分子から採らうとする伏線であつたのである。

之が爲めシュリム又はコステンなどでストラシュの會が催されたとなれば他の波蘭の集會に見るのとは全く異つた光景を現出した。幹部席には其の附近の貴族地主と其の友人達が坐り、そして縱令今や一と度び眼醒めたる國民が最早や默つて濟すやうなことが無いにしても而も『旦那方』は會に一種の刻印を捺し付けることが出來た。

併し波蘭に於ける內部の爭鬪は、住民が此の反動的形式に好意を持たないものであるといふことを證明した。『ストラシュ派』に對抗して立つた第一人者は在ライン・ウェストファアトレン波蘭人の指揮者であつた。彼はストラシュがライン・ウェストファアーレン地方に這入つて來ることを遮らんとし、會合や新聞(ボックムの『ウヰアルス・ボルスキ』及びライン・ウェストファアーレンの波蘭指導者と密接な關係にあつた在トルン『ガゼタ・トルンスカ』)に於てストラシュを攻擊し貴族(シュラハタ)の一機關がライン・ウェストファアーレンの勞働者の所で何を求めやうといふのか、求めやうにも何物もないではないかとて彼の之に反對する所以を明かにした。

之に續いてポーゼンに於ける國民の指導者等もストラシュの遣方を批評し始め、其の專制的な行動を責め各種の不都合を發きて貴族指導者の政治上の信用を狹めた。ガリチヤに於ける急進的新聞もポーゼンの民主的運動を激勵し、ストラシュの爲めに眩惑されてはならぬと戒めた。

獨逸人は此の內攻を見て喜んだけれども、之が爲めにストラシュの存在が危くなるやうなことはなかつた。其の反對にストラシュの幹部は漸次に古風な氣分を改める傾を示し、成る可く會を民衆化することに努めた。其の事よりもストラシュの緊密な困難は寧ろ、他の問題、卽ち本協會は大體何を行はんとし、何を行ふことが能きるかといふ問題に橫つて居た。

同協會は總てを行はんとする。其は獨逸に於ける波蘭人の文化的利益を保護せんとする。其は波蘭の人民を政治的に組織按配して之を導かんとする。其は波蘭人を物質的に向上せしめ、彼等に金融を

圖らんとする。其は又彼等に法律上の援助を與へやうとする。是等の任務を實行せんが爲め本協會は四つの部を作つた。第一部は組合機關問題を司り、第二部は文化問題、第三部は經濟問題、第四部は法律援助を司ることにした。是等の部は毎月各自に會合を催し波蘭の生活を總ての方面に於て確保し向上せしめることを欲し、又爾かする筈になつて居た。つまりストラシュは大仰な廣告樂隊入りで形式的な一『政府』を設けたのであつた。最高頂點に總裁が立つて居り、其の下に四人の『部長』が恰度内務大臣、文部大臣、農商務大臣、司法大臣のやうに控えてゐるのであるから、波蘭人は如何にも自分達の政府が出來上つたやうな氣がして嬉しさに踊り上つたのであつた。

數千の波蘭人が立所に本會に入會したことは勿論である。人々は入會者からは何物をも要求しなかつた(一年一馬克の會費を滯納しても默つて眼を閉ぢた)。そして斯樣な安い値段で政治的雰圍氣に出入することが能きたのである。(創立一年後には一萬六千の會員と一萬八千馬克餘の收入二年後には二萬三千の會員と二萬四千の收入とがあつた)

本會の大綱領は其の宣言の際には大人氣であつたが、其の中に一つの過誤が存在した。卽ちストラシュの幹部が其の四つの部をして文化、經濟、法律の向上を促進しやうと手を着けるが早いか、各所でもう三四十年來盤根錯節に遭つて發達し來つた信用機關や同業機關の活動分野に衝突を惹起した。組合の指導者達は、從來信用機關の重要な問題は愼重な態度をもつて解決することに慣らされて居たものであるが、今や新聞紙上にはストラシュが低利の金融を促進しやうとして居るとて色々な誘惑的の計畫が記載されて居るのを讀んだ。到處に素人臭い政論や事業計畫が表はれた。ストラシュは屢々職業協會の溫健確實な企てに比し如何にも不器用な態を現はし其の理事會は自ら波蘭全體の一切の問題に於ける最高指導者である如く振舞つた。

ストラシュは其の建設が全く偶然的で不確實で、質實な效果ある事業に對して何等の保證をも見せなかつた爲め、又同會が生れたるに就いては政治的に國民を鼓舞刺戟して大騷ぎを演じ以て常に普魯西の官憲に干涉の機會を與へた爲め、確實な效果を擧げつゝある經濟機關の指導者達はストラシュの友交的な連合に反對した。殊に波蘭職業組合のバトロンは、ストラシュ協會は決して必要缺くべからざる機關ではなく、寧ろ新しい機關が出來れば出來る程益々力が分裂し、其の分裂した各々の力は重要な事件に對する責任を互に他の上に嫁するやうな傾向を取る惧があると聲明した。

其處で此の經濟方面に於ては如何なストラシュも手が出ないことになつた。組合制度や職業協會の中で勢力を有つて居る人々は其の鞏固なる地位によつてストラシュをして或る一定の境界を越えしめないやうに監視するだけの力は充分に所有して居た。餘り大膽過ぎる目論見が出れば直ちに壓し潰された。斯くしてストラシュ協會は漸次に制限を加へられて遂に一種の政治的煽動的協會となり、屢々會議を召集して國民の自覺を喚起し、職業的に騷ぎ立てる機關となつたのである。

(ロ)『ソコル』(Sokol=波蘭體育協會)

ストラシュよりも遙かに巧妙に群集本能を利用したのは『ソコル協會』であつた。ソコルは將來の革命軍たるべしとの密かなる豫想の下に波蘭の男子を體育協會に集めて政治的指敎を爲し、最も直觀的な形式で民族的特性を育成して行つた。

玆で華々しい役目を演じたのは『政治的祕密』である。尤もソコルが單に體操するばかりでなく政治的演說もやれば政治的唱歌も唄ふことは三歲の童兒と雖も知つて居た。歐洲戰前數年頃からはもう大びらに之を行つて居た。それでもソコルの指導者達はどんな集りに於てゞも先づ眼と眼を笑み交して如何にも彼等が體操のみを行ふかの如き外見を作り『體操』を行ふべく集つた波蘭の職人は或る政治的祕密を知つて居る者として一種の誇を感じたのである。

此の會の起原は一八八四年にホーエンザルツァに於てチェック人の眞似をしてソコル會なるものを設けたのが抑も始りである。一八九三年には十個の協會が出來たので之を纏めてソコル協會同盟なるものを作つた。

ソコル協會は他の政治的機關又は殊に經濟的機關とは異つて何物をも損をすることがなく、從つてどんな攻擊に對しても無感覺であるといふ點に於て有利な地位を有つてゐた。例へば今日警察が或るソコル協會をクロトシンに於て解散させたとすると、其の出來事は全郡の話頭に上り新聞は一週間にも亘つて夫を面白く書き立てる。それから二三ヶ月經つと其の隣のコビリンに於て新しいソコルがこつそりと創立される、そして之に參加する各人は國家的行動の一に携はるのであるといふ感情を享受するのである。

斯樣な會合に際し協會に一種の公共的性質を與へ得ることは拔目なく實行する。人々は波蘭の服裝を爲し(紐飾の着いた上着、寬いズボン、長靴、赤いシャツ)波蘭帽を被り(鷹の羽の着いた帽子)少くとも或る徽章を飾つて集る、彼等はソコルの挨拶『ソレム』を言ひ交はす、それから所謂政治的問題に移る、それはつまり會員の誰かゞ愛國的、政治的講演を爲す、演題は『フンヅフェルドの野に於ける獨逸擊破に就て』とか『ラヂスラウス・ヤゲロの獨逸騎士との鬪』とかいふ歷史的題材の下に諷刺に富んだ而も裏面の意味の明かに解る演說をする。最後にソコル・マーチが唱はれ、若し此の集會が警察から解散でも喰へば歡喜はそれで最高點に達するのである。

斯樣な協會は以前の波蘭の全地域及び波蘭人が住んでゐる所には何處でも存在した。ガリチヤに於ては大びらに公然とやつて居たし、露領波蘭では全く祕密に、獨逸國では其の中間の一種灰色の特性を有つて次の如く組織して居た。即ち獨逸ソコル協會同盟は其の本部によつて指導される、本部はポーゼンの商人、醫師、辯護士等から成る。戰前には百五十九の協會が存在し、夫が十一の『ソコル區』に分れた。(十二區と稱する人もある)。ポーゼン・西プロイセンは四つの區に分れ、シュレジヤは第六區であつた。伯林が一區を爲し、其の他の區はライン・ウェストファーレンの工業地域に存在した。

此處に面白い現象が存するといふのは、ソコルの機關が信用及び職業機關の發達と恰度反比例する關係に立つて居たといふことである。ボーゼン、西プロイセンでは波蘭人の信用及び職業機關が一番良く發達して居た、ところがソコルの事業は一番振はない。第一區乃至第四區（ボーゼン、西プロイセン）は波蘭人の最も稠密な地域を包括して居るに拘らず協會の數も會員の數も誠に少なかつた。是等の區の人々は警察が別に壓迫を爲なくとも毎年擧行すべき區會の開催を怠り勝ちであつた、又平常の會合度數も他の區に比して少なかつた。加之一九〇七年の春にはボーゼン、西プロイセンに於けるソコルは退歩しつゝあるといふことが明かにせられた。上部シュレジヤに於ても波蘭人の經濟的機關事業が大いに發達を爲し、波蘭人の人口も稠密であるが、ソコルの發達は思はしく行かなかつた。此に反し伯林及びラインランド・ウェストファーレンに於けるソコルは速かに發達し盛大に赴いた。

一九〇七年の春に於けるソコルの數は次のやうなものである、但し之は獨逸人が外部から調べた數であつて絶對に正確とは云へないけれども波蘭人側でも之を認めたといふことである。卽ちボーゼン西プロイセン及び上部シュレジヤに於けるものは

第一區（ボーゼン）……協會數	九	
第二區（同　　）……	同	一二
第三區（同　　）……	同	一〇
第四區（西プロイセン）……	同	一〇
第六區（上部シュレジヤ）……	同	一〇

此に反し伯林及びラインランド・ウェストファーレンに於けるものは

第五區（伯林）……協會數		二四
第八區（ラインランド・ウェストファーレン）……	同	二一
第九區（同　　）……	同	一二
第十區（同　　）……	同	二一
第十一區（同　　）……	新設	

第七區は何處に存在するか不明。

右の數が示す如く、ソコル協會は他所の土地に於てのみ、卽ち伯林やラインランド・ウェストファーレンに於てこそ始めて活潑にして强い力を表すものであるといふことが分る。是等の地に於ては若い人達が協會に押寄せた、其處では年々新しい協會を設けて『體操者』を收容せねばならなかつた、其處では一九〇七年春には協會が段々に殖えて來るので『南部ウェストファーレン區』といふ新しい區を設けて其の機關を何とか監督しなければならなかつた。

併し職業協會とか殊に同業組合と云つた高級秩序の機關が發達して居る所にはソコルに對する熱は

消えて了ふのである。自己の物質的利害關係から信用組合の會議や職業協會の集會に出席する農民や商工業者などは、彼等に頓と解らないことを行ふソコルを理解するだけの時間を有たなかつたのである。つまり事の成行は、波蘭人の政治的煽動協會なるものは高級な機關の勢力に出會しては、之に齒が立たず後退りするものであるといふことを示したのである。不安を醸成し全然國家に敵對するストラシュやソコルの協會は、たとへ政治的宣傳や群集心理を利用しても、靜かに事業にいそしんで居る組合や職業協會から或る一定の柵内に閉込められて了ふものであるといふことが明かになつた。

波蘭國民銀行の或る指導者がたとへ猶ほ熱狂的な一波蘭人であり反普魯西的人物であつても、たとへ彼自ら波蘭の復活に多大の希望を繋いで居たにしても、而も彼は猶ほ信用機關の利害關係からして彼の銀行の關係者や預金者がソコル運動會やストラシュ騷の爲めに分裂したり興奮したり必要な仕事から離れたりしないやうに氣を付けなければならなかつたのであらう。思慮ある波蘭政策家は此の點を孰く注目しなければならなかつた。

(八)　議員選擧機關

併し有力なる經濟的協會の指導者は決して左樣に融通の利かぬ者でなく又無暗に嫉妬ばかりするやうな片意地でもなかつたから彼等の同胞が政治的機關を設けたからとて之を拒むやうなことはしなかつた。寧ろ其の反對で其等組合の指導者達が最も熱心に波蘭人を政治的に鞏固に組織し以て一切の偶然的な不確實な分子を其の結合から除外せんことに努めた。

之が爲に彼等が利用したのは、永く衰頽して居た波蘭政黨の舊土臺であつた、そして此の土臺の上に今や漸次に樓閣を築かうとしたのである。

帝國議會に於ける波蘭黨は此の十五年が程といふものは全く振はず、自己(貴族)に都合のいゝ世界主義的思想と晩蒔ながら他から取り入れた愛國的感激との間に行きつ戻りつしながら何を云つても爲ても人は之を眞面目に相手にせず、寧ろ滑稽視した。波蘭政黨が鄕土の運動の爲め其の力を奪はれてからは其の傳統的な圓轉滑脫の妙才は全く無くなつて了つた。偶に有爲の人物が代議士に選ばれても、彼は直ちに退いて働き甲斐のある鄕土の事業の方に還つて來た。

此の衰頽は社會の變化に伴ふ避く可らざる結果であつて新しい一の社會組織を立直さんと爲しつゝある國民は一本調子な明瞭な政見を以て立つことは難しい。二三十年前迄は普領波蘭主義は議會の活動能力から見て此の時よりも遙かに政治的に熟して居た。夫は狹い範圍の貴族僧侶的上層が權勢を握つて居て民衆は默して居たからである。波蘭國民の健全なる發達向上によつて夫の都合の好い活動能力は破壞せられ今の處不確實な狀態が生れたといふ譯である。二三の或る選擧區では、殊に組合に就て好く訓練された地方に於ては、政治的に好く發達し、知識、才幹、抱負を充分に備へた人々を選擧した。然るに他の地方では舊に依つて、故鄕には頓と寄り付きもせず家名ばかりは鳴り響いて居る門

閥の貴族を議會に送つた。此の族長的舊慣は最早や非實用的であるから勿論漸次に消えて行くのであるがそれでも未だ多くの區に於ては右の兩極端の中間を不確實に彷徨つて居た。

斯樣な狀態であつたから波蘭政黨なるものは各種の色彩を有つた一團であつて一致の行動が執れず從つて其の活動不能から一の滑稽なる姿が作り出されたのである。されば獨逸の眞面目な政治家は波蘭國民の中に於ける事件は非常な緊張を以て注視したれども議會に於ける波蘭人の言論には大して注意を拂はなかつた。

併し乍ら自ら興起したる波蘭民主々義の自覺は政黨の愚劣さを最早や忍ぶことが能きなくなつた。伯林に於ける代議士の無能は國內の指導者達が認めたばかりでなく、數年來新聞が齒に衣を着せず之を非難し始めた。知識ある波蘭人は誰でも代議士スタブウレスキの賢い冷靜な說敎口調の演說の方が當時の上部シュレジヤ人コルファンチの誇張した慷慨口調よりも有效であつたことを知つて居た。又曾てカンタクの巧妙なる討論が其の確實なる論調を以て獨逸の諸政黨をすら感服せしめたことを未だ記憶して居た。

尤も國民運動其物も、洗練されたる保守的な舊政黨が沒落したのに責はあつたが、ポーゼン・西プロイセンに於ける波蘭の自治制が鞏固に赴くに從ひ、上部シュレジヤに於ても漸次有利に夫等の制度が發達するに從ひ、再び眞面目な議會代表團を有つことが益々必要となつて來た。波蘭の少數黨が帝國議會でも州議會でも勢力を占めるなどの事は能きなかつたけれども、而も狀況に依つては嘗て融和時代の如く二十名の波蘭議員が大勢を左右し得る機會が來ないとも限らなかつた。又其の事を別としても、伯林に於ける彼等の代表が確りした賢い人達であるか或は反對に只嘲笑の的となるかといふことは波蘭人の名譽にとつてどちらでもいゝといふ譯には行かなかつた。其處で議會の政黨をして波蘭自治制を眞に堂々と表白し得るものたらしめ、其の政黨に再び洗練と據點とを與へんとする新問題が波蘭人の中に浮び上がつたのである。波蘭政黨の缺陷は何も近世の波蘭主義に附きものの缺陷ではなかつた。波蘭政黨の能力と意義とは之を高めやうと思へば高められるものであつた。其の活動能力の缺乏なるものは主として二つの缺點に由來して居たので、夫等の缺點は共に改善し規正し得らるべきものであつた。

第一には選擧の準備を爲すべき制度が非常に不完全に組織されて居て、富有なる人々は別に功勞がなくとも容易に議席を占め得るやうなことになつて居た。第二にはポーゼン、西プロイセン、シュレジヤ、ラインランド・ウェストファーレンに於ける選擧委員會相互の關係が未だ訓練が足らず、選擧準備を爲すに際して既に其の管轄範圍の爭ひの爲めに同士討ちを行はなければならぬやうな狀態であつた。

皮相的に波蘭の選擧組織を觀察すれば既に適當に且つ確固たる組立が出來上つて居るやうに見えた

卽ち形式上では選擧委員會の制度が久しい以前から存在して居たのであるが當初の目的通り其の實蹟を擧げて居たのは極く僅かな選擧區に過ぎなかつた。國民の指導者達は此の僅かな選擧區の行つて居るやうに全體の立直しを行はなければならぬことを知つて居た。そして經濟機關の指導者達が最も熱心に此の事業に着手したのであつた。

其處で選擧機關がどんな形式を有ち又其等の機關が實際上どんな働きを爲したかを述べることにする。

波蘭人は獨逸國內に於て政治的に見て四つの區域に區分される第一はポーゼン、第二は西及東プロイセン、第三はシュレジヤ、第四は『エミグラチオン』卽ちラインランド・ウェストファーレン、ハンノーヴァー、伯林、ブランデンブルグ及び選擧運動を起すに足るだけの波蘭人が住んで居る其の他の隣接州が夫等である。此の四つの區域に於ては、各選擧區は各々一つの『郡選擧委員會』(地方支部)を有つ。此の委員會は選擧人大會によつて選定され選擧機關の中堅を形成し國民の政治的能力は懸つて一に此の會に存するのであつたが、而も此の會は眞に未だ幼稚な狀態に在つた。只僅かにポーゼン及び西プロイセンの二三地方に於ける委員會のみが眞面目に仕事を爲し、選擧數週前に選擧人の會を開催するのみならず每年若くは半ヶ年每に選擧人大會を催し政治問題を論議して居た。他の多くの地方では組織立つた政治的行動は選擧が濟むと直ちに止んで了ひ、夫れに代つて騷々しいストラシュやソコルの會が催された。

波蘭の有識者は此の缺點を熟く承知して居た。それで例へば一九〇五年夏ポーゼン市で郡代表の會議があつた際郡に於ける運動の改善と向上とは政治的訓育の最も重要なる任務であると叫ばれた。各選擧區に於ては定期選擧人會を開催することは必要である、そして政治的市民的義務と權利とに就いて選擧人を組織的に敎へ、以て彼等をして盲目の群集として選擧に參加せしめないやうにしなければならぬ、されば選擧期日が切迫して始めて運動を開始するやうなことではいけない、左樣なことをするから群集は只無暗と熱狂するばかりである、それより改選期間の五年の間に最も平靜に運動を續く可きであるといふ意見が出た。

四つの區域(ポーゼン、東西プロイセン、シュレジヤ、『エミグラチオ』)には夫々上級選擧機關があつて、郡選擧委員會は各々一人の代表を此の機關に派遣して會議を催すことになつて居た。其の選擧機關は次のやうになつて居た。

第一、『ポーゼン大公國州選擧委員會』(所在地ポーゼン市)

第二、『西及東プロイセン州選擧委員會』(所在地トルン市)

第三、『シュレジヤ波蘭選擧委員會』(所在地カットウヰッツ市)

第四、『ウェストファーレン、ラインランド及隣接州中央選擧委員會』(所在地ボックム市)、此の他

に『伯林、ブランデンブルグ及隣接州政治委員會』(所在地伯林市)なるものが在つた。

是等の委員會は各々選擧區の爲めに候補者を立てる權能を有つて居た。但し豫め郡委員會(地方支部)は候補豫定者を推薦するのである。『郡』(地方)が『州』(上級)に對する隷屬關係は色々に發達し來つて、決して同樣ではなかつた。例へば西プロイセンに於ては其處の規定第十七條C項に基き各選擧區が二名以上の候補者を推薦し州委員會が其の中から一名を候補者名簿に登記した。ラインランド・ウェストファーレンの規定第六條には『候補者は郡委員會によつて推薦さる。但し公認候補者は中央委員會之を決定す』とある。

管轄爭ひを避け得なかつたことは容易に解る。例へば一九〇五年シュレジヤに於て『オッペルン區波蘭國民選擧委員會』なるものが出來た。此の會は上級の選擧本部の命令を拒み自主的に中央黨と握手したのであつた。一九〇五年一月クロトシン郡に於ける選擧人會は公認候補を拒否して一人の若い煽動家を表に上した。

是等の紛糾を解決し統一的な行動を可能ならしむる爲め一の最高選擧本部なるものを設ける必要があつた。其處で一九〇三年に長い討論の末『波蘭中央選擧委員會』(所在地ボーゼン市)なるものが成立した。

波蘭中央選擧委員會は、其の規則に明示して居る通り、『全波蘭人に對する最高選擧本部』であつた。同會は十一名の委員より成る。夫等の委員は上級選擧機關から選擧せられボーゼン州が四名、東西プロイセン州が三名、シュレジヤが二名を選出し、伯林とラインランド・ウェストファーレンとの委員會が各一名宛を送ることにした。

選擧は五年毎に行はれ、波蘭の全新聞には屢々且つ明瞭に候補者たるべき人物を擧げて書き立てるから幾分でも知識ある波蘭人は如何なる人を推さねばならぬかは良く分つた。

中央委員會の業務は左の通りであつた。

一、獨逸帝國議會及び普魯西州議會の各選擧前に各選擧區に於ける公認候補者の設定。

二、他の政黨との妥協。

三、選擧委員會と選擧人との間の爭議調停。

四、新聞其の他の手段により波蘭輿論及び他地方の輿論の指導感化。

中央委員會の決議は出席者の多數決によつて定められ、此の決議を實施することは全選擧委員會の義務である。

右に述べた制度の築き方は其の上層の部分は甚だ立派に設備されて居るが(之は波蘭人の特性で地位の高いところに向つて熱心であり興味を有する)廣汎なる其の基礎は不備なる點多く中には構造好

きな波蘭人の空想に於てのみ存在せるものも少くなかつた。其の結果は上級及び最高の委員會が空中に漂つて居るといふやうな實狀を呈したのである。

民衆が若し數十年前に貴族（シュラハタ）に遵つたやうに、其の上級なり最高なりの委員會の命令通りに從ひさへすれば右の事は何も缺點といふことにならないのであるが、都合の好い從順なる特性は最早や消えて了つた。尤も選擧直前に候補者問題が紛糾して而も緊急な場合選擧人は中央委員會の決定に從ふことはある。けれども波蘭最高部局の政治的勢力は之を以て盡きるのである。ライン・ウェストファーレンの波蘭人は十一人の中にたつた一人のウェストファーレン出の委員が存在する最高委員會に恭順しなければならぬなどとは些つとも考へて居なかつたし、上部シュレジヤの指導者達も中央委員會の決議を氣にかけなかつた。それのみでなくポーゼン州自らに於てすら委員會は眠り込んで居た。何となれば經濟的機關の指導者達は平時は政治的最高部局などよりも遙かに多くの事を爲たり云つたりせねばならぬので迚も委員會の方を構つては居られなかつたのである。斯樣な譯で選擧制度は紙の上では立派に出來上つて居たけれども、實際に於ては民衆の政治的訓育が足らぬといふか兎も角最も必要な基礎が甘く固つて居ない爲め其の自覺があり且つ必要を感じつゝも波蘭黨の眞の統一は未だ出來なかつたのである。

（五）其の他の機關

國民性爭鬪の武器としての其の他の機關には教育補助協會、婦人會、少年會等が屬する。

教育補助協會の中で最も古く且つ有名なのは例の『ポーゼン大公國修學子弟補助マルチンコウスキ協會』である。此の協會の起原や目的や業務に就いては第五章（三）に於て述べて置いた。本會が國民性爭鬪の武器であることを當時の政府は氣が付かなかつたのであるが初めの頃本會が國民性に何等の區別を設けず獨逸人の子弟に對しても補助を與へるやうなことを爲したからであつた。本會發生後約三十年ばかり經てから本會の目的は漸く露骨になり普魯西政府は始めて之に氣が付き協會は之を拒んだ爲め政府は從來與へ來つた國家の恩惠（郵稅無料）を撤回し、以後監視の眼を見張つた。

本會の發達は一歩々々進んで行つたけれども最初の四十年は極く緩漫であつて、一八八一年に漸く二千四百六十六名の會員が出來た。最近に及で急に發達し著しく盛になつた。それは學生が獨立した後賦拂で以て給費額を返納せしめ且つ各給費生は必ず後に會員になるといふ條件を附したなども大いに影響して居ることと思ふ。之が爲め給費生が獨立した後は死亡すれば仕方が無いけれどもさうでない限り資金を回收することが能き且つ會員と會費の數を增加し得たのである。本會の最近に於ける發達を示せば左の通りである。

年次	會員數	收入	基本金	給費額
一九〇〇年	四、四九八	七〇、八四一・五〇馬克	七八一、〇五六・三〇馬克	五六、四九九・五〇馬克

一九〇七年	六、一三二	九六、五一七・九二馬克	一、四八五、七三五・七八馬克
一九〇八年	六、五八八	一〇七、一〇七・七二同	一、五一四、七二〇・八三同

			八五、七二〇・七五馬克
			九四、二二三・五〇同

收入は會員の規定會費と寄附金募集、少額寄贈等、基本金の利子及び給費返還額とから成つて居る。基本金は大部分遺言寄附、及び比較的大規模な募集寄附金から成つてゐる。其等の中には一口で六萬七千とか六萬とか三萬二千四百馬克とかいふのもある代り又五十馬克などといふ小口のもある。

當初の給費は殆ど悉く高等の學校に行く生徒に對して行つて居たが、收入が殖えるに從つて國民的に價値のある階級に對しても給費し始めた。其の中多くは小學校教師（一八八〇年迄に約八百人を補助した）、中學校教師及び若い僧徒等であつた。其の次には醫師及び法律家等にも補助することになつた。最近三十年來は其の他藥劑師、化學家、工業技術者、建築家、獸醫等及び各種商工業者等の實務家にも補助を行つた。其の給費狀態は左の通りである。

一九〇〇年、高等專門學生二〇、八三〇馬克、實務就職者二三、三三八馬克、普通學校生徒二一、二八一・三〇馬克
一九〇七年、高等專門學生二六、四一五馬克、實務就職者三三、二〇五馬克、普通學校生徒二六、一〇〇・七五馬克
一九〇八年、高等專門學生三〇、九六五馬克、實務就職者三七、四一〇馬克、普通學校生徒二五、八四八・五〇馬克

右は總體の金額だけで其の內容が明瞭でないが、學生、生徒の中將來の獨立專門職業別にして見ると左の通りである。

專攻部門	一九〇六年	一九〇七年	一九〇八年
哲學及神學	一八	二五	二二
法律學	二三	一八	一六
醫學	三四	四五	五四
齒科醫學	六	一〇	一〇
獸醫學	二	二	二
藥學	二八	二九	二七
化學	七	三	三
農學	七	五	六
林學	五	一〇	九
鑛山學	二	二	四
土地測量	五	二	二
高等工業學校生徒	二〇	二九	二八
建築學校生徒	三三	三九	三一
商業學校生徒	二	二	三
工藝學校生徒	二五	二五	二七

美術學校生徒	四	二	三
古典中學校（ギムナジユム）、實業中學校	二六一	二五八	二三八
中學校	三二	四一	三八
合計	五一四	五四七	五二三

是等給費生の多くは下級社會出の子弟であつて一九〇八年の給費生を調べて見ると手工職人の子弟が九十一名、小農業者の子弟が九十六名、勞働者の子弟が二十三名、風琴手、書記、薄給傭人の子が百三十名であつた。

× ×

一九〇七年の春シュレジヤに『敎育補助協會』（ボモク・ナウコワ）なるものが創立された。其の創立者や指導者はマルチンコウスキ協會の世話になつた嘗ての給費生であつた。卽ち會長は代議士宣敎師のブランディス、會計係は代議士辯護士のジークムンド・スニイダであつた。此の協會もマルチンコウスキ協會に倣ひ給費返還の法や基本金の方法で事務を行つた。最初の年に二千二百六十馬克を給費生に支拂ひ二萬四千五百三十六馬克餘を基本金として集めることが能きた。一九〇八年には基本金が約二萬五千馬克、給費額四千五馬克、會員數百三十八名其の會費二千四百十一馬克六十片、基金利息一千二百四十馬克であつた。此の會は創業は猶ほ淺く大した事業も爲し得ないが將來發達の見込はあつた。但しマルチンコウスキ協會には僧侶の援助が隨分あつたけれども此の協會には其が缺げて居た。之は本會にとつて一大缺點であつた。

× ×

婦人に對する給費協會がポーゼンに存在して居た。『波蘭女子修學生敎育補助協會』と稱し一八七〇年にトルン市に設けられたものであつた。其の後ポーゼン市にも同性質の協會が出來、それから又後に此の兩協會はポーゼン市で合併した。此の協會は特に實務に就職せる娘に補助を與へたのであるが、又近代の學校敎育を受ける女學生に對する補助をも拒まなかつた。創立の年には僅かに四百六十一馬克の收入であつたのが一九〇〇年には一萬九百七十六馬克を受入れた。此の協會も基本金を有ち主として遺言寄附金及び收入殘金から成つて居た。一九〇七年には其の基本金が一萬七百五十四馬克十片となつて居た。會員は其の頃二千六百名位であつた。一九〇七年及び八年の業務は左の通りである。

年次	收入	支出	其の給費額
一九〇七年	二二、五三三・三八馬克	一二、四八一・六〇馬克	二、七一八馬克（高等專門學生二二、音樂學校一一、幼稚園保姆一一、簿記係一四、飾身具及裁縫女三一、化學者一、歯科女醫一、理髮師一、家政婦一八、其の他五、計一一五）

一九〇八年	二三、七九四・〇〇馬克	一二、三九六・〇〇馬克
		一一、二四七馬克
		（高等專門學生二〇、音樂學校一三、幼稚園保姆一六、簿記係一七、飾身具及裁縫女三六、化學者一、齒科女醫一、理髮師四、家政婦一、六其の他二、計一二五）

之に依ると收入の約半額を給費するのであるから其の殘額は大部分基本金に繰入れられる譯である。本會は基本金を增加してマルチンコウスキ協會の如く利息が總收入の半額を占むる迄に發達せしめやうとする努力が覗はれる。

× × × ×

マルチンコウスキ協會の目的は中流階級を造り出すにあるのであるから商業の方面に對しても充分の補助を提供しては居るが、商業家は、商業家で又自ら一の補助協會を創立した。即ち一九〇九年二月二十八日ブレッシェンに於ける商業組合同盟會議に於て全獨逸國を事業の範圍とする『同胞援助』協會（トワルチスツウォ・ポモク・ナウコウォ・クビエッカ）なるものが設立された。其の所在地はポーゼン市である。本會は商業學校に通ふ生徒及び模範的商家の見習に補助金を與へて商人としての完成を期するのを目的とした。本會の業務成績は不明であるが其が指導の位置に有力者例へば各種機關に關係して居るステファン・ツェギールスキや銀行家ホンチァなどが座つて居たから其の將來は確かに有望であつた。

× × × ×

右の外にポーゼン市には『國民圖書館協會』（トワルチスツウォ・チテルニ・ルドウェイ）といふのがあつた。之は一八八〇年に創立せられ各地に國民文庫を設置し、波蘭國民的圖書、主として歷史的及び文學的內容の書籍を能ふ限り多量に播布して國民精神の作興を圖るのが目的であつた。同會は非常に多數の文庫を設置した。そして其の最も熱心なる助長者は僧侶であつた。一九〇七年に於ける同會の收入は一萬七千九百八馬克四六片で、支出は二萬五千六百七十四馬克四〇片、一九〇八年には收入が二萬六千四百六十九馬克〇二片、支出が一萬九千百七十一馬克三〇片であつた。基本金は矢張り主として遺言寄附金及び紀念寄附金から成り、一九〇八年には五萬四千百七十五馬克、一九〇九年には七萬五千三百六十四馬克六九片あつた。

文庫の數は殆ど二千近くもあり、其の中主としてポーゼン州に多く孰れの郡にも無いところはなかつた。西プロイセン、シュレジャ其の他の土地には比較的少なかつた。本會への寄附は必ずしも獨逸國內ばかりからでなく一九〇八年にはガリチャから二千七百六十五馬克五〇片の收入があつた。其の他同年に『スタブレウスキ波蘭語學促進基金』への寄附金の中から八千餘馬克を本會の基本金に受入れ

たのなども注目すべきである。

本會支部の狀況は不明であるが二三地方支部の報告によつて大體を推すことにする。左記は一九〇九年夏の狀況である。

郡名	會員數	收入	文庫數	圖書貸出數
シュウエッツ	三九一	七三〇・四〇馬克	一九	六、四六〇
ミルドベルグ	六四三	約七〇〇・〇〇同	一二	〃
ポストロウオ	二〇一七	一五一三・二三同	三五	三〇、〇〇八
ホーエンザルツア	七四六	一一七〇・七〇同	二八	一一、〇六二

シルドベルグとかオストロウォとかいふ郡は經濟的に貧弱な郡であるに拘らず會員數も多く犧牲的精神の熾烈なことは右の數が物語つて居る。

× × × ×

それから猶はスタニスラウス・フォン・ツォルトウスキ給費基金といふのがあつた。之は大部分ツォルトウスキ一門の人々から集めた金で一九〇九年に一萬五千九百九十二馬克あつた。此の基金は農業子弟の教育に資することになつて居た。同樣のものにドクトル・マチマンスキ基金といふものがあつた之は手工業徒弟の補助に宛てられたのであるが其の内容は不明である。

× × × ×

婦人會のうちで有力なのは『職業婦人舊敎協會同盟』と『婦人啓蒙協會聯合』といふのがあつた。前者は僧侶の指導の下に立ち、カノニクス・アダムスキといふ有名な煽動家が之を指揮して居た。機關雜誌としては婦人雜誌(ガゼタ・ドラコビエト)といふのを有つて居た。一九〇九年の三月には十三の協會と四千六百二十三名の會員を有して居た。本同盟は經濟界に於て相當に認められ、疾病救助基金、遺族扶助基金、結婚準備基金等を有つて居た。一九〇八年の報告によると疾病者に一千五百九十六馬克、新婚者に五千六百四十馬克、死亡見舞金に八百四十馬克を支出して居る。本同盟は法律相談をも取扱つた。それからミシン機械などを廉價に頒布し、職業紹介も行つた。それで月々の會費が僅かに二十片(ペニヒ)であつた。

啓蒙協會聯合の方は未だ新しく發達もして居なかつたが其の目的は精神的婦人運動を廣め、既成婦人會を聯合するに在つた。機關雜誌には『聯合』(ツィェドノチェニ)といふのがあつた。一九〇九年末には十二の協會と一千二百三十七名の會員とを有して居た。

× × × ×

少年の結社は學校の訓育と相反するので公然とは成立しなかつたけれども、祕密裡には存在した。一九〇六年及び一九〇七年の小學校ストライキの如き其の反照でなければならぬ。少年自身には結社の能力がないから矢張り其の背後に在る父兄及び新聞の煽動に基くものである。然しストライキの如

きは臨時的性質を有つて居るものであるが永續的性質のものでは貧困な小學兒童より成る一錢貯金會といふものが(一八九九年設立)あつた。是等協會は一九〇八年秋に約四十在つた。

學校を出て手工業や其の他の職業に從事する下級の子弟の協會は素より存在した。是等十四歳乃至十八歳の少年は見習少年會といふものに結合したが一九〇九年には約二十五存在し皆僧侶の指導の下にあつた。同盟は其の時分未だ出來て居なかつた。既に一人前の徒弟となつた青年は舊教徒弟協會といふのに入つた。其の協會數は約二十であつた。是等は皆僧侶の指導に據つたのであるが、教會とは何等の緣を有たず純國民的基礎の上に波蘭青少年の團結といふことが叫ばれ始めたのは自然の數である。之は鄕土に於けるよりも寧ろ國外卽ち西方工業地方及び伯林附近の波蘭人の中から運動が始まるやうに見えた。其の萠芽は既に存在したが未だ大して意義ある行動にも出でなかつたから玆には畧して置く。

× × ×

波蘭人の機關は大體上に述べたやうなもので盡きる。但し經濟的機關のうち財政機關は重大でもあるし書くべきことも多いから別に章を更めて敍することにした。

(六)　中央の權力

信用組合や職業協會などから成る根底の上には、恰も波蘭人の『政府』とでも名けて良ささうな一團の人々が立つて居た。其は別に紙上の或は憲法に基くところの權利を有つて居る譯ではないけれども而も實際の權力を行使し、如何なる波蘭國民的事業も夫の『政府』によつて決議され奬勵され又は影響されることが無ければ、大したことを仕出來し得なかつたのである。

然らば誰が一體此の所謂政府員であるかといふことは從來敍し來つたところに依て概ね想像し得られる筈である。先づ第一には信用機關の最高指導者が夫である。例へば新しい銀行の設立に關するやうな重要な問題は『組合のバトロン』が其に對する意見を吐かなかつたらポーゼンに於てはどうしても決定することが能きないのである。彼は他の誰よりも經濟力を判斷し危險な行動を警戒するに於て最も豐富な知識と經驗とを有つて居たのである。彼に次で『政府』部內に勢力を有するのは中央銀行(バンク・ツウ井アック)の頭取及び商工銀行(バンク・ブルッェミスローコウ)の頭取であつた。

『農民協會のバトロン』も亦組合の人々の中で勢力を有して居た。有力なる機關は彼を先頭に押立て て進んで居たのであるから、どんな事業の達成にも『バトロン』を度外視する譯には行かなかつた。彼を補佐する者は副バトロンであつて、各自の區に於ける好成績をもつて互に競爭をして居た。農民協會に對し半分は之に競爭を爲し半分は之を保護するやうな立場に立つて居たのは例の上品な大地主中央協會であつた。其の總裁は同會內の特に經驗ある二三會員と共に農業の利益を擁護して居た。されば議會に於ける波蘭黨の如きは商業政策的問題に於ては常に大地主中央協會の意見を徵し、又波蘭重

農主義は、波蘭民主々義と必ずしも常に協調して行けるものではなかつたが、此の重農主義を代表するものは中央協會の幹部であつた。

實際の勢力から見て、此等の農業協會に續くものは未だ出來上つて間もない勞働協會であつた。即ち『ポーゼン・グネーゼン舊敎勞働協會同盟』の總裁、在ポーゼン『職業組合同盟』の總裁又は是等の同盟の理事等が勢力を有して居た。

此に反し『工業』(手工業)及商業協會の指導者達は餘り勢力を有つて居ない、之は夫等の人々の人格が世の中に認められず其の機關の勢力が弱くもあつたからである。彼等は素より勢力を得やうと努め漸次に第一流に上ることも不可能ではなく見えたけれども彼等の實際の權威は彼等が世に喧しく宣傳せる聲には相當しなかつたのである。

政治的の機關の中では『ストラシュ』と『ソコル』との幹部は相當に知られて居たには相違ないが、是等の人達の勢力を過大視してはならぬ。蓋し是等煽動協會の浮華輕佻なる事業は健實なる總ての運動を阻害するからである。例へばストラシュの總裁ヨゼフ・フォン・コスチールスキの事業は、獨逸人は之を波蘭人自身よりも眞面目に考へたけれども謂はゞ一種の横紙破りで、最も不適當な動機に於て評判を贏ち得んとし彼の頓智と悧巧な計畫とによつて波蘭人を寧ろ害ひ、彼の富と好意とによつて彼等を利することは却つて少なかつたのである。

其處でポーゼンに於ける所謂『政府』は左の人々から成つたのである

一、組合のパトロン
二、組合同盟銀行頭取
三、商工銀行頭取
四、農民協會パトロン
五、及六、二三殊勳ある副パトロン
七、大地主中央協會總裁
八、及九、勞働協會同盟の總裁及理事
一〇、ソコルの總裁
一一、ストラシュの總裁

右の人々に猶ほ高僧の肩書を有して居る二三の人達及び大なる富と國民的事業とによつて偉大なる社會的位置を獲得した貴族の人々が加はる。前者に屬する者は波蘭の副法敎師(ワーピンコフ)達及び波蘭人であつた場合には勿論大僧正もさうである。後者に屬するものは最近ではツォルトウスキ一門の二三の人々である。彼等は波蘭國民的事業に大なる功績を現はし、特に貴族領地の分割銀行(バンク・チームスキ、在ポーゼン・スボルカチームスカ)に於て大に働いた。

之に由つて見れば先づ十五名乃至二十名の人々が『政府』を形成して居たのであつて彼等は組織的機關又は宗教的權力又は大なる富力に據つて卓越せる地位を占め、一切の重大問題を諮議し其の問題決定の原動力となつたのである。

此が『政府』であつた。獨逸人は之を眼に認めることは能きなかつたが心に想望することは能きたのである。

舊獨領波蘭統治概觀　前編　終

大正十三年十二月一日印刷
大正十三年十二月五日發行

朝鮮總督府

京城府旭町二丁目拾番地
印刷所　京城印刷所

=5964

終